第十八類　交代

第三條　本島内ニ於ケル交代員及補充馬匹ノ鐵道輸送ニ關ヲテハ當該旅團長之カ計畫ヲ爲スヘシ

第四條　混成旅團長ハ鐵道輸送ヲ爲スニ當リ總督ノ認可ヲ受ケ停車場司令部ヲ設置スルヲトヲ得但停車場司令部職員ノ爲メ他旅團ノモノヲ以テ充ツルヲ要スルトキハ之ヲ總督ニ申出ツヘシ

第五條　混成旅團長ハ交代員及補充馬匹ノ行軍計畫其他交代ニ關スル要件ヲ定メ豫メ總督ニ報告スヘシ

第六條　混成旅團長要塞砲兵大隊長ハ所轄團隊交代結了後一箇月以内ニ左ノ事項ヲ總督ニ報告スヘシ

一　交代實施ト豫定計畫トノ差違

二　交代員行軍途中（歸還員ニ在テハ守備地出發ヨリ内地上陸迄）ニ於ケル人員ノ異動

三　本島内行軍途中ニ於ケル衛生ノ概況

四　本島内行軍途中ニ於ケル給養ノ概況

五　交代ニ關スル將來ノ意見

第七條　大隊（騎兵工兵ニ在テハ中隊）長ハ交代結了後一箇月以内ニ左ノ報告ヲ總督（混成旅團ニ屬スル諸隊ハ旅團長ヲ經テ）ニ差出スヘシ但シ所要ノ意見ヲ添附スルヲ要ス

一　派遣員携帶被服程度表（第一號樣式）

二　派遣員携帶兵器檢查表（第二號樣式）

三　歸還員携帶兵器檢查表（右ニ同シ）

四　派遣員（下士以下刑罰疾病調查表（第三號樣式）

派遣員中喇叭長諸工長喇叭手諸工卒等ニシテ修業全カラサル爲メ守備隊要員ニ適當セサル者アル時ハ同時ニ報告スヘシ

第八條　團隊長本細則ノ規定ニ隨ヒ職員ヲ派遣スル場合ニ於テ其旅行區域他旅管ニ亘ルモ總督ノ認可ヲ受クルヲ要セス

第二章　派遣

第九條　派遣員ハ本島上陸ノ時ヨリ所屬混成旅團長要塞砲兵大隊長ノ指揮ニ屬ス

第十條　混成旅團長ハ適宜ノ職員ヲ派遣員上陸地ニ差遣シ交代ニ關スル諸件ヲ派遣員引率者ニ指示セシムヘシ

第十一條　混成旅團長ハ派遣員所屬ノ守備隊附軍醫若クハ衞戍病院附軍醫ヲ上陸地ニ差遣シ派遣員上陸後ヨリ守備地到著迄ノ衞生事務ヲ取扱ハシムヘシ但上陸地附近ノ守備隊及上陸地ヨリ守備地迄鐵道輸送ヲ爲スヘキ部隊ニ對シテハ此限ニアラス

第三章　補充馬匹

第十二條　補充馬匹ノ交付ヲ受ケヘキ部隊ハ交代輸送配船計畫表ニ據リ受領員ヲ上陸地ニ派遣シ陸軍幕僚派出員ヨリ名簿ト共ニ馬匹ノ交付ヲ受クヘシ但上陸地ヨリ當該部隊所在

第十八類　交代

地ニ至ル間ハ騎兵若クハ野戰砲兵派遣員ヲシテ引率セシムヘシ

補充馬匹ト當該派遣部隊ト其輸送船ヲ異ニスル時ハ補充ヲ受クヘキ部隊ハ特ニ牽引者ヲ派遣スヘシ

第十三條　前條ニ揭クル受領員ハ所要ノ水勒ヲ携行スルヲ要ス

第四章　歸還

第十三條ノ二　各部團隊長ハ歸還セシムヘキ將校同相當官ノ官氏名ヲ部隊毎ニ調製シ毎年三月十五日迄ニ總督ニ內申スヘシ

第十四條　將校同相當官原所屬部隊所在地ニ轉職スル者ハ所屬守備隊ノ歸還員又ハ當該衛戍地ニ歸還スル守備隊歸還員ト共ニ歸還セシムヘシ

第十五條　混成旅團長要塞砲兵大隊長ハ交代輸送配船計畫表ニ基キ守備各部隊ニ屬スル歸還員ヲ原衛戍地毎ニ集成シ歸還隊ヲ編成シ之カ引率者ヲ命スヘシ

歸還部隊中引率者ニ充ツル者ナキ時ハ途中便宜ノ地迄他ノ歸還部隊引率者ヲシテ引率セシムルコトヲ得

第十六條　歸還隊引率者ハ出發前日迄ニ歸還隊人員表(第四號樣式)ヲ調製シ所屬團隊長ヲ經テ總督ニ差出スヘシ

第十七條　混成旅團長ハ歸還隊出發ニ際シ當該隊附若クハ衛戍病院附軍醫ヲ附屬セシメ歸還隊本島內行軍途中ノ衛生事務ヲ取扱ハシムヘシ但シ鐵道輸送ノ場合ニ在テハ此規定ニ關ヲス主要ナル停車場司令部ニ軍醫ヲ屬シ以テ歸還隊鐵道輸送中ノ衛生事務ヲ取扱ハシムルヲ得

第十八條　混成旅團ニ屬スル數箇ノ歸還隊同一輸送船ニ搭乘スル場合ニ在テハ混成旅團長ハ引率者中高級故參者ニ輸送指揮官ヲ命スヘシ要塞砲兵隊ニ在テハ亦之ニ準ス

所屬旅團ヲ異ニスル數箇ノ歸還隊若クハ混成旅團ニ屬スル歸還隊ト要塞砲兵大隊ニ屬スル歸還隊同一輸送船ニ搭乘スル時ハ引率者中高級故參者ハ命令ヲ待タス輸送指揮官タルヘキ者トス

第十九條　航海中輸送指揮官タルヘキ歸還隊引率者ハ混成旅團長ノ定メタル期日迄ニ乘船地ニ到著シ補給廠職員ニ協議シ乘船ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條　第十七條ニ依リ配屬セラレタル軍醫及要塞砲兵隊附軍醫ハ乘船地ニ於テ歸還隊輸送船乘組軍醫若クハ船長ニ歸還員健康證明書(第五號樣式)ヲ交付スヘシ

同條但シ書ノ場合ニアリテハ乘車前守備隊附軍醫健康證明書ヲ製シ乘船地附近ニアル停車場司令部附軍醫更ニ之ニ所要ノ意見ヲ附記シ前項ノ手續ヲナスモノトス

第二十一條　歸還員ハ內地ニ上陸ノ時ヨリ所屬混成旅團長要塞砲兵大隊長ノ指揮ヲ脫シ本屬長官ノ指揮ニ屬ス

第二十二條　歸還隊引率者(同一旅團ニ屬スル數箇ノ歸還隊同時ニ上陸シタルトキハ輸送指揮官)ハ歸還員上陸地ニ到著セハ直ニ其上陸ヲ所屬混成旅團長要塞砲兵大隊長ニ報告スヘシ

第十八類　交代

第十八類　交代

第二十三條　歸還隊引率者ハ歸還途中內地上陸迄ノ間歸還員ニ異動ヲ生シタル時ハ直ニ所屬混成旅團長要塞砲兵大隊長ニ報告スヘシ

第五章　患者

第二十四條　各衞戍病院（分院）長ハ歸還部隊ニ屬スル入院患者ヲ還送患者ト全治（事故）退院見込ノ者トニ區分シ豫メ所屬部隊長ニ通報スヘシ

第二十五條　還送患者ノ取扱ハ衞戍病院（分院）長之ニ任スヘシ

第二十六條　部隊長第二十四條ノ通報ヲ受ケタルトキハ左ノ處置ヲ爲スヘシ

一　還送患者ノ爲メニハ時服一揃ノ外外套小絨毯

二　歸還部隊ニ於テ携行スヘシ

第二十七條　歸還部隊出發後全治（事故）退院ノ見込アル患者ノ爲メニハ時服一揃ノ外外套小絨毯

二　繃帶一枚ヲ所屬部隊ニ殘置シ其他ノ被服武器等ハ所屬歸還部隊ニ於テ携行スヘシ

第二十八條　歸還隊出發ニ際シ一時疾病ノ爲メ入院スル者アルトキハ時服一揃ノ外外套小絨毯繃帶二枚ヲ常該病院ニ託シ其他ノ被服裝具竝武器ハ所屬部隊ニ於テ携行スヘシ

第二十九條　交代員本島內行軍途中ニ於テ疾病ノ爲メ入院スル者アリタルトキハ前條ノ手續ニ依リ取扱フヘシ但其引率者ハ所屬守備隊長ニ等級官姓名事由ヲ報告スヘシ

第三十條　第二十六條第二項第二十七條第二十八條ニ該當スル入院患者退院シタル時ハ便宜他部隊ニ附屬セシメ若クハ單獨歸還（派遣員ニ在テハ守備地ヘ向ケ出發）セシムヘシ

第三十一條　前條ニ依リ旅行スル者ニハ武器ヲ著帶セシメサル者トス

第三十二條　第二十七條第二十八條ニ該當スル入院患者還送ノ手續ヲ爲シタルトキハ本人所屬ノ被服（軍靴ヲ除ク）ハ當該衞戍病院ヨリ內地所屬隊ニ送付スヘシ

第三十三條　第二十六條第二十七條第二十八條ニ該當スル患者死亡シタルトキハ本人所屬ノ被服ハ前條ニ依リ取扱フヘシ

第六章　被告人及同關係者

第三十四條　歸還部隊ニ屬スル被告人及同關係者ニシテ審理中ノ者ハ宣告若クハ審理結了後便宜歸還セシムル者トス

第三十五條　宣告若クハ審理結了ノ後直ニ內地（歸還セシムヘキ者ノ取扱ハ左ノ區分ニ依ルヘシ）ニ在テハ臺北衞戍監獄長

一　收禁及留置者ニシテ無罪者又ハ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者ニ在テハ臺北衞戍監獄長

二　前項以外ノ者ニシテ軍法會議ニ召喚セラレ宣告若クハ審理結了ノ者（第一旅團基隆要塞砲兵大隊所屬ノ者ヲ除ク）ニ在テハ臺灣陸軍法官部長

第三十六條　被告人及同關係者ノ武器被服ハ本人著用ニ要スル者ノ外所屬歸還部隊ニ於テ携行スヘシ

第七章　囚徒

第三十七條　臺北衞戍監獄長ハ左ノ區分ニヨリ歸還部隊ニ屬スル囚徒ヲ當該衞戍監獄ニ移

第十八類　交代

送スヘシ

刑期三箇月以下ノ者　原所管師團司令部所在地衛戍監獄

刑期三箇月以上ノ者　明治三十五年陸達第二十七號ノ區分ニ基キ東京大阪若クハ小倉衛戍監獄ニ移送スル歩兵部隊ヲシテ押送セシムルモノトス

第三十七條　移送囚徒ハ受送監獄所在地ニ歸還スル歩兵部隊號官姓名及受送監獄名ヲ關係混成旅團長ニ其

第三十八條　臺北衛戍監獄長ハ移送囚徒ノ隊號官姓名ヲ臺北衛戍監獄長ニ通報スヘシ

人員ヲ基隆補給支廠長ニ通報スヘシ

第三十九條　混成旅團長前條ノ通報ヲ受ケタル時ハ押送ニ任スヘキ部隊ヲ指定シ其引率者ニ所要ノ命令ヲ與フヘシ

混成旅團長前項ノ引率者ヲ命シタル時ハ其職官姓名ヲ臺北衛戍監獄長ニ通報スヘシ

第四十條　囚徒押送ノ命ヲ受ケタル歸還部隊引率者ハ囚徒受領地ヨリ受送衛戍監獄迄囚徒押送ノ責ニ任スルモノトス

第四十一條　前條ノ引率者ハ囚徒受授ノ日時ヲ豫メ臺北衛戍監獄長ニ通報スヘシ

第四十二條　移送囚徒ノ受授地ハ左ノ區分ニ依ルヘシ

一　臺北屯在若クハ臺北通過ノ部隊ニ在テハ臺北衛戍監獄

二　基隆屯在ノ部隊ニ在テハ歩兵第一大隊屯營基隆寄倦ノ部隊ニ在テハ其隆補給支廠待合所

第四十三條　前條第二項ノ場合ニ於ケル臺北基隆間囚徒ノ押送ハ臺北衛戍監獄之ニ任スル者トス之カ爲メ押送者不足スル場合ニ在テハ衛戍監獄長所要ノ兵員ヲ混成第一旅團長ニ請求スルコトヲ得

第四十四條　臺北衛戍監獄長ハ受送監獄長ニ宛テタル書類物件ト共ニ囚徒ヲ歸還員引率者ニ交付スヘシ

第四十五條　歸還員引率者ハ前條ノ書類物件ト共ニ囚徒ヲ受送衛戍監獄長ニ引渡スヘシ

第四十六條　移送囚徒ノ著用被服（本人ニ支給ノ古服）ハ臺北衛戍監獄長ノ請求ニヨリ豫メ所屬部隊ヨリ之ヲ送付スヘシ

第四十七條　移送囚徒ニ屬スル被服武器等ハ本人所屬部隊ニ於テ携行スヘシ

第四十八條　押送中ニ滿刑トナル囚徒ハ滿刑ノ翌日午前十時迄ニ之ヲ解放シ爾後內地所屬隊若クハ途中便宜ノ地迄引率スヘシ

第四十九條　前條解放者ニハ武器ヲ著帶セシメサルモ妨ケナシ

第五十條　囚徒ノ押送ニ就テハ明治三十二年勅令第四百五號軍衙間囚人及刑事被告人押送規則ニ依ルヘシ

第八章　彈藥

第五十一條　交代員本島內行軍途中警備ノ爲メ彈藥ノ携行ヲ要スル場合ニ在テハ混成旅團長ハ兵器支廠（分廠）長ニ請求シ必要ノ員數ヲ交付セシムヘシ

第九章　宿營及給養

第十八類　交代

第十八類　交代

第五十二條　交代員本島内行軍途中ニ於ケル宿營ハ舍營ヲ爲スヲ例トス

幕隆ニ於ケル乘船上陸ヲ爲スヘキ混成第二旅團ノ交代員ハ設備ノ許ス限リ幕營ヲ撰用スヘシ

第五十三條　幕營ノ設備ハ混成旅團長ノ請求ニヨリ臺灣陸軍經理部ニ擔任スヘシ

第五十四條　派遣員本島上陸後及歸還員ノ給養ハ宿舍給養トス但幕營ヲ爲ス部隊ニ在テハ便宜他ノ方法ニ依ルコトヲ得

第十章　經理

第五十五條　部隊長ハ派遣員及歸還員中適當ノ職員ニ分任現金前渡官吏ノ分任官ヲ命シ該官吏ヨリ現金前渡ヲ受ケシメ派遣員上陸後又ハ歸還員歸還途中ニ係ル經費ノ仕拂ニ任セシムヘシ但要スレハ第十條ノ職員ニ分任現金前渡官吏ノ分任官ヲ命スルヲ得

第五十六條　分任官ハ守備地若クハ原衛戍地ニ到著後十日以内ニ決算ヲ結了シ該書類及仕拂殘金ヲ分任現金前渡官吏ニ送付スヘシ

第五十七條　分任官ハ守備地若クハ原衛戍地ニ到著後十日以内ニ決算ヲ結了シ該書類及仕拂殘金ヲ分任現金前渡官吏ニ送付スヘシ

第五十八條　歸還員引率者ニシテ分任官ノ資格ナキ場合ニ於ケル歸還員ノ旅費ハ各人ニ概算渡ヲ爲シ陸軍旅費規則第四表ノ定額内ヲ以テ實費支辨セシムヘシ

第五十九條　本島内ニ於ケル宿舍給養ヲ爲シタル時其旅費ハ附表第一ノ定額以内ニ於テ實費支辨スヘシ

第六十條　第二十四條第二項ニ該當スル者ノ旅費ハ本人所屬守備隊分任現金前渡官吏ノ支拂ニ屬ス

第六十一條　分任現金前渡官吏若クハ分任官ニ於テ旅費ニ差繼クヘキ糧食費ハ當該隊前渡金ノ内ヨリ交付ヲ受クル者トス

第六十二條　交代員本島内行軍途中ニ於テ入院シタル患者全治(事故)退院スル時ハ當該病院長ハ隊ノ當該守備隊長ニ旅費ノ送付ヲ請求スヘシ但該旅費ハ本人所屬ノ守備隊分任現金前渡官吏ノ支拂ニ屬ス

第六十三條　第二十四條第二項ニ該當スル者ノ旅費ハ本人所屬守備隊分任現金前渡官吏ノ支拂ニ屬ス

第六十四條　移送囚徒ノ諸給與ハ歸還員引率者ニ於テ一般歸還員ト同一ノ定額内ニ於テ實費支辨スヘシ第四十九條ニ該當スル囚徒ニ在テモ亦同シ但途中ニ於テ歸還部隊ノ指揮ヲ

支辨スヘシ

第六十條　交代員准士官以上及警外居上ヲ除ク本島内旅行中並ニ歸還員准士官以上及警外居住下士以下ヲ除ク内地旅行及航海中ハ左ノ區分ニ依リ定額糧食ヲ旅費ニ差繼クヘシ

一　派遣員ハ本島上陸安平ニ上陸スヘキモノニシテ船待ノ爲メ基隆ニ上陸スル時ノ如キハ安平前迄ハ本島ノ定額　賄料ハ標準額ニ依ルヘシ

二　歸還員本島守備地出發後乘船安平ニテ乘船セシモノニシテ船待ノ爲メ基隆ニ上陸セシ時ノ如キハ安平前迄ハ本島ノ定額　賄料ハ標準額ニ依ルヘシ

三　乘船後内地衛戍地ニ歸著迄ハ内地原衛戍地ノ定額ニ依ルヘシ

移送囚徒ニ係ル定額ハ給與令第十二表及本島給與規則細則第六表中力業ニ服セサル者ノ額ニ依リ囚徒費ノ支辨トス

第十八類　交代

脫スル者ニ在テハ其指揮ヲ離ルル地點ヨリ原隊迄ノ旅費ハ第五十八條ニ依リ若シハ單獨旅費ヲ歸還隊所屬ノ分任官ヨリ支給スヘシ

第六十五條　甲隊所屬ノ歸還員病氣其他ノ事故ニ依リ本隊ト同時ニ歸還セシメ難キ場合ニ於テ乙隊歸還員ト共ニ歸還セシメタル時ハ歸還ニ係ル諸給與ハ乙隊ニ於テスヘシ

第六十六條　削除

第六十七條　降雨等ノ爲メ著裝被服ノ乾燥ヲ要スルトキハ其薪炭代一名四錢以内ヲ以テ實費ヲ旅費ノ科目ヨリ仕拂フヘシ

第六十八條　旅行中引率官ノ事務室及風紀衛兵所廐舍等ヲ要スルトキハ一日一箇所ニ付左ノ金額ヲ標準トシ旅費ノ科目ヨリ仕拂フコトヲ得

一引率官事務室　一箇所　五十錢以内
一風紀衛兵所
一診斷所
一廐舍　一頭　十錢以内

第六十九條　本島内旅行中ノ馬糧ハ臺灣陸軍經理部及同派出所ニ就キ成規ノ傳票ヲ以テ現品ヲ受領スヘシ但止ムヲ得ス現品ヲ受領スル能ハサル場合ニ在テハ直購スルコトヲ得

第七十條　派遣員本島上陸後及歸還員ニ要スル筆紙墨郵便切手代等ハ守備隊ノ相當科目ヨリ支出スヘシ

第七十一條　鐵道輸送ヲ爲ストキ其賃金ハ即時仕拂フヘシ

第十一章　雜則

第七十二條　臨時補充ヲ要スルモノアルトキハ混成旅團長要塞砲兵大隊長ヨリ總督ニ申出ツヘシ

第七十三條　要員ノ臨時補充ニ關スルコトニ就テハ總テ本細則ニ依ルヘシ

第一號樣式（用紙半紙判）

明治三十五年度派遣員携帶被服程度表

原隊　何兵第何聯（大隊）
派遣人員　何百何十何名

守備何兵第何大（中）隊印

何月何日調

品目	一人携持數	携持總數		不良品
		甲	乙	
絨衣				
絨袴				
夏衣				
夏袴				

第十八類　交代

第十八類　交代

外套	襦袢袴下	短靴	備考
			一　本表ハ派遣員到著スル毎ニ可成速ニ其檢査ヲ爲シ交代結了ノ上取纏メ差出スモノトス
			二　本表ハ原隊ヲ異ニスル毎ニ各別葉ニ調製スヘシ
			三　不具品甲ハ一年間應用ニ堪ヘサル見込ノモノニシテ乙ハ一年間應用ニ堪ユルヤ否ヤ正確ノ見込立タサルモノトス
			四　本表指定品目ノ外特ニ報告ノ必要ヲ認ムルモノアルトキハ之ヲ備考ニ記シ置クモノトス

第二號樣式（用紙半紙判）

明治三十五年度派遣（歸還）員携帶兵器檢查表

携帶（備付）員數　銃　何百何十挺
　　刀　何　　振

何月何日調

守備何兵第何大（中）隊印

銃身	品目	破損紛失	不具合	摘要

村田銃							從屬						
屬品													
銃床	遊底	槓杖	銃身	劍鞘	口栓	轉螺器	洗矢	禿	負革	彈藥盒	帶革		

第十八類　交代

第十八類　交代

品		備考
刀	劍	
	差	
刀	隊備器具	
從屬品		

一　本表ハ歸還前及派遣後二週日以内ニ檢査シ交代結了ノ後取纏メ差出スモノトス但騎兵山砲兵及要塞砲兵隊ニ在テハ歸還時ノ分ノミトス

二　派遣時ニ於ケル檢査表中守備工兵中隊ニ在テハ原所管毎ニ各別葉ニ調製シ且ツ表名下ニ原所管ヲ明記シ置クモノトス

第三號樣式（用紙半紙）

守備何兵第何大（中）隊印

明治三十五年度派遣員（下士以下）刑罰疾病調査表

何月何日調

原隊號	犯罪	懲罰		疾病		守備中隊號	官姓名
	刑名	刑期	罰名	日數	等症	回數	日數		
步兵第一聯隊	逃亡	重二箇月	暴行	輕一箇月	酩酊不省事	輕二日	ク	ク	一等卒	何某
	暴行	重三箇月	ク	ク	法則ヲ遵奉セサル	重二日	二	二十六日	一	一等卒	何某
	盜	輕二箇月									
步兵第二聯隊	ク	ク	ク	ク	屯營ヲ離ル（訓導ノ途ヲ誤ル）	重三日	一	十日	三	伍長	何某
步兵第三聯隊	逃亡	重三箇月	ク	ク	ク	輕二日	一	一	四	二等卒	何某

備考

一　營倉ヲ禁足若クハ苦役ニ代ヘ處罰セラレタル者ニ在テハ營倉ノ日數ノミヲ記載スル者トス

二　輕營倉ニシテ三日未滿ノモノハ掲クルヲ要セス

三　騎兵工兵ニ在テハ守備中隊號ノ區畫ヲ除ク

第四號樣式（用紙半紙）

歸還隊人員表

何月何日何地出發
何月何日何地乘船（豫定）
何月何日何地上陸（豫定）

明治何年何月何日調

守備隊附職名
引率者　官姓名　印

第十八類　交代

第十八類　交代

守備隊號	原隊號	歸還地	將校同相當官	下士	兵卒	計
歩兵第何大隊第何中隊	歩兵第何聯隊	何地	(一) 六	(二) 一九	上 一五	一七
歩兵第何大隊第何中隊	歩兵第何聯隊	何地			三〇	
砲兵第何大隊第何中隊	砲兵第何聯隊	何地				
計						

備考

一　(一)ノ内第何大隊附軍醫一名ヲ含有ス　(二)ノ内第何大隊附看護長計手銃工長各一ヲ含有ス上等兵ノ内看護手一ヲ含有ス

二　本島内行軍ノ爲メ特ニ附屬セラレタル軍醫ノ官姓名ハ本欄ニ記載スヘシ

三　途中迄引率スヘキ者アル時ハ引率者ノ離レタル時ヨリ更ニ歸還地ニ至ル迄ノ引率者ノ官姓名ヲ本欄ニ記スヘシ

第五號樣式（用紙半紙判）

臺灣守備何兵第何大隊第何中隊歸還員健康證明書

一將校　名

一下士　名

一兵卒　名

右健康ヲ證明ス

右ノ外別記ノ人名ハ頭書ノ病症ニ依リ航海中診斷加療ヲ要スヘキモノトス

患者名簿

病名	病症ノ輕重	投藥處方	官氏名
慢性腸加答兒	一日二三回下痢ア リ	佗氏散〇五重曹三、〇瓦分三包一日量	陸軍歩兵上等兵何某

年月日　臺灣守備何兵第何大隊附官　氏名㊞

附表第一

第十八類　交代

交代旅費標準額

第一、第三旅團管區内

區分 / 階級	朝食料	晝食料	夕食料	宿舍料	途中茶代	計

准士官以上	三十錢	二十七錢	三十錢	壹圓
下士以下	十四錢	十二錢	十四錢	五十錢

第二、旅團管區内

准士官以上	三十五錢	三十錢	三十五錢	壹圓十五錢
下士以下	十六錢	十四錢	十六錢	八錢
			三錢	五十七錢

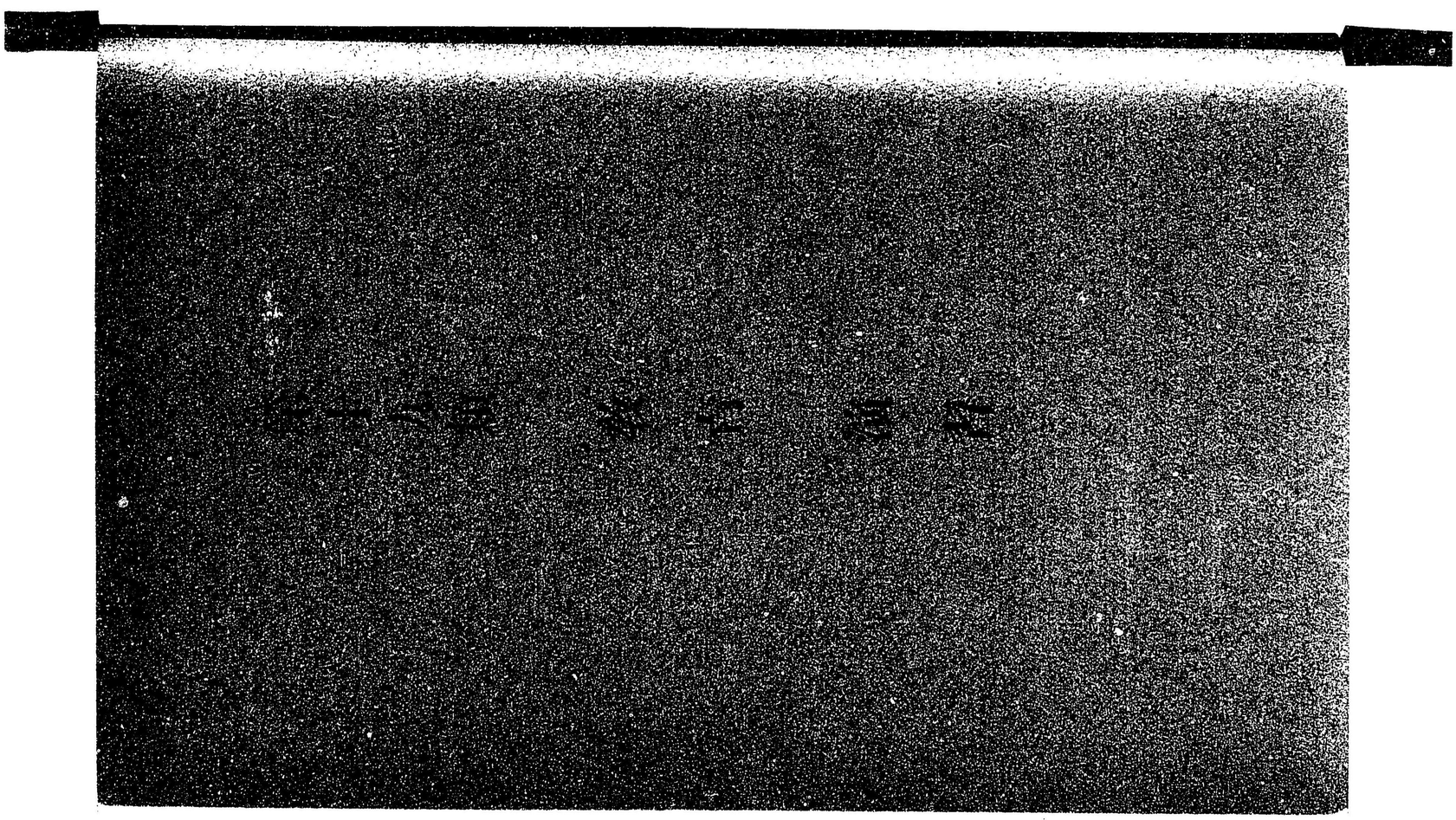
○交代申繼ニ關スル訓令　明治三十六年四月十三日 臺參乙第六九號總督訓令

守備隊交代ノ際ニ於ケル弊害ハ各團隊長ノ監督訓誡ノ宜ニ依リ大ニ改善セラレッツアリト雖モ交代要員ノ各守備地ニ到著スルヤ守備隊ハ直ニ之ト交代歸還ノ途ニ就カサルヲ得ス從テ交代ニ用フヘキ時間僅少ニシテ動モスレハ前任者ノ申繼粗漏ニ流レ後任者モ亦諸般ノ情況ヲ知悉セサル爲メ諸種ノ事項ヲ詳ニ問究スル能ハス早急交代ヲ了リ上官ノ特別示達諸般ノ例規ハ勿論被服陣營具圖書器具器材其他隊中備附諸物品破損紛失等ノアルヲ知ラス後ニ至リ其處置ニ苦ム如キモノ間々是レアリ且上官衙ニ於テモ同一事件ヲ交代毎ニ更ニ注意セサルヲ得サルコト勘ナシトセス各團隊長ハ業ニ既ニ右等ノ點ニ就キ部下ヲ誡飭シアルコト信スト雖モ尚一層申繼ヲ叮嚀懇切ニシ且ツ正確ニ實行セラルル方法ヲ定メ之ヲ本職ニ報

告スヘシ

○准士官以上病氣後送者ニシテ現職ニ堪ヘス若クハ發病後六箇月ニ至リ快復ノ兆ナキモノノ取扱ノ件　明治三十一年七月一日 臺陸副第七九號臺傳副官通牒

本島在勤准士官以上ニシテ依病後送廣島豫備病院ヘ收容後現職ニ堪ヘスト認ムル者若クハ發病後六箇月ニ至リ尚快復ノ兆ナキモノハ明治二十九年陸達第百五十九號ニ依リ當該病院長ヨリ第五師團長ヲ經テ陸軍大臣ニ申報有之然ル後本省ヨリ當府ヘ通牒ニ接シ更ニ旅團ニ移牒スル爲メ取扱ニ數多ノ時日ヲ要シ隊務上支障不尠ト被存候間右ハ廣島病院長ヨリ陸軍大臣ヘ申報ノ際師團長ヲ經由スルト同時ニ別ニ當人現所屬部隊ニ直接ニ病況書等回送相成樣第五師團參謀長ヘ及照會置候間爾後右場合ニ於テハ當幕僚ヨリ移牒ノ有無ニ拘ハラス直チニ轉職若クハ相當ノ處置方御稟申相成度此段爲念申進



○陸軍一年志願兵終末試驗綱領

明治三十六年六月十八日
軍參乙第一二六號總督訓令

本島各旅團ニ於ケル陸軍一年志願兵終末試驗ノ程度竝ニ方法ヲシテ略ヽ畫一ナラシメ併セテ內地ニ於ケル均衡ヲ得セシムル爲メ必要ヲ認メ玆ニ陸軍一年志願兵終末試驗綱領ヲ定ム混成旅團長宜シク之ニ基キ試驗格例ヲ定メ且次當該軍隊教育方針ノ一途ナラシムコトヲ期スヘシ

陸軍一年志願兵終末試驗綱領

一、一年志願兵ノ終末試驗ニ合格シタル者ハ現役見習士官ト概ネ同等ノ學識能力ヲ有セサルヘカラス故ニ其終末試驗ノ程度モ亦陸軍士官學校卒業試驗ト概ネ同等ナルヲ要ス

二、試驗ノ要旨ヤ能ク學術ノ意義ヲ明ニシ心裏ニ了解シ事ニ應シ實ニ施シテ誤ラサルノ能力アルヤ否ヤヲ試ミルニ在リテ態度、容儀、言辭等ニ注意スヘキモノトス蓋シ幹部タルノ適否ハ獨リ學識技能ノミニ止マラス其有形無形ノ品性モ亦大ナル關係ヲ有スレハナリ

三、問題ハ暗誦的答解ヲ避ケ成ルヘク啓發的應用ヲ主トシ筆記若ハ口頭ヲ以テ答解セシメシ而シテ其口頭ニ在リテハ問題ノ難易、意義ノ輕重ヲ慮リ反詰難問シ理解及自信力ノ幾深ヲ應用判斷ノ遲速及適否竝ニ言語明晰ナルヤ否ヤヲ試ミ又筆答ニ在

リテハ修辭屬文及圖畫ハ簡明ナルト否トヲ擧ケ筆跡ノ巧拙誤字、脫字ノ有無等ニ至ル迄審査スヘキモノトス

四、一定時間ニ於テ遺漏ナク課業ヲ完結スルノ習慣ハ戰時短少ノ時間ニ於テ機ヲ失セス能ク事ヲ處スルノ能力ヲ養成セシムルモノナリ故ニ問題ノ難易ニ應シ其答解時間ヲ適當ニ定メ此時間以外ニ渉ル答解ハ價値ナキモノトスヘシ

五、學術科ノ試驗成績ハ各科目ノ滿點ヲ二十點トシ五等ニ分チ左ノ評語ニ依リ之ヲ示シ而シテ概子中等以上ノ成績ヲ得タルモノヲ以テ合格者トス

最優等　二十點以下十七點迄
優等　十七點以下十三點迄
中等　十三點以下九點迄
劣等　九點以下五點迄
最劣等　五點以下零點迄

六、試驗科目ハ別表示ス所ヲ基準トス

陸軍一年志願兵終末試驗科目表

番號	科目	要目	摘要
1	歩兵操典	全	
2	野外要務令	第二部ヲ除ク外全部	小隊教練、野外勤務演習、射撃演習等ノ試驗ト同時ニ行フモ妨ケナシ
3	野戰築城教範	全部	歩兵科ニ必要ナル事項ヲ主トシ其他ハ概要ヲ修得セシムルヲ以テ足レリトス
4	交通教範	全部	
5	築營教範	全部	
6	歩兵射撃教範	全部	特ニ射撃ノ原理ヲ主トス
7	歩兵工作教範	3、4、5ノ諸教範中ニ於テ既ニ示サレアルモノハ之ヲ除キ其餘ノ事項ノミ	
8	軍制學	國制ト軍制トノ關係、將校ノ分限地位責任、平戰兩時編制ノ差異、現行平時編制徵兵法、服役法、補充法、召集法、陸軍刑罰賞典、平戰兩時經理等ノ大要	以上ノ要目ハ陸軍士官學校、教程ニ準據セルモノナリ而シテ各科目中必要ノ厚薄ニ應シ修得ノ深淺ヲ酌酌スヘシ
9	兵器學	現用各種白兵火兵彈丸火具等ノ名稱性質結構井ニ効用ノ大要	
10	地形學	山理、水理、地相等地形ノ義解地圖竝見解正測圖ノ要領	
11	衞生學	外營、兵業、行軍、兵衣、兵食、兵病等ニ關スル衞生ノ大要	

第十九類　教育　演習

12	戰術實施				凡ソ歩兵一中隊ノ兵力ヲ想定シ前哨若クハ戰闘（攻撃防禦）ヲ略圖ニ調製セシム
13	術科 小隊教練				
14	野外勤務演習				一小隊ノ實兵ヲ授ケ諸隊形ノ變換運動及行軍前哨若クハ戰闘ノ演習ヲ行ハシム
15	路上測圖				野外演習ト同時ニ施行
16	目算測圖				スルモ妨ケナシ
備考					

○演習教育檢閲ニ關スル報告事項一覽表送付ノ件

明治三十六年三月十一日
臺參乙第四六號臺庶參謀長通牒

演習教育檢閲ニ關スル報告事項一覽表及送附候間自今本表ニ依リ報告事項御取扱相成度此段及通牒

追テ明治三十五年四月旅團參謀、要塞砲兵大隊長會議ノ際ニ於テ同報告事項一覽表ハ自然廢止ノ儀ニ有之候間爲念申添

演習教育檢閱ニ關スル報告事項一覽表

種別	區分	報告事項	送達宛先	發送者	通數	進達期日	參照條規	摘要
秋季演習	1	混成旅團機動演習	演習計畫及日課豫定報告	教育總監	一	施行一ケ月前ニ到著	野外要務令第二部第百四十三條	
			演習實施報告	總督		結了後二十日以內ニ發送	野外要務令第二部第百四十七條	
	2		教育總監	混成旅團長				
	3	要塞砲兵實地教練	豫定報告	要塞砲兵大隊長	一	施行一ケ月前ニ到著		
	4		實施報告			結了後二十日以內ニ發送		
	5	特別演習	演習計畫及日課豫定報告	要塞司令官各旅團長	一	施行一ケ月前ニ到著		實施ニ於テ豫達ニ及ハス但特ニ必要ト認メシ教育總監
	6		演習實施報告			結了後二十日以內ニ發送		
幹部演習	7	混成旅團幹部演習旅行	計畫及日課豫定報告	混成旅團長	二	施行一ケ月前ニ到著	將校演習旅行條例細則第九條	一通ハ施行二進達ス
	8		技術成績報告			結了後六週日以內ニ到著	將校演習旅行條例細則第十一條	一通ハ施行二進達ス
	9	要塞幹部演習旅行	計畫及日課豫定報告	要塞司令官	二	施行一ケ月前ニ到著	將校演習旅行條例細則第十九條	一通ハ施行二進達ス
	10		技術成績報告			結了後五週日以內ニ到著	明治三十四年陸達第十二號陸軍勤務演習教令第三條及第二十四條	
勤務演習	11	各種勤務演習	召集期日報告	總督	一	二週日以前ニ到著	要塞砲兵大隊長ニ集期日ヲ命ス	
	12		演習成績報告	教育總監				
射撃演習	13	歩騎工兵射撃演習報告	總督	混成旅團長	一	施行一ケ月前ニ到著	明治三十四年陸達第十二號陸軍勤務演習教令第二十二、第二十三、第二十四條	
	14	守備砲兵臼砲中隊小銃射撃演習報告	教育總監			結了後五週日以內ニ發送		
	15	要塞砲兵小銃射撃演習報告	總督	要塞砲兵大隊長	一	交代結了後二十日以內ニ發送	要塞砲兵小銃射撃演習教令草案第十四	總督ハ交代結了ノ際教育總監ニ報告ス
守備砲兵射撃演習	16	守備砲兵射撃演習（山砲臼砲）	日課豫定報告	混成旅團長	一	施行一ケ月前ニ到著	野戰砲兵射撃教範第二百二十五	
	17		演習實施報告			交代結了後二十日以內ニ發送	野戰砲兵射撃教範草案第三百七十二	
要塞射撃演習	18	要塞射撃演習（砲艇）	演習日課豫定報告	混成旅團長	一	施行一ケ月前ニ到著	野戰砲兵射撃教範第二百二十三	
	19		演習實施報告	要塞砲兵大隊長		交代結了後二十日以內ニ發送	要塞砲兵射撃教範草案第三百七	
演習費	20	演習費配當一覽表	總督	混成旅團長要塞砲兵大隊長	一	三月盡日マテニ到著	明治三十三年十一月二十六日總督ノ訓示明治三十四年四月旅團參謀要塞大隊長會議錄（明治三十三年八月旅團長會議錄中ニ綴リアリ）	總督ハ四月中ニ達ス
教育	21	將校教育	一般年間豫定報告	總督	一	施行一ケ月前ニ到著	明治三十三年六月參謀長會議ノ際教育總監部參謀長ノ指示（明治三十三年八月旅團長會議錄中ニ綴リアリ）	總督ハ四月中ニ達ス
	22		實施報告	各團隊長		教育結了後一ケ月以內ニ發送		
	23	下士教育豫定實施比較明細表	總督	各歩兵大隊長	一	教育結了後一ケ月以內ニ發送	三十四年旅團參謀要塞大隊長會議錄	
	24	第二年度末長期下士候補生考科序列表	教育總監	混成旅團長	一	十二月中旬ニ到著	陸軍大臣ヨリ	
	25	仝	學術試驗成績表					
	26	一年志願兵教育成績報告	豫定實施比較明細表	總督	一	教育結了後一ケ月以內ニ發送	一年志願兵條例施行細則第十八條	
	27		成績報告	各團隊長				
	28	六週間現役兵教育	豫定實施比較明細表	總督	一	教育結了後一ケ月以內ニ發送		
	29		成績ニ關スル意見	各歩兵大隊長				
	30	軍役志願者一ケ年間教育成績竝ニ將來ニ關スル意見	成績報告	總督	一	交代結了後一ケ月以內ニ發送	將校團教育實施教令明治三十三年六月參謀長會議ノ際教育總監部參謀長ノ指示（仝年八月旅團長會議錄中ニ綴リアリ）	
	31	要塞砲兵觀測手、照準手、通信手列序表	總督	要塞砲兵大隊長	一	交代結了後一ケ月以內ニ發送		
檢閱	32	守備工騎砲兵隊長教育各期檢閱	豫定報告	總督	一	施行一ケ月前ニ到著	下士上等兵教育令第六十七條	
	33	要塞砲兵隊長期檢閱	實施成績報告	各團隊長		結了後二十日以內ニ發送	教育順次教令第二十九條	
	34	旅團長ノ教育定期檢閱	豫定報告	各隊長	一	施行一ケ月前ニ到著		
	35		實施成績報告			結了後二十日以內ニ發送		
	36	隨時檢閱	豫定報告	混成旅團長	一	施行一ケ月前ニ到著	臺灣守備混成旅團司令部條例第八條	
	37		實施成績報告			結了後二十日以內ニ發送		
雜	38	要塞砲兵大隊檢閱	教育演習開始計畫一覽表（育下士教）	總督	一	施行一ケ月前ニ到著		
	39	歩兵大隊教育各期檢閱一泊以上ヲ以テスル行軍演習	豫定報告	要塞砲兵大隊長	一	交代結了後一ケ月以內ニ到著		
		檢閱射撃戰鬪射撃其他臨時教育演習檢閱ニ關スル事項	總督	各團隊長	一	隨時		

備考

臺灣總督ハ表中單ニ總督ト記ス

20 ニ於ケル報告ハ配當豫算ト配當決算トノ二樣ニ分チ報告スルモノトス

23 26 28 ニ於ケル報告ハ豫定ト實施ノ差異ヲ知ルヲ以テ目的トスルカ故ニ確定ハ朱、實施ハ黑トスルカ如ク色別ヲ以テ一目對照ニ便ナル

陸軍大臣、教育總監及各兵監ニハ總テ總督ヲ經由シテ進達スヘキモノトス

19 ニ於ケル通數欄中第一、第二、第三、第四ト記シアルハ參照條規中ニ記載シアル報告種類ノ番號ナリ

演習教育檢閲ニ關スル報告事項一覽表

報告事項		進達先	發送者	通數	進達期日	參照條規	摘要
混成旅團機動演習	演習計畫及日課豫定報告	教育總監 總督	混成旅團長	一 一	施行一ヶ月前ニ到著	野外要務令第二部第百四十三條	
	演習實施報告	教育總監	混成旅團長	一	結了後二十日以內ニ發送	野外要務令第二部第百四十七條	
要塞砲兵實地教練	豫定報告	總督	要塞砲兵大隊長	一	施行一ヶ月前ニ到著		實施ニ於テ豫定ト差異ナキトキハ進達ニ及ハス但シ必要ト認ムルトキハ特ニ進達ヲ命スルコトアルヘシ
	實施報告	總督	要塞砲兵大隊長	一	結了後二十日以內ニ發送		
特別演習	演習計畫及日課豫定報告	總督	要塞司令官 各旅團長	一	施行一ヶ月前ニ到著		特ニ必要ト認ムルトキハ更ニ一通ヲ徵シ教育總監ニ進達スルコトアルヘシ
	演習實施報告	總督	要塞司令官 各旅團長	一	結了後二十日以內ニ發送		
混成旅團幹部演習旅行	計畫及日課豫定報告	總督	混成旅團長	二	施行一ヶ月前ニ到著	將校演習旅行條例細則第九條	一通ハ施行三週日以前ニ總督ヨリ教育總監ニ進達ス
	技倆成績報告	總督	混成旅團長	一	結了後五週日以內ニ到著	仝 將校演習旅行條例第十七條 細則第十一條	結了後六週日以內ニ總督ヨリ教育總監ニ進達ス
要塞幹部演習旅行	計畫及日課豫定報告	總督	要塞司令官	二	施行一ヶ月前ニ到著	將校演習旅行條例細則第十條	一通ハ施行三週日以前ニ總督ヨリ教育總監ニ進達ス
	技倆成績報告	總督	要塞司令官	一	結了後五週日以內ニ到著	仝 將校演習旅行條例第十九條 細則第十一條	結了後六週日以內ニ總督ヨリ教育總監ニ進達ス
各種勤務演習	召集期日報告	總督	混成旅團長	一	二週日以前ニ到著	明治三十四年陸達第十二號陸軍勤務演習敎令第三條及第二十四條	要塞砲兵大隊ニアリテハ總督ヨリ召集期日ヲ命スルモノトス
	演習成績報告	教育總監	混成旅團長	一	演習結了後二十日以內ニ發送	明治三十四年陸達第十二號陸軍勤務演習敎令第二十二、第二十三、第二十四條	總督ハ演習完結後一ヶ月以內ニ教育總監ニ報告ス
	演習成績報告	總督	要塞砲兵大隊長	一	演習結了後二十日以內ニ發送		
歩騎工兵射擊演習報告		教育總監	混成旅團長	一	交代結了後二十日以內ニ發送	歩兵射擊教範草案第百五十五 騎兵射擊教範草案第百五十 工兵射擊演習教令草案第十三	
守備砲兵臼砲中隊小銃射擊演習報告		教育總監	混成旅團長	一	交代結了後二十日以內ニ發送	要塞砲兵小銃射擊演習教令草案第十四	
要塞砲兵小銃射擊演習報告		總督	要塞砲兵大隊長	一	交代結了後二十日以內ニ發送	要塞砲兵小銃射擊演習教令草案第十四	總督ハ交代結了後一ヶ月以內ニ教育總監ニ進達ス
守備砲兵射擊演習（山砲 臼砲）	日課豫定報告	教育總監 總督	混成旅團長	一 一	施行一ヶ月前ニ到著	野戰砲兵射擊教範第二百二十三 要塞砲兵射擊教範草案第三百七十	
	演習實施報告	教育總監 陸軍大臣	混成旅團長	一 一	交代結了後二十日以內ニ發送	野戰砲兵射擊教範第二百二十五 要塞砲兵射擊教範草案第三百七十二	
要塞射擊演習（砲煩）	演習日課豫定報告	總督	要塞砲兵大隊長	二	施行一ヶ月前ニ到著	要塞射擊教範草案第三百七十	一通ハ施行二十日前ニ總督ヨリ教育總監ニ進達ス
	演習實施報告	總督	要塞砲兵大隊長	第一 二 第二 一 第三 二 第四 一	交代結了後二十日以內ニ發送	要塞射擊教範草案第三百七十二	總督ハ交代結了後一ヶ月以內ニ教育總監及陸軍大臣ニ進達ス
演習費配當一覽表		總督	混成旅團長 要塞砲兵大隊長	一	三月盡日マテニ到著	明治三十三年六月參謀長會議ノ際教育總監部參謀長ノ指示（明治三十三年八月旅團長會議錄中ニ綴リアリ）	總督ハ四月中旬マテニ教育總監ニ進達ス
將校教育	一箇年間豫定報告	總督	各團隊長	一	交代結了後一ヶ月以內ニ到著	明治三十三年十一月二十六日總督ノ訓示 明治三十四年四月旅團參謀要塞大隊長會議錄	成ルヘク一表ニ製シ閲覽ニ便ナルヲ要ス
	實施報告	教育總監 兵監	混成旅團長 要塞砲兵大隊長	一 一	交代結了後一ヶ月以內ニ發送	將校團教育實施教令 明治三十三年六月參謀長會議ノ際教育總監部參謀長ノ指示（仝年八月旅團長會議錄中ニ綴リアリ）	
下士教育豫定實施比較明細表		總督	要塞砲兵大隊長	一	交代結了後一ヶ月以內ニ發送		
第二第三年度末長期下士候補生考科序列表		教育總監				下士上等兵教育令第六十七條	明治三十三年八月旅團長會議錄中ノ協議ニ基キ當分實行セス
仝 學術試驗成績表		教育總監					
一年志願兵教育	豫定實施比較明細表	總督	各團隊長	一	教育結了後一ヶ月以內ニ發送		
	成績報告	陸軍大臣	混成旅團長	一	十二月中旬ニ到著	一年志願兵條例施行細則第十八條	
六週間現役兵教育	豫定實施比較明細表	總督	各歩兵大隊長	一	教育結了後一ヶ月以內ニ發送	三十四年旅團參謀要塞大隊長會議錄	混成旅團長ヲ經由シテ進達スルモノトス
	成績ニ關スル意見	總督	各歩兵大隊長	一	教育結了後一ヶ月以內ニ發送		
軍役志願者一ヶ年間教育成績竝ニ將來ニ關スル意見		總督	各歩兵大隊長	一	一月盡日マテニ到著		
要塞砲兵觀測手、照準手、通信手列序表		總督	要塞砲兵大隊長	一	檢查結了後三週日以內ニ發送	要塞砲兵射擊教範草案附錄第十	總督ハ教育總監ニ進達ス
守備騎砲工兵隊長 要塞砲兵隊長 教育各期檢閲	豫定報告	總督	各隊長	一	施行一ヶ月前ニ到著		守備騎砲工兵隊長ハ混成旅團長ヲ經由シテ進達スルモノトス
	實施成績報告	各兵監	各隊長	一	結了後二十日以內ニ發送	教育順次教令第二十九條	
旅團長ノ教育定期檢閲	豫定報告	總督	混成旅團長	一	施行一ヶ月前ニ到著		
	實施成績報告	總督	混成旅團長	一	結了後二十日以內ニ發送		
臨時檢閲	豫定報告	總督	混成旅團長	一	施行一ヶ月前ニ到著	臺灣守備混成旅團司令部條例第八條	
	實施成績報告	總督	混成旅團長	一	結了後二十日以內ニ發送		
要塞砲兵大隊演習ニ關スル一年間計畫一覽表（將校下士教育ヲ除ク）		總督	要塞砲兵大隊長	一	交代結了後一ヶ月以內ニ到著		項目、時日、回數、手段方法ノ大要等ノ閲覽ニ便ナル如ク一表ニ調製スルモノトス
歩兵大隊教育各期檢閲一泊以上ヲ以テスル行軍演習檢閲射擊戰鬪射擊其他臨時教育演習檢閲ニ關スル事項	豫定報告	總督	各團隊長	一	隨時		幕僚ヨリ視察員ヲ派遣シ得ル餘日ヲ見込ミテ報告スルヲ要ス 實施報告ハ必要ト認ムル時ニ限リ特ニ進達ヲ命ス

灣總督ハ表中單ニ總督ト記ス

ニ於ケル報告ハ配當豫算ト配當決算トノ二樣ニ分チ報告スルモノトス

20 28ニ於ケル報告ハ豫定ト實施ノ差異ヲ知ルヲ以テ目的トスルカ故ニ豫定ハ朱、實施ハ黑トスルカ如ク色別ヲ以テ一目對照ニ便ナル如ク調製スルヲ要ス

軍大臣、教育總監及各兵監ニハ總テ總督ヲ經由シテ進達スヘキモノトス

ニ於ケル通數欄中第一、第二、第三、第四ト記シアルハ參照條規中ニ記載シアル報告種類ノ番號ナリ

○軍隊教育ニ關スル訓示（明治三十三年十一月二十六日 總督訓示）

明治三十三年三月軍隊教育ニ關シ訓示セシ處ノ要領竝ニ本年三月參謀長ヲシテ說示セシメタル趣旨ニ據リ各官其意ヲ體シ熱心教育ニ從事シアルハ[illegible]信シテ疑ハサル處ナリ而シテ今回提出ノ教育書類ニ關スル[illegible]往々其要ヲ得サルモノアリ抑モ教育ノ効果ヲ收メント欲セハ茲ニ適當ナル標準ヲ設ケ以テ其實施ヲ勉ムルニ在リ豫定ナキ教育ハ方針ナキ船舶ト一般其歸著スル處ヲ知ラサルナリ故ニ各官ハ其權限ニ從ヒ之レカ豫定ヲ設ケ以テ其實施ヲ勉メ且ツ上官ハ常ニ其監視監督ヲ嚴ニシ諸般ノ教育能ク其豫定ノ如ク實施セラルルヤ否ヤニ注意スヘシ自今全島ノ教育ヲ齊一ノ程度ニ進歩セシムル爲メ其要領ヲ別紙ニ示ス各官[illegible]層注意ヲ加ヘ益々教育ノ進歩ヲ企圖スヘシ

（別紙）軍隊教育ニ關シ各官ノ規定スヘキ要項[illegible]

旅團長ノ規定スヘキ要項

一 教育順次教令ノ要旨ニ基キ本島ノ狀況竝ニ交代等ノ[illegible]ヲ顧慮シ各教育期ヲ區別ス[illegible]
假令ハ歩兵ニ在テハ第一期第二期第三期第四期（機動演習）ニ區別スルヲ要ス（他兵種之ニ準ス）而シテ第四期ハ各旅團トモ十二月ニ月ノ二箇月間トシ之ニ基キ其他ノ各期及各期ノ長短ハ各旅團ニ於テ適宜定ムヘシ

二 各期ニ配當スル學術科目及各期檢閲ノ時期ヲ規定スル[illegible]

三、旅團ニ於テ施行スヘキ將校教育ノ豫定竝ニ騎兵工兵中隊將校ノ教育方法ヲ定ムヘシ

一　各隊長ノ規定スヘキ要項

將校ノ教育ハ將校團長ノ責任タルヘキコトハ言ヲ待タサル處ナリ故ニ各將校團長ハ一箇年間ノ教育豫定ヲ規定スヘシ

二　下級幹部ノ教育ハ大隊長及各兵科隊長ニ於テ全體ノ方針科目ヲ定メ而シテ大隊ニ於テ何何ヲ教育シ何何ノ科目ヲ各中隊長ニ委任シテ教育セシムル等ノ規定ヲ設クヘシ

三　兵卒ノ教育ハ中隊長ノ責任タルコトヲ是亦言ヲ待タサル處ナレハ其豫定ヲ中隊長ニ於テ規定スヘシ

四　大隊中ノ中隊、小隊等某地ニ分屯スル大隊ニ在テハ將校下士等ノ教育ニ於テ自ラ特別ノ規定ヲ設クルノ必要アルヘシ然レトモ將校ノ教育將校團長ノ責任ナレハ此精神ヲ失フコトナキニ注意スヘシ

㊁學術科豫定表ニ就テノ件　明治三十三年十一月二十二日　參陸參第二二二號幕僚參謀長通牒

先般御呈出相成候各團隊ノ教育書類中往々要領ヲ得サルモノ有之一二ノ例ヲ擧タレハ將校下士等ノ教育ニ學術科トモ只其科目ヲ示スノミニシテ實行ノ時期竝ニ回數ヲ定メサルモノアリ又豫科學ヲ以テ將校教育豫定表ト云フモノアリ甚タシキハ教育ニ關スル規定一ツモナキモノアリ又兵棋圖上戰術ハ時期ヲ定メス施行スト云フモノアリ自今各隊長ニ於テ規定セラルル將校下士ノ學術科ハ各科目ニ就キ一箇年間ニ施行スヘキ時期ト回數トヲ豫定相成候事ハ申迄モナク必要ト存候間御參考マテ申進置

㊂檢閱竝演習豫定日割報告ノ件　明治三十四年七月十九日　參陸參第二二六號幕僚參謀長通牒

從來各團隊ニ於テ施行セシ檢閱竝演習ノ豫定日割ハ其都度御報告可相成筈ノ處往往報告漏ノ廉モ有之候ニ付自今右樣ノ事無之樣御注意相成度尚左記檢閱及演習豫定日割ハ報告到達後幕僚ヨリ視察員ヲ派遣シ得ル樣豫メ時日ヲ計算シ御報告相成度此段及御通報

一　旅團長隨時檢閱
二　各隊教育各期檢閱
三　幹部演習
四　野戰砲兵射擊演習
五　要塞砲兵射擊演習
六　機動演習
七　特別演習（騎兵長途行軍及架橋演習ノ類）

○軍役志願者教育教則　明治三十四年七月二十七日　總達第九號　總督達

第一條　軍役志願者教育ノ目的ハ軍隊教育順次教令ノ要旨ニ遵ヒ殊ニ心性ノ修養ヲ完フシ兵卒必要ノ任務ヲ修得セシムルニアリ

第二條　軍役志願者ハ國語ヲ以テ教育スルモノトス

第十九類　教育　演習

第十九類　教育　演習

第三條　軍役志願者ノ教育ハ中隊長其責ニ任ス

第四條　軍紀風紀ヲ支障ナキ限リハ彼等ノ風俗習慣ヲ紊リニ打破スヘカラス

第五條　初年ノ教育ハ別表ニ依ルヘシ但第二第三年ノ教育ハ一般兵卒ト共ニ齊シクス之ヲ行フ

第六條　軍役志願者ノ教育報告ハ一般兵卒ノモノト區別スヘシ

軍役志願者初年一箇年間教育順次表

學期	學術科目	學科目
第一期 十二月	體操	各箇教練
	射撃	國語勅諭讀法
	像行演習	各種兵ノ識別及其性能
上旬ヨリ	距離測量	隊編制ノ概要
	武官ノ階級及服制	
翌年	狹窄射撃	勳章ノ種類
一	軍隊内務書ノ摘要	

期	旬	銃劍術	野外演習
五月下旬迄			陸軍禮式刑法及懲罰令ノ摘要
第一期ノ課目 六月上旬ヨリ 二八月下旬迄	第一期ノ課目	部隊教練	武器器具被服裝具ノ名稱裝法及手入法
		衛兵勤務	野外要務令及射撃教範ノ摘要
	第一期ノ課目	赤十字條約ノ大意	
第二期ノ課目 九月上旬ヨリ 十一月下旬迄	第一第二期ノ課目	帝國國體ノ大要	
	一般兵卒ト合併教練		

備考　第二期以下ノ教育ニ在テハ各中隊ノ若干名ヲ合シ或ハ一般兵卒ト合シ教育スルヲ得

演習又ハ行軍ノ際ハ一般兵卒ト合シ教育スルヲ得

第一第二期ノ終リニ於テ大(中)隊長ハ檢閲ヲナスヘシ

○看護手代用員教育ノ件

明治三十一年一月十三日　陸乙第六二號陸軍大臣達

臺灣守備隊並臨時分遣隊ニ於テ看護手定員ニ缺員ヲ生シ若クハ臨時代員ヲ要スル場合ニ於

第十九類　教育　演習

キハ各隊兵卒中看護學教習ヲ了ヘタルモノヲシテ看護手代用員ニ充テ各部隊限リ看護勤務ヲ命スルコトヲ得但看護學教習人員及其方法ハ左ノ各項ニ據リ取扱フヘシ

第一　臺灣守備隊竝臨時分遣隊ニ在テハ一中隊ニ付二名以内ノ兵卒ヲ選拔シ三箇月間所在地衛戍病院ニ於テ看護學ヲ教習セシムルモノトス但其人員及時期ハ旅團軍醫部長之ヲ定メ旅團長ノ認可ヲ得テ各隊長ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル部隊長ハ部下ノ兵卒中適當ノ者ヲ選ヒ之ニ看護學教習ヲ命スルモノトス

第二　看護學教習ノ方法ハ概子明治二十一年陸達第二百四十一號陸軍看護學修業兵教育規定ニ準ス

○製圖器械等配布ノ件　明治二十九年九月九日　臺總軍發第一四三五號軍務局長通牒

今般三等三角及碎部測量用器具寫眞器械等別表ノ通各旅團ヘ配布候ニ付テハ勤務上ノ都合ヲ謀リ守備隊附青年將校及下士ニ諭シ一ハ以テ其教育ノ爲メ一ハ以テ在來不完全ナル地圖ヲ漸次改良スル爲メ各旅團司令部所在地ヲ中心トシ各混成守備管區内二萬分一地圖ノ調製ニ著手相成度尤モ消耗品ノ若干ハ別表ノ通現品ヲ以テ配布相成其他ノ費用ハ團隊經費ノ内ヨリ適宜御都合相成候樣致度（別表略ス）

○陸軍一年志願兵終末試驗評點方ノ件　明治二十七年六月十三日　臺參乙第一六九號臺總參謀長通牒

今般陸達第九十六號ヲ以テ一年志願兵終末試驗格例發布相成候ニ就テハ昨三十六年六月臺

參乙第一二六號ヲ以テ總督ヨリ訓令相成候陸軍一年志願兵終末試驗綱領第五項ハ自然陸達第九十六號一年志願兵終末試驗格例第四項ニ據ル儀ト御承知相成度

○体操教範中器械ノ構造當分ノ内

從來ノモノヲ使用ノ件　明治三十六年十二月二十四日　臺甲第九九六號教育總監部參謀長通牒

今般改正相成候体操教範中器械ノ構造ニ就テハ當分ノ内從來ノモノヲ使用シ漸ヲ以テ修正スル儀ト御承知相成度

○狹窄射撃用三十年式銃ノ各照尺

ニ應スル照準点ニ關スル件　明治三十六年十二月二十六日　臺甲第一〇一〇號教育總監部參謀長通牒

本年十二月ヨリ狹窄射撃ノ爲メ三十年式銃ヲ使用スヘキコトト相成候ニ就テハ現行射撃教範附錄ノ各照尺ニ應スル照準點ハ別表ニ據ル儀ト御承知相成度

別表

所用照尺	命中セシメントスル點ニ關シ照準點ノ位置
三〇〇米突	上方	三珊知米突
四〇〇	仝	一珊知米突
五〇〇	下方	二珊知米突

六〇〇	五珊知米突
七〇〇	九珊知米突
八〇〇	一四珊知米突
九〇〇	一九珊知米突
一〇〇〇	二五珊知米突
一一〇〇	三二珊知米突
一二〇〇	四〇珊知米突
一三〇〇	四八珊知米突
一四〇〇	五七珊知米突
一五〇〇	六七珊知米突

六〇〇	五珊知米突
七〇〇	九珊知米突
八〇〇	一四珊知米突
九〇〇	一九珊知米突
一〇〇〇	二五珊知米突
一一〇〇	三二珊知米突
一二〇〇	四〇珊知米突
一三〇〇	四八珊知米突
一四〇〇	五七珊知米突
一五〇〇	六七珊知米突

第二十類　運輸　交通

第二十類　運輸交通

○臺灣鐵道軍用輸送規定

明治三十五年四月十八日
總達第四號總督達

臺灣鐵道軍用輸送規定別冊ノ通定ム

（別冊）臺灣鐵道軍用輸送規定

第一條　軍用輸送ヲ實施セントスルトキハ發送官衙ヨリ發車停車場若クハ鐵道部ニ豫メ列車ノ準備ヲ請求スヘシ

第二條　軍用輸送ハ總テ軍事官衙ヨリ發行スル輸送券ヲ以テ輸送實施ノ證憑トナスヘシ

第三條　軍用輸送券ハ左ノ軍事官衙ニ於テ發行ス

一　陸軍幕僚

二　臺灣陸軍經理部

三　混成旅團司令部

第四條　軍用輸送券ニ依ル軍隊及軍需品ノ運賃ハ半額トシ前拂又ハ後拂ヲ以テ取扱フヘシ

第五條　軍人軍屬ノ輸送ニシテ輸送指揮官ヲ指定セサル場合ト雖モ旅行ノ目的ニヨリ實費ヲ以テ支辨スヘキモノハ軍用輸送ニ準シ取扱フモノトス

第六條　軍用輸送券ノ樣式ハ附表ノ如シ

（輸送券雛形略ス）

○補給廠ニ係ル輸送券ノ件　明治三十五年四月二十一日　臺參乙第五八號參謀參謀長通牒

明治三十五年四月十八日臺參乙第五七號ヲ以テ臺灣鐵道軍用輸送規定（明治三十五年四月十八日總達第四號）及送附候處補給廠ニ係ル輸送券ノ義ハ補給廠若クハ同支廠ニ於テ發行ノ事ト御承知相成度此段及通牒

○陸軍運輸部運輸規程細則　明治三十七年四月十日丙發第七五號陸軍運輸部本部

陸軍運輸部運輸規程細則別冊之通相定ム

陸軍運輸部運輸規程細則

第一條　本細則ハ陸軍運輸部運輸規程ノ條項ヲ實施スル爲メ細部ヲ規定スルモノナリ

第二條　運輸部ノ設ナキ地ニ於ケル揚陸搭載ノ取扱ハ信用アル請負人ニ命スルヲ例トス當該支部長ハ其方法ヲ定メ本部長ノ認可ヲ經テ請負人ト契約スヘシ

一　海上輸送

（イ）單獨乘船者

第三條　規程第八條乘船者ノ爲メニハ左ノ諸項ヲ明記シ乘船地運輸部ニ請求スヘキモノトス

一、第一項ノ爲メニハ所屬官姓名

二、第二項ノ爲メニハ其家長タル軍人軍屬（以下單ニ家長ト記ス）ノ所屬官姓名及當人ノ姓名幷ニ家長ト續合ヲ記シ小兒ニ在リテハ食餌ノ用否ヲ附記ス

三、第三項ノ爲メニハ當人ノ住所姓名

第四條　乘船者ハ凡テ官等身分ニ應シ船室ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、將校同相當官高等文官幷ニ其家族ハ上等（中等）

二、准士官同家族及將校生徒ハ中等（下等）

三、下士以下判任文官其他ノ軍屬家族僕婢宰領者ハ下等

第五條　前條ノ如キ規定スト雖モ左ニ列記スル場合ニ在リテハ運輸部ニ於テ適宜取捨スルコトアルヘシ

一、船室不足スルトキハ第一家族第二下級新參者ヨリ逐次船室ヲ繰下クルコト

二、前條第一、第二項家族ニシテ特ニ下級ノ船室ヲ希望スル者ハ之ヲ許可スルコト

三、家族ニシテ其服裝等上中等船客ニ伍スヘカラスト認ムル者ハ適宜下級船室ヲ指定スルコト

四、商船ニ在テハ船舶ノ景況ニヨリ特ニ船室ノ等級ヲ變更スルコト

第六條　家族ニシテ便乘シ得ル家長ニ對シ左記ノ續柄アルモノニ限ル

一　妻子其他直系親

二　傍系親ニシテ一家ニ居住シアルモノ

第七條　規程第八條第二項ノ從者人員及同條第三項ノ宰領者ニ就テハ左ノ規程ニ據リ各便乘ヲ許可スヘシ但シ特別ノ理由アリテ規定以外ノ從者ノ便乘ヲ請求スルモノアルトキハ許可ス

第二十類　運輸　交通

ルコトアルヘシ此場合ニ在テハ本部ヘ報告スヘシ

一　勅任官ハ從者　一名

二　奏任官ハ從者　一名

三　准士官ハ家族携帯者ニ限リ從者　一名

四　家族ノミ便乘スル場合ニ在テハ以上三項ニ準シ從者ヲ携行スルコトヲ得

五　輸送物品宰領者ハ現ニ物品ヲ宰領スルモノニ限ル

六　第一乃至第四項ノ從者ハ單獨便乘ヲ許サズ

第八條　乘船券ハ乘船者ノ上陸地點ヲ記入ス若シ途中乘換ヲ要スルトキハ初メ乘込タル船舶ノ終航點ヲ記入シ最終上陸點ハ其欄外ニ標記シ主任者之ニ認印スヘシ

第九條　一團ヲ爲スモノニ附與スル乘船券ニシテ悉皆姓名ヲ記入スルコト能ハサルトキハ之ヲ別紙ニ記載シ同乘船券ニ添付スヘシ但シ人員多數ニシテ別紙ニ記載シ乘船券ニ添付スルノ暇ナキトキハ乘船券ニ代ユルニ輸送券ヲ用ユルコトヲ得此場合ニ在テハ其輸送券ノ欄外ニ食料官(私)費ト朱書スルモノトス

第十條　規程第十條ノ證明書(以下單ニ證明書ト記ス)ヘハ乘船者ノ最初ニ上陸スヘキ地點ヲ記入スルヲ例トス故ニ途中乘換ヲ要スルカ又ハ公務ニヨリ一時上陸ヲ爲ストキハ其地ノ運輸部ニ於テ前ノ證明書ヘ上陸ヲ證明シタル後更ニ乘船ヲ證明シタル第二ノ證明書ヲ本人ニ交付スヘシ若シ乘換地ニ於テ上陸スルコトナク直ニ轉乘スルトキハ前ノ證明書ノ記事欄ニ其事項ヲ記入スルノミニシテ更ニ第二ノ證明書ヲ與スルコトナシ

第十一條　運輸部ノ設ケナキ地ニ於テ乘船スヘキモノハ最寄運輸部ニ請求シテ乘船券ヲ受クルモノトス然ルトキハ可成乘船期日ヲ請求書ニ明記スルヲ要ス但シ前文ノ手續ヲ履行スル暇ナキトキハ所屬長ノ証明ニヨリ乘船スルコトヲ得然ルトキハ最寄運輸部所在地ニ着港ノ際之ヲ届出乘船券ヲ請求スルモノトス

第十二條　前條但書ノ場合ニ於テハ着港地運輸部ハ船長ノ証言ニ據リ証明書ヲ與フルモノトス

第十三條　運輸部ノ設ナキ地ニ於テ上陸スル乘船者ハ其際乘船券及証明書ヲ船長ニ渡スモノトス船長ハ乘船券ヲ其揚陸地ノ請負者ニ交付シ證明書ハ最寄運輸部ニ呈出スヘシ同部ハ之ニ上陸ヲ證明シ本人ニ郵送スルモノトス

第十四條　前條ノ場合ニ於テ揚陸ノ請負者ハ船長ノ交付シタル乘船券ヲ添ヘ其賃金ヲ當該運輸部ニ請求スルモノトス但シ自費賄ナル便乘者ニ在テハ之ヲ本人ヨリ受領スヘキモノトス

第十五條　乘船後自己ノ都合ニテ不得止指定上陸地ヲ變更セントスルモノハ運輸部若クハ船長ノ承認ヲ得ルヲ要ス此場合ニ於テ上陸地ニ運輸部アラサルトキハ乘船券及證明書ノ取扱ハ第十三條ニ同シ

前文ノ上陸者ニシテ更ニ他ノ寄港地ヨリ乘船セントスルトキハ運輸部ノ許可ヲ受ク可シ此

第二十類　運輸　交通

場合ニ在テハ次ノ寄港地運輸部ニ於テ證明書ノ記事欄ヲ記入スルモノトス

第十六條　乘船者ハ手荷物ハ左記定量ノ以内タルヘシ但シ贅澤品ハ定量内ト雖モ運輸部ニ於テ取扱フヘカラス

一　赴任者將官ハ六十貫佐官ハ五十貫士官ハ四十貫准士官ハ三十貫下士以下ハ二十貫赴任外ノ旅行者ニアリテハ其二分ノ一トス

二　家族ヲ携行スルトキハ第一項定量ノ二倍家族ノミナレハ赴任者同樣ノ量目トス

三　定量以外ノ荷物携行ヲ請求スルモノアルトキハ不得止事情アルモノニ限リ許可スルコトアリ然ルトキハ之ヲ本部ニ報告スヘシ

四　前項定量外荷物ノ搭載揚陸費ハ其請負人ニ對シテ自辨トス

第十七條　臺灣ニ於ケル還送患者航送ノ取扱ハ基隆支部長之ニ任ス要スレハ衛生部員及材料ヲ本部ニ請求シ尚ホ必要ト認ムル時ハ臺灣陸軍軍醫部長ヨリ還送患者ノ員數及患者乘船地ノ豫報ヲ受ク

(ロ)　患者航送

第十八條　基隆支部長ハ臺灣陸軍軍醫部長ヨリ乘船數日前ニ病類別患者數ノ豫報ヲ受クルモノトス

第十九條　運輸部ハ最寄衛戍病(分)院長ヨリ乘船數日前ニ病類別患者數ノ豫報ヲ受クルモノトス

第二十條　運輸部ニ於テ前條ノ通報ヲ受クレハ搭船ニ關スル準備ヲナスヘシ但シ病院船ニアラサル船舶ニ患者ヲ搭載スルトキハ患者ノ病況ニ依リ二(一)等室ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二十一條　患者收容ノ爲メ船舶出帆スルトキハ其發船ヲ逐次收容地ノ運輸部(運輸部ナキトキハ衛戍病院)ニ電報スヘシ

第二十二條　出帆後事故ノ爲メ豫定ノ如ク收容地ニ到着シ能ハサルトキハ乘組高級軍醫ヨリ該地運輸部(運輸部ナキトキハ衛戍病院)及基隆支部ニ電報スヘシ

第二十三條　基隆支部ハ患者收容後其地發船ニ當リ病類人員(傷病輕重精神病將校下士卒ノ各人員)ノ區分ヲ本部ニ又患者ノ員數ヲ門司支部ニ電報シ其發船ヲ臺灣陸軍軍醫部ニ通報スヘシ本部ハ之ヲ廣島衛戍病院ニ通報ス

第二十四條　門司支部ハ前條船舶ノ其地發船ヲ本部ニ電報スヘシ

第二十五條　患者宇品ニ到着セハ之ヲ患者集合所ニ收容シ手當ノ上廣島衛戍病院ニ轉送スルモノトス

第二十六條　航送中死亡者アリシトキハ乘組高級軍醫ヨリ屍体並ニ死亡診斷書類等ヲ最寄運輸部ニ引渡シ全部ニ於テハ其所屬部隊ヘ病狀幷ニ死亡時刻ヲ急報シ該部隊ノ請求ニ應シ之ヲ處置スヘシ但情況万止ムヲ得ス捨置難キ場合ニ在リテハ水葬ヲ行フコトヲ得然ルトキハ其理由、水葬ノ位置幷ニ年月日時及葬儀(神聖ニシテ莊嚴ナルヲ要ス)ノ景況等ヲ詳記セル報告書ヲ作リ遺髮幷ニ死亡診斷書類等ト共ニ運輸部本部ニ差出シ本部ハ之ヲ死者ノ所

第二十類　運輸　交通

屬部隊ニ送付ス

第二十七條　運輸部ニ引取リタル屍体已ニ日數ヲ經過シ捨置キ難キモノニ在テハ前條ノ如ク急報ノ上陸軍埋葬規則ニ依リ火葬ニ其地名ヲ所屬部隊ヘ通報スヘシ

第二十八條　屍体取扱ニ關スル費用ハ死者所屬部隊ニ請求スヘシ

第二十九條　還送患者船内ニ於テ死亡セシ屍及傳染病者發生セシ時ハ乘組高級軍醫ヨリ之ヲ運輸部本部長及臺灣陸軍軍醫部長ニ電報スヘシ

第三十條　清國及韓國ヨリスル患者ノ航送方ハ概子前諸條ニ準シテ之ヲ施行ス

(ハ)　荷物輸送

第三十一條　海上輸送ニ於ケル物件ノ受授ハ搭載揚陸ノ費用ヲ荷主ニ於テ負擔スヘキ物件ニ在テハ本船ニ於テ受授スルヲ例トス但シ搭載揚陸ノ費用ヲ荷主ニ於テ負擔スヘキ物件ニ在テハ本船ニ於テ受授スルヲ例トス

第三十二條　補給品（臺灣陸軍經理部ニ於テ管理スル糧秣被服ヲ云フ）ノ輸送ニシテ接續船ノ都合ニ依リ一時基隆ニ揚陸ヲ要スルモノハ該地經理部派出所ニ引渡スモノトス

第三十三條　各部隊ニテ追送（規程第十四條ノ追送品ヲ除ク）還送諸品ノ海上輸送ヲ運輸部ニ請求スル場合ニ於テ揚陸地ヨリ屆先部隊迄陸送ヲ要スルモノニ在テハ運搬費支拂官衙名ヲ請求書ニ附記スヘキモノトス

第三十四條　前條ノ支拂官衙名ハ輸送券ヘ記入スヘシ

第三十五條　追送還送諸品中揚陸地ヨリ屆先キ部隊迄ノ輸送ハ揚陸地運輸部ニ於テ發送ノ取扱ヲナスヘシ而シテ該費用ハ請負人ヨリ請求書ヲ出サシメ之ヲ支拂官衙ニ送付スヘシ

但鐵道船舶等ニシテ陸軍ニ有利ナル契約アルモノハ可成之ヲ應用スルコトヲ力ムヘシ

第三十六條　酒保品ノ輸送ヲ要スルトキハ規程第十五條ニ依リ可成需用月ノ約三十日前運輸部本部長ニ請求（第一表書式ニ依リ）ヲナスヘキモノトス但シ現品ノ來着遲延シ需用月中ニ目的地ニ到着スル見込ナキ片ハ輸送ヲ行ハス

第三十七條　運輸部本部長ハ前條ノ請求ヲ受ケタル片ハ搭載地ノ運輸部ニ命シ取扱ハシムヘシ而シテ同部ニ於テハ搭載前之ヲ撿査スヘキモノトス

第三十八條　規程第十六條但書ニ據リ撿査スル場合ハ納品人若クハ宰領者ヲ立會セシメ其費用ハ受負人ノ支辨トス

第三十九條　運輸部ノ設ケナキ地ニシテ特約船ノ寄港スル横濱神戸長崎等ヨリ軍需品ヲ輸送セントスル片ハ左ノ諸項ニ據ルヘシ

一　發送官衙ハ其品目、梱數、容積、噸數（重量品ニ在テハ重量噸數）及積込期日ヲ記シタル輸送請求書ヲ定期船出帆日ノ約七日前迄ニ運輸部本部（長崎ニ在テハ門司支部）ニ着スル如ク發送スルヲ要ス

二　運輸部ニ於テハ荷物ノ多少ヲ顧慮シ差支ナキ片ハ前項ノ請求ヲ承諾ス然ルニハ品目梱數等ヲ輸送券ニ記入シ第二片以下ヲ發送官衙ニ送付ス

三　運輸部ニ於テハ前項ノ發送官衙期日品目梱數等ヲ請負人ニ通知ス

第二十類　運輸　交通

四　發送官衙ハ輸送券ト共ニ現品ヲ搭載地ニ於テ船長ノ指定スル船艙ニ積込ムモノトス

五　特約船ノ欠航延着ヲ知ルヤハ速ニ運輸部ヨリ發送官衙ニ通知ス

六　積込ニ要スル費用ハ發送官衙ノ負担トス

七　揚陸ハ運輸部ニ於テ請負人ニ命シテ之ヲ行ヒ受領官衙迄送付ス而シテ其費用ハ受領官衙ヨリ請負人ニ支拂フモノトス

八　特別ノ理由アリテ搭載揚陸ノ費用ヲ運輸部ニ於テ負担セサルヘカラサルモノアルヤハ發送官衙ヨリ特ニ運輸部本部ニ照會スルヲ要ス

（ニ）輕便鐵道輸送ヘ

第四十條　輕便鐵道輸送ハ軍需品ノ輸送ヲ以テ目的トス但シ軍需品輸送ニ差障ナキトキハ公衆ノ願ニ依リ臺車ヲ貸與ス

第四十一條　支部長ハ輕便鐵道ノ使用並ニ保存ノ責ニ任ス而シテ本細則ニ基キ必要ノ規則ヲ設クヘキモノトス

第四十二條　臺車ノ積載量ハ通常八十貫目トシ平坦路ハ二人坂路ハ三人押ヲ以テ基準トス但シ各地ノ狀況ニ依リ百二十貫目迄積載スルコトヲ得又百貫目ヲ超過セサル限リハ宰領者ヲ同乘セシムルモ妨ナシ

第四十三條　軍需品輸送ニ當テハ臺車十五輛以内ニ一名其以上ニ二名ノ取締人ヲ附シ途中ノ監視ヲナサシムルモノトス

第四十四條　軍需品ノ輸送ニハ輕便鐵道輸送券（第二表）ヲ使用ス此ノ輸送券ハ本部ニ於テ製作ス

第四十五條　各部隊ニ於テ軍需品ノ輸送ヲ依托セントスルトキハ最寄運輸部ニ請求スルモノトス而シテ現品ノ受授ハ停車場ニ於テスルヲ例トス

第四十六條　運輸部所在地ニシテ經理部官衙ノ設ケナキ場合ニ於ケル補給品ノ依托輸送（各部隊發送ノモノ共）ハ現品發送ノ上速ニ請負人ヨリ運搬費證書ヲ徴シ其月盡日（月末ニ運搬シタルモノハ翌月盡日）迄ニ發送元ナル經理部官衙（發送者他ノ部隊ナルヤハ其補給ニ任スル經理部官衙）ニ送付スヘシ其他ノ依托品ニ在テモ之レニ準シ取扱フモノトス

第四十七條　公衆ヨリ臺車貸下ヲ出張所若クハ停車場ニ出願スルヤハ臺車ノ番號其他後來參考トナルヘキ要件ヲ臺車貸下簿ニ記入シ臺車貸與證（第三表）ヲ下附ス此貸與證ハ本部ニ於テ製作ス

第四十八條　前條ノ出願者ハ臺車貸與證ヲ請負人ニ示シ貸下料ト後押人夫賃ヲ仕拂ヒ臺車ヲ使用スルモノトス

第四十九條　臺車貸下使用料ハ一哩毎ニ一人押一臺金壹錢五厘二人押同金貳錢二臺接續車ハ同金五錢トシ後押人夫賃ハ一哩參錢乃至四錢ノ範圍内ニ於テ各支部ニテ規定スヘシ但一哩以下ノ端數ハ一哩トス

第五十條　規程附表ノ定量以内ニシテ部隊長ヨリ照會アル酒保品ノ輸送ニハ臺車貸下使用

料ヲ徴収セス

第五十一條　各支部長ハ信用アル者ヲ撰ミ臺車後押人夫ノ供給ヲ請負ハシムルヲ爲メ其人名及原籍（寄留者ハ尚其寄留地）幷ニ其請負ハシムベキ場所名ト契約書ノ案文（附錄第二）トヲ添ヘ契約期限一ケ月前ニ臺灣陸軍經理部長ニ交付シ此契約ヲ委任スヘシ但シ契約期限内ニ於テ之ヲ解除シ又ハ更ニ契約ヲナサントスルトキモ亦同シ

第五十二條　臺車貸下使用料ハ毎月請負人ヨリ徴シテ之ヲ納セシムヘシ其手續ハ附錄第二ニ據ルヘシ

第一表

守備何兵第何大隊何中隊何地分遣隊何月分酒保品數量表　自何地至何地

品種名	員數	梱包數量	目	納品人住所姓名
清酒	何樽	二	五二〇〇〇	
麥酒	何本	一	二二〇〇〇	
煙草	何個		一五〇〇〇	
齒磨粉	何個			
半紙	何枚			
魚罐詰	何個		五	五〇〇〇
茶	何斤		三	三六〇〇〇
菓子	何個（斤）		一	一五〇〇〇
何々				
計			一三	一九〇〇〇

注意

一　本表ハ一ケ月毎ニ調製スルモノトス

二　本表ハ隊用罫紙ヲ用ヒ酒保委員ノ檢印ヲ捺スルヲ要ス

三　酒保品中揚陸地以外ニ駐屯スル各隊ノ爲メニ陸送ヲ要スルトキハ搭載地ヨリ各隊所在地迄宰領者ヲ附セサルトキハ揚陸地ニ於テ處辨スヘキモノノ住所姓名ヲ明記スルヲ要ス

四　品種名ハ詳記スルヲ要スルモ品種ノ固有名稱ノミヲ用ユヘカラス例ヘハ清酒ニシテ白鹿、正宗、花嫁等ノ名稱アルモ單ニ清酒ト記シ齒磨粉ニシテ「ライオン」「ダイヤモンド」等ナルモ單ニ齒磨粉ト記スルヲ要ス

第二表

一八控トシ二一八人夫請負者ニ三一八到着點ニ四一八受領證トス

第　號	輕便鐵道	軍需品輸送券	明治　年　發着及　自　至
品目	員數	數量	車數
	人員	單價	計
			摘要

△印ハ朱書

第　號	輕便鐵道	軍需品輸送券	明治　年　發着及　自　至
品目	員數	數量	車數
	人員	單價	計
			摘要

印

（三）

品目	員數	量	車數	人員	單價	計	摘要

軍需品輸送券

第　號

明治　年　月　日　發着及所用隊號　自　至

軍便鐵道

（四）

品目	員數	量	車數	人員	單價	計	摘要

右輸送用　差出ヘシ

明治　年　月　日

陸軍運輸部

何支部
何出張所
何停車場

印

右送附候ニ付受領濟ノ上ハ別紙ヘ署名捺印之上返戻相成度候也

明治　年　月　日

御中

陸軍運輸部
△何支部
△何出張所
△何停車場　印

（四）

第　號ヲ以テ送附相成候軍需品正ニ受領候也

明治　年　月　日

御中

△何部隊　印

二　表　　寸　　三　　寸

自　臺車貸下使用料金　錢
至　△第三着地停車場員　印　後押人夫請負賃金　錢

輕便鐵道　**臺車貸與證**

陸軍運輸部本部之印

△第二精算者金錢受領　印
△第一發車地取扱者　印
△第四歸還ノ上臺車受領者　印

明治三十　年　月　日

一此證ニ記載セル諸件及停車場ニ掲示シアル諸規則ハ堅ク遵守スヘシ

二此證ハ到着停車場ニ差出スヘシ

臺車借用者心得

一軍需品及郵便物ヲ搭載セシ貨車ニ出會若クハ追

裏

及セシトキハ總テ外避スヘシ

二同數ノ臺車相會スルトキハ奇數日ハ下リ車偶數日ハ上リ車外避スヘシ但シ北行ヲ上リトス

三貨車相會スルトキハ少數ノモノ外避スヘシ

附錄

第一輕便鐵道臺車後押人夫使用手續

支部長ハ信用アル者ヲ撰ミ臺車後押人夫ノ供給請負ノ契約ヲ臺灣陸軍經理部長ニ委任シ常ニ軍需品ノ輸送ニ支障ナカラシムヘシ其契約書案左ノ如シ

陸軍運輸部輕便鐵道臺車後押人夫供給請負契約書案

明治　年　月　日臺灣陸軍經理部長某ハ何府(縣)何市(郡)何町(村)何番地當時臺灣何廳何街(庄)何番戸寄留某ニ陸軍運輸部何支部管內輕便鐵道何所(場)ノ臺車後押人夫供給ヲ請負ハシムルニ付左ノ條款ヲ約定ス

第一條　請負人ハ明治　年　月　日ヨリ　年　月　日迄ノ何月間陸軍運輸部何支部ニ對シ軍需品輸送ニ要スル輕便鐵道臺車後押人夫ヲ供給シ併セテ臺車借用者ノ請求ニ對シ其所要ノ後押人夫ヲ供給スルノ義務ヲ負フ

第二條　請負人ハ前條ノ契約期內當該支部出張所停車場ニ本人若ハ代理人詰切リ本契約ノ履行ニ從事スヘシ

但シ請負人ハ自費ヲ以テ詰所ヲ設クヘシ

請負人又ハ其ノ代理人ハ本契約ノ履行ニ付當該支部出張所停車場員ノ指圖ヲ受クルモノトス

第三條　軍需品輸送ニ要スル臺車後押人夫ノ需用員數供給日時及場所ハ其都度當該支部出張所停車場ニ於テ之ヲ指定スルモノトス

但シ一回ノ供給人員ハ特ニ指定スル場合ノ外臺中、葫蘆墩ハ二百人三叉河、斗六ハ百五十人其他ハ百人ヲ超ユルコトナシ

第四條　請負人ハ前條ノ指定ニ從ヒ確實ニ人夫ヲ集合シ之ヲ掛官ニ引渡スヘシ但シ三十人毎ニ取締一名ヲ付スヘキモノトス

前項ノ人夫ハ身体強壯ニシテ拾五貫目以上ノ荷物ヲ持チ運ヒ得ルノ力量ヲ有シ且ツ四拾貫積載臺車ヲ運行シ得ルモノニ限ル

第五條　請負人ハ人夫カ萬事掛官ノ指揮監督ニ從ヒ正直勤勉ヲ旨トシ臺車運行ニ係ハル必要ナル規定ヲ守リ勞役ニ服スルコトニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第六條　請負人ハ當該支部、出張所、停車場ノ指定スル人夫ノ員數ヲ充足セス若ハ供給日時ヲ遲延シタルニ依リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任ス

第七條　不可抗力ニ依リ指定ノ日時ニ人夫ノ供給ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ速カニ其事由ヲ證明シ相當ノ延期ヲ請フヘキハ場合ニ依リ延期ヲ承諾スルコトアルヘシ

第八條　請負人ハ當支部出張所停車場ニ於テ下付シタル臺車貸與證ヲ所持スルモノヨリ借用臺車ノ後押人夫ヲ請求セラレタルトキハ遲滯ナク所要ノ人員ヲ供給スヘシ

第九條　請負人ハ人夫若ハ人夫取締カ故意又ハ過失ニヨリ臺車貨物ヲ毀損シタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第十條　人夫供給請負ニ對スル請負賃金ハ壹哩金何錢ノ割合トス前項賃金ノ外假令如何ナル事由ニ基因スルモ人夫ノ死傷ニ付キ別ニ手當ヲ給セサルモノトス

第十一條　請負人ハ前條請負賃金金額ノ一割五分以內ヲ引キ去リ其他ヲ人夫ノ賃金トシ二日以內ニ拂渡スヘキモノトス

但シ人夫ノ食事ハ總テ各自ノ自辨トス

第十二條　請負賃金ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ當該支部出張所停車場ニ請求書ヲ差出スヘシ然ルトキハ速カニ仕拂官衙ニ送付スルモノトス

但シ臺車借用者ニ人夫ヲ供給シタル賃金ハ其本人ヨリ直ニ之ヲ受領スヘシ

第十三條　請負人ハ臺車借用者ヨリ前條但書ノ賃金ト同時ニ臺車貸下使用料每一哩一人押壹錢五厘ニ人押貳錢二臺接續五錢（一哩以下ノ端數ハ一哩ニ算ス）ヲ受領シ臺車貸下使用料收納取扱手續ニ依リ之ヲ上納スヘシ

第十四條　請負人ハ此契約ニ對シ契約保證金トシテ各地貸下使用料前年度一ケ年ノ平均額ノ約二ケ月以上ヲ納ムヘシ

前項保證金ハ公債證書ニテ納ムルトキハ其價格ハ額面ニ依ル但シ保證金ヲ以テ違約償金ニ充ツル場合ニ在テハ時價ヲ以テ計算スルモノトス

契約保證金ニ充テル現金若ハ公債證書ノ保管證書ハ當該支部ニ保管シ其領收證書ヲ交付シ置キ契約ノ履行濟又ハ解除ニ至リ保證金ノ還付ヲ要スルトキハ領收證書ト引換ニ拂戻裏書ヲナシ請負人ニ交付スルモノトス

第十五條　請負人本約定ヲ確實ニ履行セサルトキハ違約金トシテ契約保證金ノ一部若ハ全部ヲ官ノ所得トスルノ外尙損害ヲ賠償セシメ且契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第十六條　前條ノ外當該支部ニ於テ請負人カ契約履行ニ堪ヘサルカ又ハ不誠實ノ所爲アリト認ムル時ハ何時ニテモ此契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第十七條　契約期限內ニ法令規則ノ改廢其他豫知スヘカラサル事故ニ基因シ其需用數ヲ減シ又ハ全ク不用トカリタルトキハ其約定ノ人數ヲ減少中止或ハ延期若ハ契約ヲ解除スルコトアルヘシ但此場合ニ在テハ其趣ヲ速カニ請負人ニ通報スルモノトス

第十八條　保證人ハ請負人ノ死亡又ハ行衞不明其他ノ事故ニ依リ第六條第九條第十三條第十五條ノ義務ヲ果ス能ハサルトキハ直ニ之ニ代リテ其義務ヲ負擔スルモノトス

第十九條　請負人ニ於テ不得止事ニヨリ此契約ノ解除ヲ請願セントスルトキハ少クモ一ケ

第二十類　運輸　交通

月前ニ支部長ニ願出ツヘシ正當ノ理由アルト認ムル時ハ之ヲ許可ス

第二陸軍運輸部輕便鐵道臺車貸下料收納取扱手續

第一條　臺車貸下使用料ハ毎月三日迄ニ前月中ニ使用セシメタル臺車數ニ對スル貸下料ノ納證（書式ニヨル正副二通）ヲ請負人ヨリ出サシムヘシ但シ請負契約解除ノ場合ニ在テハ解約ノ日ヨリ三日以内ニ之ヲ出サシムヘシ

第二條　各出張所（停車場）ハ前條ノ納證ヲ調査シ證憑書類ヲ添ヘ式ノ如ク檢印ノ上速カニ所轄支部ヘ送付スヘシ

第三條　支部ニ於テハ證憑書類ニヨリ之ヲ調査シ他ノ到着ヲ待タズ直ニ納票ヲ附シ記牒ノ上之ヲ歳入徴收官ニ移牒スヘシ

△支部主任者

△歳入

項目	納證
金	△印 出張所（停車場）在勤高級者ノ印

△支部長

△歳入納票何第何號

區分	内譯				
名稱	車數	使用料	小計		
臺車貸下使用料	自何地至何地	一輛ノ	輛	金	金
同	自何地至何地		輛	金	金
▲何月何日ヨリ同何日迄輕便鐵道臺車貸下料					

右相納候也

明治　年　月　日

住所　番戸

何某

陸軍運輸部某出張所（停車場）

御中

㊀特約船ニ乘船取扱方ニ付注意ノ件

明治三十五年二月二十日
基往第二八二號陸軍給廠基隆支廠通牒

從來乘船請求ニ當リ要件ヲ脫記スル向アリテ取扱上不便不尠且今般補給廠事務改革ノ結果同出張所同事務取扱所閉鎖ノ爲メ一層取扱ノ不便ヲ可感ト想察致候ニ付別紙御回送致候間御請求ノ際此點ニ御注意相成候樣致度

追テ無漏御部下（御達相成度申添

一　特約船（借上船）ニ乘船取扱方ニ付注意ノ件　小

便乘請求ハ運輸規程第十條ノ便乘者ハ所屬長ヨリ照會スルコト但同規程第二條ノ乘船者ト雖モ官憲ノ命令タルコトヲ證スルニ足ルモノヲ所持セサルトキハ第十條ノ便乘者ト同シク所屬長ヨリノ照會ヲ要ス

二　便乘照會ハ書簡ヲ以テスルヲ例トスト雖モ至急ヲ要スル場合ハ電報ニテ照會スルモ差支ナシ

三　便乘請求書ニハ必ス左ノ事項ノ明記ヲ要ス

旅行ノ目的　假令ハ何隊附被命或ハ請願休暇ニテ歸省等ト記シ公私用ノ區別ヲ明カニス

乘船期日　出發前若シ事情ニ依リ期日ヲ變更セシトキハ所屬長ヨリ出發後病氣其他ノ故障ニテ途中滯在期日ニ到著スルコト能ハサルトキハ本人ヨリ請求補給廠官衙ニ通報スルコト便乘ヲ中止シタルトキ亦同シ

家族　從者下婢等ト雖モ姓名ヲ要スルハ本人ト異ナルコトアキニ姓々ニシテ家族若クハ從者何名トノミ記スル向アリテ乘船券調製出來サルコトアリ故ニ妻某長男某又ハ下婢何ノ誰ト明記スルヲ要ス尙食事準備ヲ要スルニ付小兒ハ食銅ノ要否ヲ附記スルコト

四　便乘者多數アルニ當リ請求書ニ何某外何名ト記スル向アリ此ノ如キ時ト雖モ悉ク全員ノ姓名ヲ要ス

五　補給廠官衙ノ設ケナキ地ヨリ乘船セントスルモノハ最寄補給廠官衙（假令ハ澎湖島ハ安平大板甕ヨリスルモ淡水ハ打狗ハ蘇澳ヨリスルモノハ基隆ノ補給廠官衙）ニ請求

スルコトニ定メラレタリ故ニ出來得ル限リ請求ハ乘船券送附ノ時日アルヲ要ス至急ニシテ萬止ムヲ得ス電報ニテ請求スルトキハ乘船券及證明書ノ回送間ニ合ハサルコトアルヘシ此場合ニ於テハ乘船許可ノ返電ヲ證トシ乘船スヘシ而シテ證明書ハ後送スルモノトス

六　電報ニテ請求スルトキハ尚重ネテ書簡ヲ以テ照會スルヲ要ス但電報ニテ請求ノ時ト雖モ公私用ノ區別姓名等必要ナリ

七　乘船者乘船地ニ到著セハ直ニ其地補給廠官衙ヘ届出ノコト

八　補給廠官衙ノ設ケナキ地ニ於テ乘船上陸ハ其地商船會社支店若クハ同代理者ニ於テ取扱ハセ候ニ付乘船者ハ同所ニ就キ乘船券ヲ受領スルコト

九　乘船者ハ左ノ注意必要ナリ

乘船者手荷物ノ最目ハ左ニ限ル

赴任者	將官	六十貫目	家族携行者ハ二倍又赴在外
	准士官以上	四十貫目	
	下士以下	二十貫目	ノ旅行者ハ二分ノ一トス

盆栽鳥獸類珍木ハ手荷物トシテ取扱ハサルコト

下士以下ハ飲食物ノ携帯ヲ許サス

荷物ニハ識別ヲ容易ニスル爲メ各梱ニ姓名札ヲ堅固ニ附著スヘシ且揚陸地ヲ明記ス

ルトキハ更ニ便ナリ

㊦輕便鐵道乘車心得

（臺灣島略圖添付）（明治三十六年八月十四日中支丙第三二四號補給廠臺中支廠）

左記印刷物御參考ノ爲メ及御送付

輕便鐵道乘車心得

第一條　本島ノ輕便鐵道ハ軍需品ノ輸送ヲ以テ唯一ノ目的トス故ニ臺車ノ構造ニ於テモ亦之レニ適スル如ク製作ス然レトモ臺灣中部ニ在テハ北ハ苗栗ヨリ南嘉義ニ至ル約九拾四哩間ハ未タ縱貫鐵道ノ敷設ナク且ツ道路不良ニシテ交通甚タ不便ナリ故ニ軍需品ノ輸送ニ支障ナキ限リハ公衆ノ便利ヲ謀リ人員荷物ヲ遞送セシムルコトトセラレタリ而シテ一臺車ノ積載量ハ苗栗葫蘆墩間ハ約八十貫目葫蘆墩以南ハ約百貫目トシ人ハ四人迄乘車スルヲ得

第二條　一臺車ニ一人乃至二人乘ルトキハ成ルヘク其前端ニ位置シ前軸車輪ノ浮キ上ラサル如ク注意シ三人又ハ四人乘ル場合ハ二人ハ前面向キニ他ノ者ハ背面向キニ跼坐又ハ腰掛ケ各人共ニ臺車ノ四隅ニ直立スル竪木ヲ確握スルヲ要ス

第三條　臺車運行中ハ常ニ身躰ヲ柔軟ニシ臀部ヲ落チ著ケ道路ノ屈曲部通過ノトキハ躰ノ上部ヲ少シク内方ニ傾ケ遠心力ノ爲メ外部ニ放出セラレサル如ク最モ著意ヲ要ス

第四條　橋梁通過ノ際ハ特ニ竪木ヲ堅固ニ攫握シ如何ナル障碍ニ遭遇スルモ臺車ヲ離レサルヲ要ス橋梁ノ枕木ハ特ニ長キモノヲ使用シアルヲ以テ臺車ノ何中ニ墮落スルコト殆ン

トナキモノナリ

第五條　坂路ヲ降ルトキハ假令臺車前方ヨリ來ル等ニテ危險ノ恐アルモ決シテ飛降ルヘカラス此場合ニハ大聲ニテ向ヒ來ル臺車等ニ注意ヲ與ヘ之レト同時ニ制轉器ヲ緊縮（此ノ器ハ臺車ノ前部及後部ニ縋又ハ鐵線ニテ繫留シアリテ之レニ留木ヲ入レ引ク時ハ直ニ車輪運轉セスシテ停止スル之ヲ通常後押人夫自ラ適當ニ使用スルモノ）スルコトニ注意シ且ツ足尖ヲ臺車外ニ出スヲ禁ス

第六條　坂路ヲ登ルトキ前方ヨリ臺車來リ停止ノ模樣ナク衝突ノ恐レアルトキハ時宜ニ依リ臺車ノ側方（側方ノ地平坦ノ時ニ限ル）ニ飛ヒ降ルヲ適當トスルコトアリ斯ノ如キハ最モ稀有ノコトニシテ今日ニ於テハ殆ントナシ然レトモ若此場合ニ際會セハ決シテ臺車ノ前後ニ飛ヒ降ルコトヲ必ス側方ニ動作スルヲ要ス

第七條　數個ノ臺車連續シテ運行スルトキハ平地ニ在テハ少クモ三十尺坂路ニ在テハ六十尺乃至九十尺ノ距離ヲ取ルコトニ注意スヘシ若シ各車ノ距離短縮スルトキハ前方ノ臺車故障ヲ爲メ停止スルトキ後續臺車ハ夫レカ爲メ迭ヒニ衝突シテ終ニ脫線スル如キ恐レアレハナリ

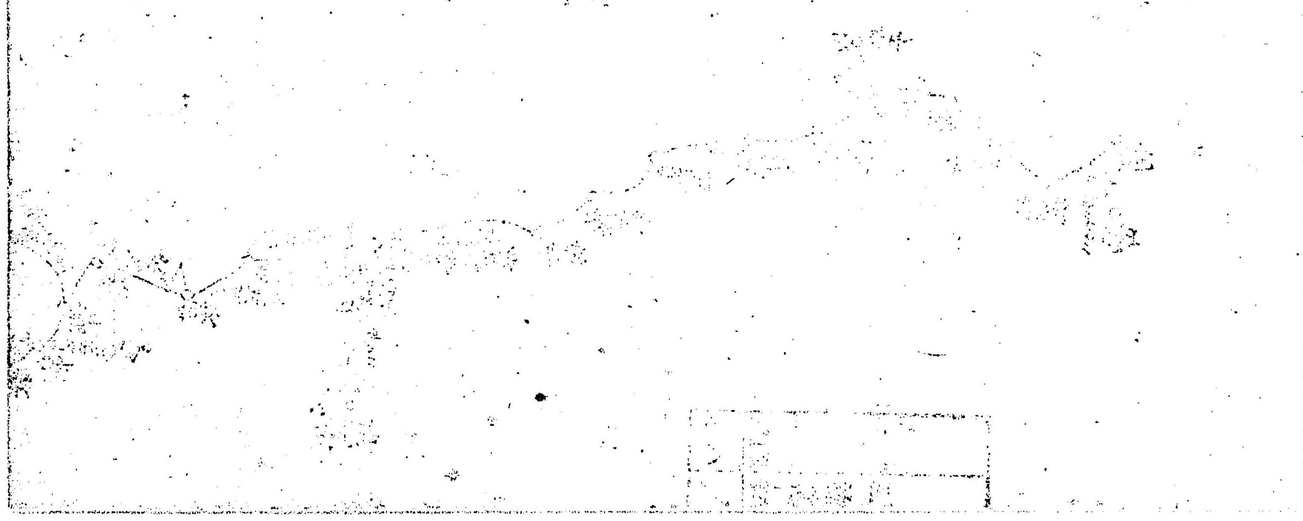
第八條　降坂ノ際將ニ坂路ヲ通過シ終ラントスルトキ後押人夫ハ其隋力ヲ利用シテ成ルヘク前方ニ進ミ自己ノ勞力ヲ減少セントスル風アリ若シ危險ノ虞アルトキハ（漫々）ト發聲スルカ將タ自ラ制轉器ヲ緊縮シテ速度ヲ減スルヲ要ス然レトモ斯ノ如キハ坂路ヨリ直ニ橋梁ニ出ルカ或ハ降坂ノ最終點屈曲シタルトキノミニシテ假令傾斜急ナルモ直線道路ナレハ急行スルモ危險ノ憂ナシ

第九條　總テ坂路ハ傾斜急ニシテ且ツ長キモノヨリハ寧ロ緩ニシテ短ナル屈曲部ニ危害ノ多キハ實檢ニ徵シテ明カナリ之レ乘者ノ油斷ヨリ生スルモノナレハ茲ニ注意ヲ要ス

第十條　現今ノ後押人夫ハ從前ノモノト異リ各停車場共人夫請負人ハ殆ント之ヲ常備トシテ使役スルヲ以テ技術ニ熟練シ且ツ地形ヲ熟知シ適當ニ運行ス故ニ必要止ムヲ得サルトキノ外乘者ハ人夫ニ對シ豚ヲ容ル可カラス

第十一條　臺中陸軍補給支廠管內各停車場名及其距離ハ畧圖ノ如シ

第十二條　以上ハ乘者ノ心得ヘキ必要事項ヲ摘記シタルニ過キス其他坂路橋梁等ニシテ危險ノ場所ニハ注意書ヲ揭示シアルヲ以テ必ス遵守スルヲ要ス猶詳細ハ各停車場ニ就キ問合セヲナスヲ要ス之ヲ要スルニ從來輕便鐵道行ハ最モ危險ナリトノ評ハ內地ニ於テ殆ント輿論ノ如キ狀況ナルモ今日ニ於テハ線路ノ修繕臺車ノ構造後押人夫ノ技倆等大ニ進歩セシヲ以テ注意ヲ怠ラサル限リハ危險ト云ハンヨリハ寧ロ爽快ト云フヲ適當トス



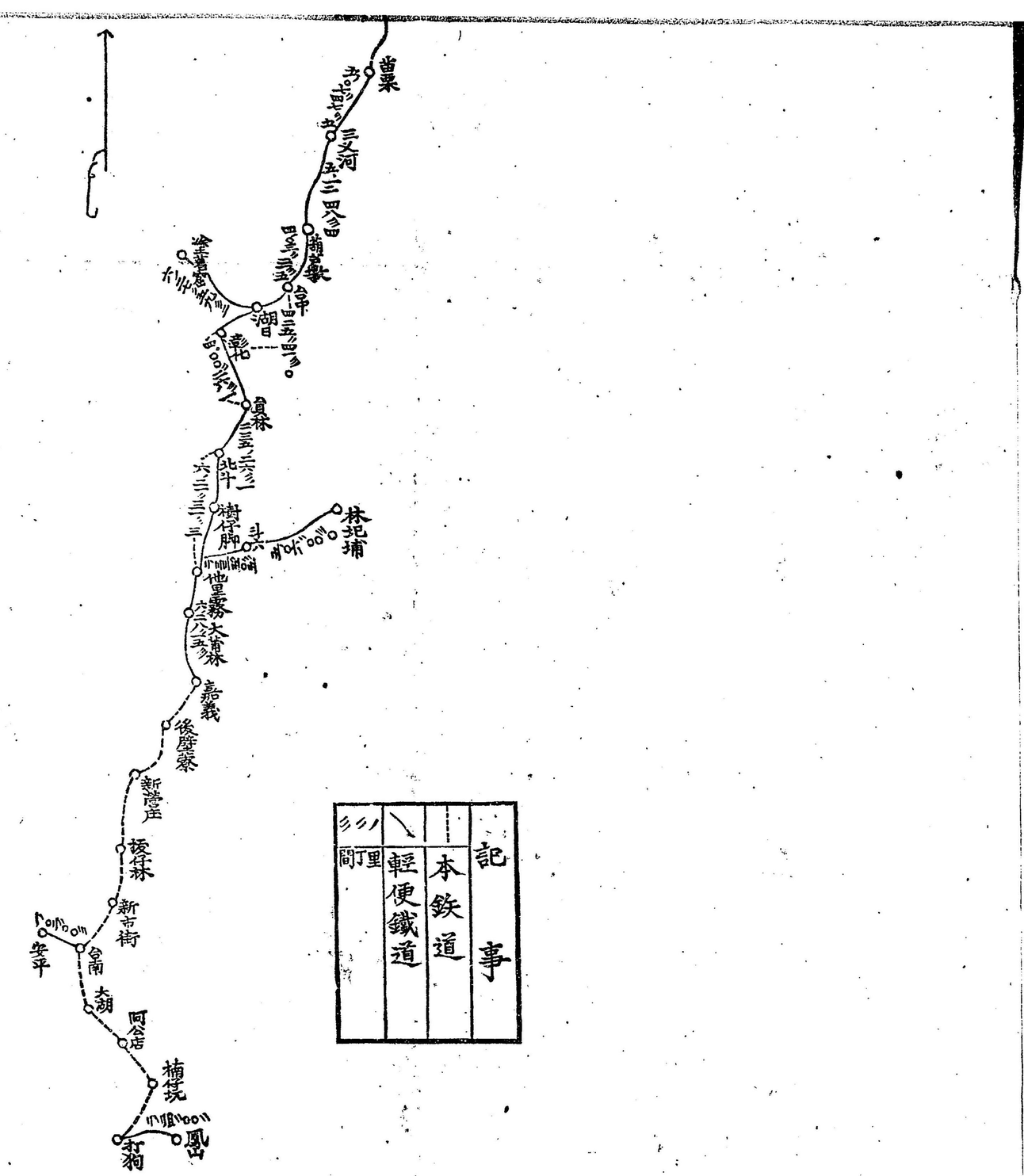
基隆
水返脚
錫口
台北
樹林
桃仔園
中壢
楊梅壢
太湖
新竹
香山
中港
苗栗
三叉河
銅鑼
台中
湖口
新竹
員林
北斗
彰化
林圯埔
斗六
虎尾
大莆林
嘉義
後壁寮
新營
拔仔林
新市街

記事

本鉄道

軽便鐵道

哩丁間



記事	
本鉄道	
軽便鐵道	
里丁間	

○臺灣及韓國ニ往復スル軍人軍屬ノ船内食料ノ件

明治三十五年十月二十日
補丙發第一二四六號陸軍補給廳通報

從來臺灣及韓國ニ往復スル軍人軍屬ノ船内食料ハ一食拾錢ノ規定ニ有之候處賄ノ官私費ヲ問ハス來ル十一月一日ヨリ左表ノ通改正致候間此段及通報

船内食料表

區分	等級	上等	中等	下等
朝食料		金拾錢	金拾錢	金八錢
晝食料		金拾五錢	金拾錢	金拾錢
夕食料		金參拾錢	金貳拾錢	金貳拾錢
計		金六拾五錢	金四拾五錢	金參拾錢

備考
一、上等ハ士官以上及高等文官、中等ハ准士官、下等ハ下士
二、臺灣及韓國守備隊定期交代ノ時ニアリテハ陸軍旅費規則第四表ニ據ル

○患者輸送ニ要スル附添人ニ關スル取扱

明治三十三年三月二十六日
送乙第九三九號陸軍次官通牒

患者輸送ニ要スル附添人及囚人竝刑事被告人ノ押送ニ關シテハ陸軍軍人軍屬出張取扱規則ニ據ルノ限リニ無之從テ申請認可ヲ要セサル義ト御承知相成度

○本島内軍用電信保護ニ關スル件　明治三十四年十月九日　臺陸密第三一四號臺傚參謀長通牒

本島内軍用電信保護ニ關シテハ特別法令制定相成候迄ハ本年三月律令第一號ヲ適用セラルル義ト御承知相成度爲念及御通牒

○郵便物護衛ノ件　明治三十四年八月十六日　内訓第一九號總督内訓

自今郵便物其他重要物品運送途上ニ於ケル護衛方左ノ通心得ヘシ但本令ニ牴觸セル從前ノ手續ハ總テ之ヲ廢止ス

第一項　郵便物其他重要物品ニシテ運送途中護衛ヲ要スル場合ハ警察官吏ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第二項　左ノ場合ニ於テモ警察官吏ノ護衛ヲ以テ普通トナスヘシト雖モ若シ其力ノミニテ不充分ト認ムルトキ又ハ止ヲ得サル事由ニ因リ警察官吏ヲシテ護衛セシムルコト能ハサルトキハ警察官署在ラサル地ノ郵便官署（同上ノ地ニ出張ノ阿片烟吸管理者亦同シ）ハ其地ノ守備隊又ハ憲兵隊ニ護衛兵ヲ請求スルコトヲ得

一　運途地域特ニ不穩ノ狀況アルトキ

二　兵器彈藥貨幣有價證券阿片金銀塊其他特ニ貴重ノ物品多額ニ運送スルトキ

右内訓ス

○陸軍官憲ト海岸望樓トノ電信通信ノ件　明治三十六年七月九日　臺參乙第一四二號總督達

陸軍官憲ト海岸望樓トノ電信通信ハ自今平戰兩時ニ拘ハラス暗號ニ依ラス通常文ヲ使用スヘシ

○請負制ヲ採リアル港灣ニ於ケル乘船者ノ携行スル定量超過ノ手荷物賃金自辨ノ件　明治三十六年十二月十二日　副第一一五七號臺傚移牒

人馬物件ノ揚陸搭載ニ付請負制ヲ採リアル港灣ニ於ケル乘船者ノ携行スル定量超過ノ手荷物ニ對スル賃金徵收ニ關シ別紙基往第一四二三號ノ通通知有之候條及移牒

明治三十六年十二月十一日

基往第一四二三號基隆補給廠支廠通知

人馬物件ノ揚陸搭載ニ付請負制ヲ採リアル港灣ニ在リテハ乘船者ノ携行スル定量超過ノ手荷物ニ對スル賃金ハ自今官私用ニ拘ラス自辨ノ事ニ取極メ候條爲念及御通知

○動員ニ關シ陸軍各部團隊ヨリ發スル電報取扱方ノ件　明治三十七年一月廿三日　副第七一號臺傚參謀長通牒

動員ニ關シ陸軍各部隊ヨリ發スル電報及電報爲替ノ取扱ハ極メテ迅速ヲ要シ候ニ付其筋ヘ内議候處本島内ヨリ發着スルモノニ限リ電報ハ別紙甲號ニ電報爲替ハ乙號ニ依リ取扱候事ニ關係郵便電信局ハ通達セシ旨回答有之候條右ニ依リ御取扱可然此段及通牒

甲號

非常召集又ハ動員ニ關シ緊急ヲ要スル電報ニシテ本島内ニ發着スルモノハ其賴信紙指定欄

內ニ至急ノ指定及「ドウ」ノ特別指定ヲ記入シ發信人居所氏名欄內ニ當該部隊長若クハ主任官署氏名ヲ署シ捺印ノ上賴信スヘキ筈ニ付右ニ該當スルモノハ明治三十三年一月二十三日內訓動員令電報取扱內則第五條ニ準シ取扱相成ヘク依命此段及通達

明治三十七年一月十日

民政長官

各「一等局長宛

追テ本件ハ區內各局所ヘモ傳達可相成候也

參照

第五條　動員令電報取扱內則

動員令電報ハ受付、傳送及配達トモ總テノ電報ニ先タチテ之カ取扱ヲ爲スヘシ

乙號

一、當該爲替金ハ非常召集又ハ動員ノ旅費金トシテ陸海軍各部隊ヨリ廳長、支廳長若ハ陸軍部隊ニ編入セラルヘキモノニ送付スルモノナルカ又ハ旅行先キ若ハ寄留先ニ於テ非常召集又ハ動員ニ應スヘキ軍人軍屬ノ受取ルモノナルコトヲ確ムヘキコト

二、通常爲替振出ノ場合ニ於テハ振出請求書特殊取扱指定欄ニ「非常召集又ハ動員旅費金」ト記載スルコト

三、電信爲替振出ノ場合ニ於テハ特ニ料金ヲ徵收セスシテ緊急電報ノ取扱ヲ爲シ且非常召集（又ハ動員）旅費金タルコトヲ示ス爲メ特務取扱指定欄ニ「（ク）」ノ略符合ヲ附記スルコト

四、拂渡局所ニ於テ前項電信爲替證書ヲ送達スルトキハ特ニ別配達ノ取扱ヲ爲スヘキコト

五、非常召集又ハ動員旅費金ニ關スル通常爲替證書、電信爲替證書及ヒ小爲替證書ニハ其調製ノ際證書餘白ニ本爲替證書ニ對シテハ規定時間外又ハ休暇日ト雖モ特ニ爲替金ノ拂渡ヲ爲スヘキ旨ヲ附記スルコト

六、非常召集又ハ動員旅費金ニ對スル爲替金拂渡ニ際シ證書調製上違式又ハ差出人受取人宿所氏名中不符合ノ廉アルトキハ受取人ニ就キ事實ヲ調査シ確認拂ノ手續ニ依リ之レカ拂渡ヲ爲スヘキコト

七、非常召集又ハ動員旅費金ニ對スル郵便爲替ニ關シ各局所間ニ照會往復ヲ要スルトキハ總テ電報ヲ用ユルコト但本項ノ照會往復ニハ特ニ（ク）ノ略符號ヲ使用シ非常召集又ハ動員旅費金ニ關スルモノナルコトヲ示スコト

八、非常召集又ハ動員旅費金ニ對スル郵便爲替ニ關シテハ規定時間外若ハ休暇日ト雖モ即時之カ取扱ヲ爲スヘキコト但シ當日ノ出納日報提出後ナルトキハ追加出納日報ヲ調製シ報告スルコト

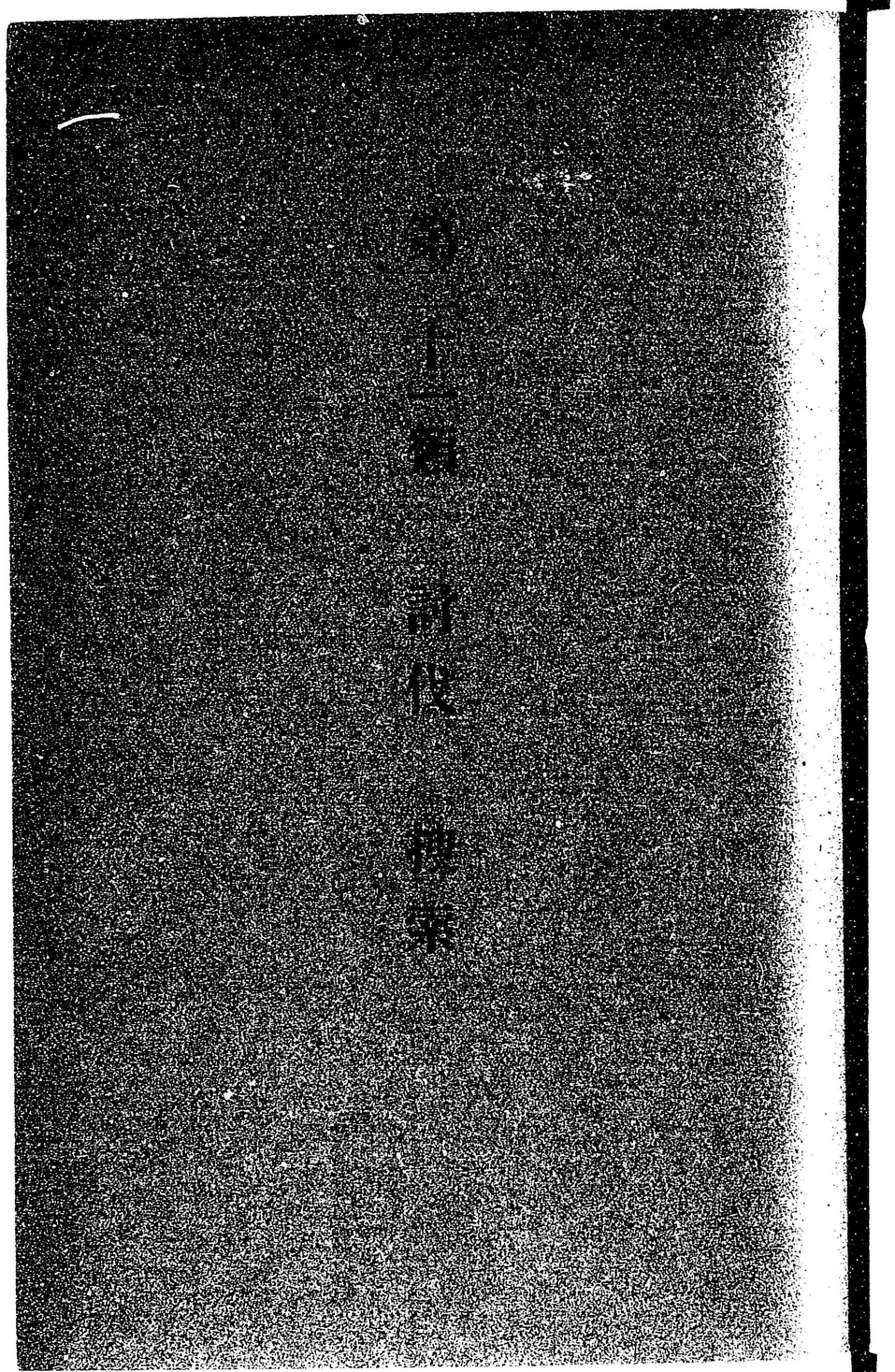
九、前項ノ爲替金ニシテ振出高多額ノ爲メ拂渡局所ニ於テ爲替資金ノ準備ヲ要スルモノ

ト認ムル場合ハ即時振替局ヘ向ケ左ノ略語例ニ依リ通報ヲ爲スヘキコト

略語例

ソノ何〇〇エスヨ　（為替資金何百圓直ク用意セヨトノ意味ナリ云フ）

尚、拂渡局所ニ於テ右資金準備ノ電報ヲ受ケタルトキハ應急其準備ヲ爲スヘキコト



第二十類　運輸　交通

ト認ムル場合ハ即時振當局ヘ向ケ左ノ略語例ニ依リ通報ヲ爲スヘキコト

略語例

シ何〇〇エスヨ　（爲替資金何百圓直ク用意セヨトノ意味ナリ云フ）

十、拂渡局所ニ於テ右資金準備ノ電報ヲ受ケタルトキハ應急準備ヲ爲スヘキコト

◎土匪討伐及捜索ニ關スル訓令

明治三十二年三月一日
陸參第四二二號總督訓令

從來土匪討伐ハ大小醵重共軍隊ノ專ラ任スル所ナリシト雖モ各所ノ土匪漸次消滅若クハ歸順シ目下ノ情況寛嚴之ヲ處置スルノ必要アルヲ認メタルヲ以テ茲ニ其動作ヲ分テ二トス一ヲ土匪討伐ト謂ヒ一ヲ土匪捜索ト謂フ

土匪討伐トハ匪徒群ヲ爲シ山地ト平野トヲ問ハス優然蟠據シテ兇暴ヲ逞フシ兵力ヲ藉ルニ非サレハ擊攘スルコト能ハス即チ軍隊ヲ主働者トシテ憲兵警察官吏之ヲ補助タルノ場合ヲ云フ其土匪捜索ト方リ之カ捜索捕縛ヲ爲スニ方リ軍隊ハ其後方ニ在テ支援トナリ憲兵警察ノ力ヲ主働者トナリ之カ捜索捕縛ヲ爲スニ方リ土匪ノ抵抗ニ克ヲ能ハサルトキハ臨機應急ノ手段ヲ取ルヲ云フ

土匪討伐若クハ土匪捜索ノ爲メ軍隊ノ支援ヲ要スルニ方リ之ヲ實行スルニハ通常旅團長ハ地方長官ノ協議ヲ受クルヲ者トス然レトモ事急ナルトキハ各守備隊長又ハ分遣隊長ハ辨務署員若クハ憲兵ノ協議ニ應シ直ニ之ヲ實行スルヲ得凡ソ討伐ト捜索トニ論ナク各級ノ幹部ハ細心注意シ特ニ良匪ヲ判別シ部下ヲ戒飾シ其行動ヲ愼重ニシ以テ事後ノ患害ト批難トヲ惹起セサラシムルコトヲ勉ムヘシ分捕守スヘキ數項ヲ擧シテ各官ニ頒ツ各官夫レ之ヲ體セヨ

一　兇器（又ハ人ヲ殺傷スルニ足ル器材）ヲ以テ直接我ニ抵抗シ止ムヲ得サル者ノ外一切

殺戮スルヲ許サズ老幼婦女ハ特ニ之ヲ保護スヘシ

二　戦闘用トシテ現ニ匪徒ノ占據セル物體ニ對シテ之ヲ焼夷破壊セサレハ戦闘ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合ノ外ニ於テ假令土匪ノ家屋（假令土匪ノ家タリトモ）建築物其他ノ諸物ヲ焼夷又ハ破壊スルヲ許サス

三　軍隊ニ於テ嫌疑者ヲ逮捕シタルトキハ直ニ之ヲ辨務署員又ハ憲兵ニ引渡スヘシ

四　憲兵嫌疑者ヲ逮捕シタル時又ハ軍隊ヨリ嫌疑者ノ交付ヲ受ケタル時ハ參事街庄長總理耆老等ノ意見ヲ聞キ其證跡ナキ者ハ直ニ之ヲ放免シ其證跡アル者ハ直ニ之ヲ所在法院ニ送附スヘシ

五　軍隊又ハ憲兵隊ニ歸順ヲ願出ル者アルトキハ地方行政官ニ引渡スヘシ

六　戦闘ノ結果トシテ得タル兵器ハ兵器本、支廠ニ送付シ捜索中無免許銃ヲ押收シタルトキハ辨務署員ニ引渡スヘシ

七　街庄特ニ土匪部落ニシテ住民アラサル場合ト雖モ地方官吏ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ一切ノ物料ヲ取用スルヲ許サス

○土匪討伐竝行軍演習ニ關スル訓令　明治三十三年八月十一日　陸參第一三六號總督訓令

爾來守備隊ノ行動ニ關シ左ノ通心得ヘシ

一　旅團長ハ演習ノ爲メ三泊以内部下軍隊ヲ其旅團管區内ニ限リ行軍又ハ演習セシムルハ認可ヲ受クルヲ要セス

二　土匪捜索及討伐ノ爲メ或ハ地方ノ情況ニ依リ一時軍隊ノ派遣ヲ要スル時ハ豫メ認可ヲ受クヘシ

三　明治三十年十一月臺陸參第三〇號訓令ヲ廢ス

○土匪討伐ノ際家屋ヲ焼夷スヘカラサル件　明治二十九年十一月十四日　軍發第八三三號總督副令

土匪討伐ニ際シ良民ノ家屋ハ勿論假令土匪ノ家屋ト雖モ可成之ヲ焼夷セサル樣留テ内訓ノ有ル在ル處ト雖モ今尚討伐隊ハ往々匪賊ノ再據ヲ慮リ之ヲ焼夷スル者アルヲ聞ク爾來良民ノ家屋ハ勿論匪賊ノ家屋ト雖モ一切焼夷スルヲ嚴禁ス若シ戦術上止ムヲ得スシテ焼キ拂フトキハ其理由ヲ詳記シテ報告スヘシ

◎歸順土匪取締ニ關スル件　明治三十二年四月二十九日　臺陸參第一四〇號臺條參謀長通牒

今般土匪歸順取締方ニ關シ別紙ノ通總督ヨリ各地方官ヘ内訓相成候條附帶書類相添此段及通牒

内訓第五號

警察上特別處分トシテ土匪ノ歸順ヲ聽許スルハ畢竟彼等ノ反省ヲ促シ速ニ正義ニ就カシメントヲ趣旨ニ外ナラス然ルニ近來往往歸順者ニシテ再ヒ土匪ニ與シ甚シキニ至テハ官衙兵營等ノ動靜ヲ探リ却テ土匪ノ爲メニ便宜ヲ圖ルモノモ有之哉ニ相聞ヘ容易ナラサル義ニ付將來右等不都合無之樣注意ヲ加フヘキハ勿論ナリト雖モ其取締方法ニシテ遺漏アランカ到底此禍害ヲ防遏スル能ハサルヘシ故ニ自今土匪ノ歸順者ニ對シテハ一層其取扱

第二十一類　討伐　捜索

ヲ嚴重ニシ特ニ銃器彈藥槍刀類押收ノ事ヲ嚴行シ宣誓書ニハ親族故舊及街庄社長ヲシテ連署セシムルコトトシ其取扱件數等ハ別紙甲乙樣式ニ倣ヒ之ヲ調製シ翌月十五日迄ニ報告スヘシ但シ本年一月二月三月分ハ本月分ト同時ニ報告スヘシ

右內訓ス

總督

內閣知事廳長宛

宣誓書

從來順逆ヲ誤リ匪徒ノ群ニ入リタル段誠ニ悔悟ノ至ニ堪ヘス仍テ遷善正業ニ復シ以テ皇恩ニ報センコトヲ誓ス

年齡

住所

氏名

監察票

番號

何々匪首又匪徒

一○每月二回所轄警察官衙ニ出頭シ其謹愼ヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察官衙ニ至ルコト能ハサルトキハ其事由ヲ屆出ツヘシ

二許可ヲ得スシテ旅行又ハ住所ヲ轉スヘカラス

三總テ警察官衙俠務署吏員ノ指示ニ遵ヒ正業ニ就クヘシ

右確ニ遵守ス可キモノ也

年　月　日

警察署分署派出所長

警部　何　某

年	初（一月）	二月	三月	四月	五月	六月	七月
十五日以前	何日出頭						
十六日以前	病氣ニ付不參						
十五日以前	旅行中						
十六日以前							

年	二	三	四
十五日以前			
十六日以前			
十五日以前			
十六日以前			
十五日以前			
十六日以前			

第二十一類　討伐　捜索

八月

（甲號樣式）

歸順土匪取扱表

明治　年　月　縣（廳）名

取扱廳名	人員 舊受	人員 新受	人員 計	事故 月末監視 宜諭達	事故 逃亡	事故 死亡	備考
						産業ニ就キ産業ニ就カタルモノ	
合計						サルモノ	

記載例

一　舊受欄ニハ前月末監視中ノモノヲ新受欄ニハ其月内ノ歸順者ヲ各々記載スヘキモノト本　日

二　死亡欄ニ官吏ニ對抗シ止ムヲ得ス斬殺銃殺シタルモノヲ朱書シ其他ハ墨書スヘシ

（乙號樣式）

歸順土匪押收物件表

明治　年　月　縣（廳）名

取扱廳名	受理分 銃器	受理分 彈藥	受理分 火藥	受理分 刀劍	受理分 其他	處棄分 銃器	處棄分 彈藥	處棄分 火藥	處棄分 刀劍	處棄分 其他	納付濟分 銃器	納付濟分 彈藥	納付濟分 火藥	納付濟分 刀劍	納付濟分 其他	未濟 銃器	未濟 彈藥	未濟 火藥	未濟 刀劍	未濟 其他	備考
合計																					

記載例

一　受理欄ニハ其月内ニ受理セシモノヲ墨書シ前月未濟ノモノヲ朱書スヘシ

二　廢棄シタルモノハ備考ニ其事由ヲ掲出スヘシ

三　納付欄ニハ警察官署ニ在テハ縣若ハ廳ニ憲兵官署ニ在テハ憲兵隊本部ニ納入シタルモノヲ記入スヘシ

四　未濟欄ニハ月末ニ於ケル現在保管中ニ係ルモノヲ記入スヘシ

五　火藥ノ如キモノハ量目ニテホスヘシ

第二十一類　討伐　捜索

○土匪討伐ニ關シ圖面添付ノ件　明治三十五年一月二十一日　送乙第九二號陸軍部底務課長通牒

土匪討伐ニ關スル情報御提出ノ際圖面添付ノ場合ハ其筋ヘ通報上要用有之候ニ付自今二通ツヽ添付御差出相成度

第十類　出納整理

○土匪討伐ニ關シ圖面添付ノ件

明治三十五年一月二十一日
送乙第九二號陸軍部庶務課長通牒

土匪討伐ニ關スル情報御提出ノ際圖面添付ノ場合ハ其筋ヘ通報上要用有之候ニ付自今二通ツヽ添付御差出相成度

第二十二類　出納　整理

㊀大演習陪觀ノ上長官牽連馬匹ニ係ル給與方

決議ノ件　明治三十五年十月二十四日　陸軍經理部長會議

一、臺北基隆間馬匹及傭馬丁ノ汽車賃ハ實費拂トスル但輸送券ヲ發シ賃金ハ後拂ノコト

二、傭役馬子基隆ニ於テ乘船前若クハ上陸後食餌時刻トナリタルトキハ壹食金貳拾五錢ヲ以テ實費支辨ノコト

三、船中馬糧ハ往途ニアリテハ補給廠基隆支廠ヨリ歸途ハ門司支廠ヨリ受領ノコト

四、馬糧ハ上陸後演習地往復途中及演習部隊ニテ給與セサルトキハ自ラ定量若クハ代用品ヲ實辨シ其費用實費支辨ノコト

五、內地旅行中ハ給與令第八表ノ馬匹旅費ヲ定額支給ノコト

六、前實費ヲ爲スモノニ對シテハ原證書ヲ提出ノコト

七、馬匹厩舍料ハ一泊金拾錢以內ヲ以テ實費支辨トス但原證書ヲ要ス

㊁給與規則細則及給與令細則中發令當日ノ解釋ノ件　明治三十四年四月二十三日　陸普第二六六號第十五憲兵隊長質疑

憲兵並等兵轉隊ノ如キ辭令書ヲ發セサルモノニ臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則細則第三條第二項ニ適用スルニ際シ（發令ノ日）ニハ本人拜命前日ト解釋シ又陸軍給與令細則第

第二十二類　出納　整理

三十九條ヲ適用スルニ際シ（發令當日）トハ憲兵司令官若クハ憲兵隊長ノ轉隊命令ヲ發セル日ト解釋スヘキ義ナルヤ

（明治三十四年四月二十五日憲兵乙第六九二號監督部長回答）

四月二十三日十三憲徴第一六六號ヲ以テ給與規則細則第三十九條中（發令當日）ノ解釋方云々御照會之趣了承右ハ何レモ命令ヲ發セル日ニシテ受命ノ日ニハ無之ト解釋ス

（明治三十五年七月一日副第七二〇號陸軍省軍務局長通牒）

◎消毒費用支辨方ニ付通牒ノ件

兵營内ニ於テ傳染病發生ノ際消毒及豫防ノ爲メ差當リ要スル費用支辨方爾後左ノ通御承知相成度此段及通牒

追而病勢劇烈ニ至リ多額ノ費用ヲ要スル爲メ仕拂豫算定額内ヲ以テ支辨難相成場合ニ在リテハ先ツ概算額ヲ總督ヘ申出テ承認ヲ經然ル後明細書ヲ附シ豫算增額申請相成度又經理部及病院ニ係ル事項ニ付テハ直接交渉相成度此段申添

一、有毒物取拂竝ニ燒却其他消毒竝ニ豫防ニ關スル費用ニシテ廳費ニ係ルモノハ旅團司令部雜給及雜費ヲ當該部隊ノ負擔トス

二、軍隊離隔ノ場合旅費規則第七表ノ最目範圍外ニ係ル荷物運搬費ニシテ糧食被服及飼養品ニ係ルモノハ經理部其他廳費支辨ノモノハ旅團司令部雜給及雜費ハ當該部隊ノ負擔トス

三、假則建設床板ノ剝離及復舊排水溝竝ニ井戸浚渫及離隔場借受等ハ經理部ノ負擔トス

四、傳染病者ヲ發生シタル室及病毒汚染ノ疑アル場處ヲ消毒ノ爲メ要スル藥品（石灰）ハ衛戍病院ノ支辨トス

◎本島給與規則中細則中疑義ノ件（明治三十四年七月三十日十四憲計第一五三號第十四憲兵隊軍吏質議）

左記ノ件々聊カ疑義ニ相渉リ及御問合候條貴部ノ御定議御示シ相成度此段申進

一、臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則細則第三條第二項ノ在隊加俸及年功加俸ハ駐劄地到著ノ日ヨリ駐劄地出發ノ日迄之ヲ給スト有之候處其駐劄地トハ假令ハ第十四憲兵隊附トシテ内地ヨリ來ル者ハ其本部所在地則チ臺中ヲ指シ又同隊中隊ヲ以テ其分隊附或ハ屯所附トシテ配布サレタルモノ内地ニ歸還スル者ニ在テハ其分隊若クハ屯所所在地ヲ指ス義ト解釋シ可然ヤ

二、同項割書中ニ内地ヘ航送ノモノニ在テハ所在地出發ノ日ト有之其所在地トハ現ニ入院シアル地ヲ指ス義ナルヤ果シテ然ラハ從軍ノ者内地ヘ航送ノ目的ヲ以テ甲地出發ノ後病勢或ハ他ノ都合ニ依リ乙地ノ病院ヘ若干日入病院ノ後内地ヘ航送セラレシ者有之右ハ甲地出發ノ日迄前項ノ加俸ヲ支給シ可然ヤ

三、同第八條但書ニ時宜ニ依リ第二號ノ現品ニ換ヘ時價相當ノ代金ヲ交付シ實費支辨セシムルコトヲ得トアリ右時價トハ第四表ノ定量ニ基キ現ニ其土地ノ物價ニ依リ支辨スル義ナルヤ

第二十二編　出師　整理

四　憲兵ノ如キ少人數ヲ以テ土匪捜索等ノ爲メ某地ニ出張スル者ハ前項ニ依ルヲ適當ト存ス然ルニ前項解釋ノ如ク精米ト副食品トヲ各別ニ買辨シテ自炊スル方法ノ事實上行ヒ難キニ依テ此場合ニ在テハ右價格ヲ標準トシ精米ニ對スル證書ト單ニ賄代トシタル證書トニ區分シ證明シ可然ヤ

五　同第十三條第二項ニ前項ノ增給額ハ定額ノ三分ノ一以内トシ云々ト有之候處改正前ノ分ハ附表第二表ノ定量ノ三分ノ一以内ト明記有之候ヘ共改正ノ分ハ單ニ定額ノ三分ノ一以内ト有之右ハ其名異ナルモ其實同一ト見做シ從前ノ通第四表ノ定量ニ依リ可然ヤ又ハ第五表ノ定額金ニ基キ適宜副食品ヲ買辨シ可然ヤ

（明治三十四年七月二十五日　臺監乙第一一五七號監督部長回答）

本島給與規則細則疑義ノ廉計第一五三號ヲ以テ貴隊軍吏ヨリ問合ノ件ハ左ノ通御承知相成度

第一項　本隊所在地到著（本隊ニ著ス直チニ分隊若クハ屯所在地ニ到著ノ日）若クハ出發ノ日ヲ指シタル義ト存ス但某地分隊附若クハ屯所附トナリタル者内地ニ歸還ノ場合本隊ニ復歸命セラレスシテ直チニ歸還ノ者ニ在テハ分隊若クハ屯所所在地出發ノ日迄支給シ然ルヘシ

第二項　御意見ノ通

第三項　三十四年六月補丙發第六三九號補給廠長通牒ニ由ル（卅五年臺經發第三、五六六號通牒ノ結果意見ノ通トナル）

第四項　御意見ノ通通牒ニ差支ナシ但精米調辨ニ關シテハ前項通牒ニ依リ補給廠ノ承認ヲ得ヘキ筋ト存ス（卅五年臺經乙第二八四號通牒ノ結果憲兵費族費ノ支辨トナル）

第五項　細則第十三條第二項ニ所謂定額ノ規則第七條第二項第一號ノ場合ニ在テハ前段御意見ノ通

㈢經理上ニ關シ質議回答事項（明治三十四年六月二十九日　臺監乙第九八三號監督部長通牒）

去月監督部長會議ノ際別紙ノ通經理上ニ關スル質議特對シ主務課ノ回答ヲ得候ニ付爲御參考及御通牒

（別紙）

給與令細則第四十四條改正ニヨル臺灣鳥守備隊交代ノ旅費ハ定額糧食ヲ差繼クヘキ規定ナルニ就テハ左ノ件々御定議承知シタシ

一　差繼クヘキ糧食ハ其旅行ノ内地ナルト臺灣上陸前迄ハ内地原部隊衞戍地ノ定額ニヨルヘキヤ將又臺灣ノ定額ニ依ルヘキヤ

二　前項差繼クヘキ臺灣定額中賄料ハ臺灣給與規則細則附表ニ定メタル各旅團管區毎ニ定額ヲ依ルヘキヤ將又同表備考ニヨリ補給廠長ヨリ各地方ノ定額（改正草按）ニヨルヘキヤ

糧秣課

第二十二類　出納　整理

一　答　前段御意見ノ通ト存ス

三　將校以下一般ニ對スル定額糧食ヲ差繼クベキヤ將又下士以下ノ分ノミヲ差繼クベキヤ或ハ下士以下ニテモ官衙附ト隊附トニヨリ差繼クヘキモノト否ラサルモノトアルヤ其限界如何

答　內地旅行及航海中ハ內地ニ於ケル營內居住ノ下士以下臺灣島內旅行中ハ准士官以上及各官衙附（憲兵隊共）下士以下ヲ除キ其他ノ者ニ係ル糧食ヲ差繼可然義ト被存

四　定期交代派遣ニ要スル旅費中上陸地ニ至ル迄ノ旅費ハ守備隊要員交代規定第二十九條ニ依リ原師團ノ監督部ニ於テ支給スルモ之ヲ差繼クヘキ糧食費ハ同規定第二十八條ニ依リ守備隊ノ負擔ニ屬スルモノナルヲ以テ派遣員ノ臨時現金前渡官吏ハ原師團監督部ヨリ旅費ノ前受ナシ臺灣上陸ノ後之ニ差繼クヘキ糧食費ヲ更ニ駐劄部隊ノ現金前渡官吏又ハ其仕拂命令官ヨリ受領セサルヘカラス同一旅行ノ經費ニシテ甲乙二方面ヨリ受領シ且各之ニ對シ證明ヲ要スルカ如キ頗ル面白カラサル取扱ヲナササルヘカラス依テ交代規定第二十八條ヲ改正シ糧食ハ上陸地ヘ上陸ノ時ヨリ守備隊ニ於テ負擔スルコトニ致シタシ然ルトキハ前渡金ノ受領及證明共一途ニ出ツ當該官吏ノ取扱上及之カ檢查上ニ於テモ二ツナカラ大ニ好都合ナラン

答　當課ニ於テハ同意見ニ付追テ改正案提出可致候　糧秣課

五　交代中定額糧食ノ差繼キハ定期交代ノ場合ノミニ適用スル義ナルヤ將又臺灣駐劄中甲乙分遣間ニ於ケル小交代ノ場合ニモ適用スル義ナルヤ

答　定期臨時ヲ問ハス內地臺灣間交代ノ場合ニハ差繼クヘキモノト存ス臺灣駐劄中甲乙分遣隊ノ交代ノ軍隊旅行ナヲハ其方ニテ差繼キ可然ト被存（卅六年臺經發第二一〇四一號通牒參照）

（本答中軍隊旅行ハ交代旅行ニ限ル）　糧秣課

六　旅團司令部通譯官公務ノ餘暇ニ英語ノ翻譯料ノ支給ヲナスヘキモノニアラスト存ス

答　官ヨリ給料ヲ受クル者ハ當然翻譯料ノ支給ヲナスヘキモノト存ス　主計課

臺灣陸軍監督部

一　食料給與ヲ受クヘキモノ逃亡シタルトキ食料停止及計算方給與規則中明文ナシト雖モ條理ニヨリ無論逃亡ノ時ヨリ食料ヲ停止シ端食數計算ニテ食料ヲ支給スル考ナルモ念ノ爲メ問合ニ及フ

答　御意見ノ通ト存ス　糧秣課

二　給與規則細則第二表ニ憲兵一等軍曹二等軍曹トアリト雖モ右ハ軍曹伍長ノ誤植ナラン

答　誤植ニ付追テ訂正ス　主計課

第二十三類　出納　整理

三　給與規則第七條第二項ニ「委任經理ニ屬スル糧米賄料ハ一箇月以内ノ數額ニ依リ概算渡ヲナスコトヲ得」トアリ此件ハ概算渡トシテ整理スヘキ考ナルモ或ハ未精算ノ委任經理ナルヤノ疑アリ御定義承知致度

理由

イ概算渡說　委任經理ニ移ル時期ハ現人員ノ定額ヲ受ケタル時ニアリ故ニ其以前ハ概算渡トシテ整理セサルヘカラス

ロ委任經理說　明文ニ委任經理ニ屬スル云々トアレハ委任經理トシテ整理スヘキモノナリ

答　國家ノ歲出金ヲ委任經理ニ概算渡シスルコト猶旅費等ヲ個人ニ概算渡シスルト異ナラス

四　前項何レトスルモ左ノ疑問ヲ生ス

概算渡ヲ受ケタル賄料ニシテ盜難ニ罹リ又ハ銀券ノ減差ニ依ル等金員ノ減少シタルトキ及同上ノ糧米ニシテ盜難ニ罹リ蟲鼠害ヲ受ケ若クハ黑死病等ノ爲メ燒棄ヲ要スル等ニ依リ現物ノ減少シタルトキニ於テハ其責任ハ何人ノ負擔ナルヤ又其補塡方法ナキヤ

理由

從來ノ規則ニテハ糧米ハ物品會計官吏賄料ハ前渡官吏共政府ノ官吏ニ於テ取扱タルヲ以テ正當ノ理由ニ依リ缺損ヲ生シタルトキハ政府ノ損失ニ歸シタリト雖モ今回ノ改正ニ依リ概算渡トナリタルヲ以テ最早政府ノ官吏ニアラス個人ノ代表者（前項概算渡說）ハ歲入歲出外ノ出納官吏（前項委任經理說）ニ於テ取扱フモノナレハ本文ノ如キ損失ハ政府ニ損失ヲ負ハシムヘキモノトスレハ到底其負擔ニ堪ヘサルヘク之ヲ軍隊ノ負擔トスレハ或ハ兵員ヲシテ饑餓ニ陷ラシムルノ恐アリ故ヲ以テ正當ノ理由ニシテ又其太缺損ニ至テハ特ニ補塡ヲ申請スルヲ要スル等ニ依リ救濟ヲ與フルヘシト存ス

又規則第八條第二項ハ許容法ニ關シ第三十一條ニ「本細則ニ明文ナキ點ノハ陸軍給與令細則（中略）ヲ準用ス」トアルヲ以テ給與令細則第四十二條第二項（命令法）ヲ適用セハ從前ノ通實施スルヲ得策ト存ス

殊ニ本島ニ在テハ內地ト異リ金員ニ在テハ銀券アリテ時々價格變動シ爲メニ損失スルコト少カラス然ルニ金庫銀行ナキ場所多シ又米ニ關スモ倉庫ノ構造不完全且黑死病流行ノ地方ナレハ正當ノ理由ニ依リ缺損ヲ生スルコト多シ故ニ軍隊ノ給與ヲ全ク且法規ニ觸レサル樣考案セルモ未タ適當ノ理由方法發見スル能ハス

答　委任經理ノ損失ニ歸スルモノト存ス

糧秣課

第七師團監督部

陸軍給與令及同細則改正ノ結果委任經理ニ屬スル糧食馬糧ハ概算渡ヲ爲スヲ不ト
就テハ其支出及整理方ニ付左ノ各項ヲ決定ヲ望ム

一　概算渡ハ仕拂命令官ヨリ爲スカ將タ現金前渡官吏ヨリ爲サシムルカ既ニ勅令ニ依リ概算渡ヲ許ス以上ハ前段ノ如ク直ニ仕拂命令官ヨリ支出スルヲ至當トス若シ後段ノ如ク爲スト雖トモ三十三年三月陸達第十八號ニ依リ委員ノ設ケアルヘキ時現金前渡官吏ヲ置ク能ハサル官衙ニ在テハ此手續ヲ爲ス能ハサルナリ依テ前段ノ手續ニ一定ヲ望ム

答　前段御意見ノ通被存但現金ハ金櫃委員ニ於テ取扱フヘキハ勿論ニシテ衛戍病院同監獄ト雖トモ三十三年三月陸達第十八號ニ依リ委員ノ設ケアルヘキ筈ニ付差支ナキモノト被存

二　仕拂命令官ヨリ直ニ概算渡ヲ爲スト雖トモ從來ノ概算支出金整理簿ノ樣式變更ヲ望ム

五月七日七監糧第五六號ヲ以テ申出タル如シ

答　目下詮議中ナリ

三　各隊演習出張先ニ於テ精米馬糧ノ直購ヲ爲スト雖トモ從來ノ概算渡金ヨリ支出シ原證書ヲ以テ精算證明スルコトヲ得ルヤヲ望ム

答　不可ナリ

一一年志願兵ノ自辨金徵收方ヲ次ノ如ク決定センコトヲ望ム

第一項　營內及演習中自炊ノトキ賄料ハ月末糧食諸品決算表ノ平均額ニ依リ徵收スルコト

答　賄料ノ定額ヲ徵收シ可然ト存ス　　糧秣課

第二項　旅籠賄ヲ爲シタルトキハ宿泊料茶代ヲ控除シタル殘額ヲ徵收スルコト

答　前項ニ同シ　　糧秣課

第三項　斥候勤務等ニ依リ部隊ヲ離レ之ニ旅費規則第十表ノ定額ヲ本人ニ拂切タル場合ハ糧食費ヲ徵收セサルコト

答　御意見ノ通ニテ可然ト存ス　　糧秣課

一在營人ニ給與スル草鞋草履下駄等ノ如キハ材料ヲ購入シ囚人ヲシテ製作ノ上支給シ其費用ハ囚徒費ヨリ支辨シ差支ナキヤ

答　不可ナリ　　第八師團監督部

㊀馬匹護蹄ニ要スル蹄油ノ費用支辨方ノ件　明治三十六年三月二十五日送乙第五九九號陸軍省庶務課長通牒

從來馬匹護蹄ニ要スル蹄油ノ費用ハ馬藥費ヨリ支辨相成居候處來ル三十五年度以降裝蹄剔毛料又ハ裝蹄剔毛費ヨリ支辨相成ヘキ儀ト御承知有之度爲念及御通牒

主計課

第二十二類　出納　整理

[illegible]○委任經理ニ屬スル積立金ヲ預金局ヘ[illegible]預入レニ關スル取扱手續（明治三十三年十一月五日臺監乙第一八二四號臺灣陸軍監督部長通牒）[illegible]

本年七月送乙第二〇二二號陸軍總務長官ノ通牒ニ依リ委任經理ニ係ル積立金ヲ預金局ヘ預入ルルコトニ相成候ニ付テハ自今別紙ニ據リ整理相成度[illegible]

委任經理ニ屬スル積立金寄託ニ關スル取扱手續

第一　委任經理ニ屬スル積立金ヲ大藏省ニ預入又ハ拂戻ノ手續ハ明治二十六年大藏省令第十九號預金取扱規程ニ依ル[illegible]

第二　委任經理ニ屬スル現金ヲ取扱フ出納官吏ヲ預金預ケ人トス[illegible]

第三　預金拂込證書並領收證書ニ押捺スル印章ハ出納官吏ノ職印（引出切符ニ用ユルモノ）トス[illegible]

第四　預金通帳ハ金櫃ニ收藏スヘシ[illegible]

第五　預金出納及利子收入ニ關スル帳簿ノ整理ハ左ノ各號ニ依ル[illegible]

一　拂込ノ時ハ預金拂込書謄本ヲ作リ證乙號拂戻ノ時ハ預金受入證書ニ依リ證甲號ヲ以テ登記ス[illegible]

二　預金通帳ニ利子ノ登記ヲ受ケタルトキハ預金利子登記證書ヲ作リ證丙號ヲ以テ「諸積立金利子」「大藏省預金」ニ登記ス

（參照）[illegible]

[illegible]預金取扱規程[illegible]

第一條　明治十八年布告第十三號明治二十三年法律第七十五號ニ依ル預金ノ保管受渡ハ此規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス[illegible]

第二條　預ケ人ニ於テ預ケ金ヲ爲ストキハ現金ニ第一號書式ノ拂込書及第二號書式ノ印鑑ヲ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ但第二回以後ノ預ケ金ヲ爲ス場合ニハ印鑑ヲ要セス[illegible]

第三條　金庫ニ於テ前條ノ現金ヲ領收シタルトキハ第三號書式ノ預ケ金通帳ニ記入證印シ之ヲ預ケ人ニ交付スヘシ[illegible]

第四條　預ケ人ニ於テ預金ヲ以テ公債證書ノ購入ヲ請求スルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ其預ケ金ヲ爲シタル金庫ヘ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク該預リ金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ[illegible]

第五條　大藏省ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ休日ヲ除キ五日以内ニ日本銀行ヲシテ時價ヲ以テ公債證書ヲ購入シ之ヲ中央金庫ヘ納付セシメ其額面金高購入代價ヲ記載シタル第五號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ人ヘ送付スヘシ

第六條　大藏省ニ於テ預金制限超過額ヲ以テ公債證書ヲ購入スル場合ニハ日本銀行ヲシテ時價ヲ以テ購入シ中央金庫ヘ納付セシメ其額面金高購入代價ヲ記載シタル第五條書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ人ニ送付スヘシ

第七條　中央金庫ニ於テ前二條ニ依リ日本銀行ヨリ公債證書ヲ領收シタルトキハ第六條

第二十二類　出納　整理

書式ノ保管證書ヲ調製シ之ヲ取扱金庫ヘ送付スヘシ

第八條　預ケ人ニ於テ公債證書購入濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ該通知書ニ式ノ如ク保管證書領收ノ證印ヲ爲シ預金通帳ヘ金庫ヘ差出シ該通帳ニ購入代價ニ對スル預金仕拂ノ記入證印ヲ受ケ保管證書ヲ受取ルヘシ

第九條　預ケ人ニ於テ預金ノ拂戻ヲ要スルトキハ第七號書式ノ領收證書ニ預金通帳ヲ添ヘ之ヲ其預ケ金ヲ爲シタル金庫ヘ差出スヘシ

第十條　金庫ニ於テ前條ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヘ式ノ如ク記入調印シ現金ノ仕拂ヲ爲スヘシ

官立學校及圖書館會計規則第四條ニ依レル預金ノ拂戻額及公債證書購入代金トシテ仕拂額ハ同會計資金部歲出豫算額ニ超過スルヲ得ス（二十七年三月同省令第六號ニテ本條改正）

第十一條　預ケ人ニ於テ公債證書全部ノ受戻ヲ請求スルトキハ保管證書ヘ式ノ如ク裏書ヲ爲シ第八號書式ノ請求書ト共ニ中央金庫ニ差出スヘシ

第十二條　預ケ人ニ於テ公債證書ノ內幾分受戻ヲ請求スルトキハ第九號書式ノ請求書ニ第十號書式ノ領收證書ヲ添ヘ之ヲ中央金庫ニ差出スヘシ

中央金庫ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ保管證書ニ式ノ如ク裏書ヲ爲シ該公債證書ト共ニ返附スヘシ

第十三條　中央金庫ニ於テ前二條ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ休日ヲ除キ五日以內ニ保管ノ公債證書ヲ交附スヘシ

書留郵便其他運送便ヲ以テ遞送ヲ望ムモノアルトキハ預ケ人ノ隨意ニテ之ヲ遞送スヘシ

第十四條　前條ノ遞送費ハ預ケ人ノ負擔トシ書留郵便ヲ以テ遞送ヲ要スルモノハ遞送賃金先拂ヲ以テ遞送スヘシ

第十五條　預金ノ利子ハ毎年三月末日ヲ期トシテ之ヲ計算シ其元金ニ組入ルヘシ

預ケ人ハ毎年六月預金通帳ヲ其預ケ入レヲ爲シタル金庫ヘ差出シ利子元加ノ記入ヲ受クヘシ

第十六條　元金ニ加ヘサル預金ノ利子ハ預金ノ金額ヲ拂戻ストキニ限リ之レカ仕拂ヲナスモノトス預ケ人ニ於テ前項ノ利子ヲ受取ラントスルトキハ第十一號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク利子金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ

第十七條　大藏省ハ前條第二項ノ請求書ニ依リ第十二號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ預ケ人ヘ交付シ請求書ハ案內トシテ之レヲ日本銀行ヘ送付スヘシ

第十八條　預ケ人ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク裏書ニ領收ノ證印ヲ爲シ其通知書ニ記載シタル日本銀行本店支店又ハ代理店ヘ差出シ現金ノ支拂ヲ受クヘシ

第十九條　預金ハ預ケ入レタル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ附セス預金ハ十錢未滿ノ

端金ニ利子ヲ附セス

第二十條　第七條ニ依リ領收シタル公債證書ノ利子ハ中央金庫ニ於テ受取リ取扱ノ金庫ヲシテ之ヲ其所有主ノ預金ニ組入レシメ第十三號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ人ヘ送付スヘシ

第二十一條　預ケ人ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金通帳ニ該通知書ヲ添ヘ其預ケ金ヲ爲シタル金庫ヘ差出シ金額預ケ入ノ記入ヲ受クヘシ

第二十二條　預ケ人ニ於テ預金通帳ヲ返送スヘキトキハ預金通帳ヲ返送ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヲ以テ乙ノ金庫ニテ受渡ヲ請求スルトキハ第十四號書式ノ申込書及印鑑ニ預金通帳ヲ添ヘ乙金庫ヘ差出シ番記號ノ書換ヲ受クヘシ

第二十三條　預ケ人ニ於テ甲ノ金庫ヨリ交附シタル預金通帳ニハ其總代人二名調印シ又社寺教會堂ニアリテハ擔當者一名記名調印スヘシ但法人タルト社寺教會社ニアリテハ擔當者ノ記名調印ヲ要セス

第二十四條　預金ノ受渡ニ關スル書類ニハ共有ニ係ルモノハ其總代人ノ調印ヲ爲シ其擔當者ノ記名調印ヲ要セス

第二十五條　前條ノ社寺教會社ニシテ名義變更改印位置移轉シタルトキハ其旨金庫ヘ届出ツヘシ擔當者總代人氏名變換改印轉住ノトキ又同シ

前項改印ノ届書ニハ印鑑ヲ添フヘシ

第二十六條　前條ノ擔當者及總代人變更シタルトキハ前任者連署ノ届書ニ後任者ノ印鑑ヲ添ヘ（金庫ヘ差出スヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立ツヘシ書式ハ之ヲ略ス）

○臺灣ニ於テ取扱フ壹圓銀貨出納計算整理手續

明治三十一年七月二十五日大藏省訓令第五三號（改正〔明治三十五年六月二十四日大藏省訓令第三四號〕加除〔大藏省訓令第五四號〕）

第一條　出納官吏ニ於テ一圓銀貨及臺灣銀行券ヲ出納スルトキハ公定相場（以下單ニ相場トシ）ニ換算シ帳簿ヲ以テスルモノトス但金庫ヨリノ送金ハ發送當時ノ相場又監守證ニ對シ振替ノ場合ハ監守證ト同額ノ相場ニ依リ拂出スモノトス

第二條　出納官吏ニ於テ現金出納簿ノ外第一號書式ノ一圓銀貨及臺灣銀行券現在高記入簿ヲ設ケ毎日出納終結ノ後現在スル所ノ一圓銀貨及臺灣銀行券ヲ當日ノ相場ヲ以テ其現在額ヲ登記スルモノトス

第三條　出納官吏ハ第二號書式ノ一圓銀貨及臺灣銀行券相場ノ改定アル毎ニ現存スル處ノ一圓銀貨及臺灣銀行券ヲ新舊相場ニ依リ換算記入（現金出納簿ハ差增ヲ受入差減ヲ仕拂ニ立ツルモノトス）シ第三號書式ノ一圓銀貨及臺灣銀行券差增減計算簿ヲ設ケ一圓銀貨及臺灣銀行券ヲ新舊相場ニ依リ換算シ（陸軍所屬出納官吏ニ在リテハ臺灣陸軍經理部ヲ經）民政部ニ發送スルモノトス

第四條　刪除

第五條　刪除

第六條　出納官吏第三條ノ差增ハ之ヲ一般歳入ニ納附シ又差減ハ前條計算表ヲ發送スルト

第二十二類　出納　整理

同時ニ（陸軍所屬出納官吏ニ在リテハ臺灣陸軍經理部ヲ經テ）之レカ補塡ヲ民政部ニ請求スルモノトス但増減ノ爲メ仕拂ヲナシ能ハサル場合モ本文ニ同シ

第七條　收入官吏他ノ職ヲ兼任セサル場合ニ於テ收入金ヲ金庫ニ拂込ミ又ハ監守證ニ對シ振替ヲ爲ストキハ其收入ト同相場ヲ以テ計算スヘキモノトス

前項ニ該當スル收入官吏ハ本令ニ規定スル帳簿ノ設置及計算報告ノ手續ヲ要セス

附　則

第八條　明治三十年大藏省訓令第七十四號ハ本訓令施行ノ日ヨリ廢止ス

第九條　政府極印附一圓銀貨及臺灣銀行券ハ無傷一圓銀貨及臺灣銀行券ト區別ヲナサス計算整理スルモノトス

第一號書式

收入記入簿　現在高

相場	箇數	金代

備考　現在額中ニ臺灣銀行券アルトキハ一圓銀貨相當ノ員額ヲ以テ一圓銀貨ニ併算シ箇數ノ欄ニ掲記スルモノトス

第二號書式

銀貨差增減計算簿

換算額 箇數	換算額 金代	改換算額 相場	改換算額 箇數	改換算額 金代	差增	差減
500	482000	965	500	482500	0500	
2,200	2,120800	〃	2,200	2,123000	2200	
2,700	2,605500	964	2,700	2,602800		2700
2,700	2,602800	968	2,700	2,613600	10800	
8,100	7,811100		8,100	7,821900	13500	2700
	13500			2700		
	7,824600			7,824600		

備考　現在額中ニ臺灣銀行券アルトキハ一圓銀貨相當ノ員額ヲ以テ一圓銀貨ニ併算シ箇數ノ欄ニ掲記スルモノトス

第二十二類　出納　整理

銀一圓

年月日	摘要

一圓

年	月	日	摘要	元 相場
	十二	一	繰越現在高ニテ	964
		三	金庫ヨリ送金ニテ	ク
		六	繰越現在高ニテ	965
		十五	ク	964
			計	
			差額	
			締高	

第三號書式

差増減計算表

改換算額 相場	箇數	代金	差増	差減
965	500	482 500	0 500	
ク	2,200	2,123 000	2 200	
964	2,700	2,602 800		2 700
968	2,700	2,613 600	10 800	
	8,100	7,821 900	13 500	2 700

ニ生シタル換算差増減
無之候也
年　月　日
廳出納官吏官氏名印
藏大臣宛

一圓銀貨

日附		摘要	元換算額 相場	箇數	代金
	一	繰越現在高ニテ	964	500	482 000
	三	金庫ヨリ送金ニテ	ク	2,200	2,120 800
	六	繰越現在高ニテ	965	2,700	2,605 500
	十五	ク	964	2,700	2,602 800
		合計		8,100	7,811 100

一圓銀貨取扱
書面之通相違
明治
何
大

○圓銀差增減歳入納附及補塡請求書

樣式通牒　（明治三十五年十月十三日臺經發第二五九三號經理部長通牒）

本年六月二十四日大藏省訓令第三四號ニヨリ臺灣ニ於テ取扱フ一圓銀貨出納計算整理手續改正相成候就テハ客年三月九日附臺監乙第三七一號ヲ以テ及御通牒置候補塡請求書ハ（本年七月一日以降ノ分ニ對シ）別紙ノ通改正候間同補塡請求書ニ整理手續第三號ノ計算表（副書ヲ要セス）添附差減ノ時

何々請求相成度此段及御通牒
追ヲ本文大藏省訓令改正ノ結果七月一日以降ノ分ニ對シテハ三十四年臺監乙第三七一號
證明請求書及本年三月十二日臺經乙第五六八號（自然消滅ノ義ト御承知有之度右申添
「雜入」「貨幣交換差增」「何部隊歳入納票第　號」

印　長官檢印　納　證

一金、、、、㊞前渡官吏印　「經常收入」「雜收入」「臨時收入」

「但一圓銀貨及臺灣銀行券價格一圓ノ所何年何月何日ヨリ何圓何錢ト改定ニ付保管
現在高一圓銀券何枚ニ對スル差增」

右歳入ヘ納附候也

年　月　日

臺灣陸軍經理部主任現金前渡官吏所屬
何部隊
分任現金前渡官吏　官　氏　名㊞

分任官ハ左ノ如ク記入ヲ要ス

臺灣陸軍經理部主任現金前渡官吏所屬
何部隊分任現金前渡官吏　官　氏　名㊞
何地何部隊

注意「」ノ區畫中ハ朱書スヘシ

「何々第何號」（部隊發翰番號）

補塡請求書

㊞（長官檢印）

一金何　圓　㊞（前渡官吏印）

但明治何年何月何日臺灣總督府告示第何號ニ依リ一圓銀貨及臺灣銀行券價格改定ノ
爲メ生シタル差減額別紙計算表ノ通

右補塡請求候也

年　月　日

臺灣陸軍經理部主任現金前渡官吏所屬
何部隊
分任現金前渡官吏　官　氏　名㊞

分任官ハ左ノ如ク記入ヲ要ス

臺灣陸軍經理部主任現金前渡官吏所屬
何部隊分任現金前渡官吏所屬
何地何部隊

分任官官　氏　名㊞

什拂命令官臺灣總督府民政長官宛

○銀券差減額新舊牒簿記載ノ件　明治三十四年五月十三日　臺監乙第七六九號監督部通牒

舊年度銀貨及銀券差額補塡金未到著以前ニ於テ定額戻入等ヲ要スル場合ハ左ノ例ニ依リ記牒相成可然爲念及通牒

一　例ハ下七卒俸給ニ於テ百圓（貸方）ノ定額戻入ヲ要スルモノニ對シ現金ニテ九十圓（借方）銀貨及銀券差額ニテ十圓（借方）アリトセンカ此場合ニ在テハ銀貨及銀券差額ノ十圓ハ新年度（繰越シ之ニ對スル現金十圓ヲ新年度ヨリ舊年度ヘ移シ舊年度ノ現金ヲ百圓ト爲シテ定額戻入シ舊牒簿ノ締切ヲ爲ス

二　他日銀貨及銀券差減額補塡金到著セハ新年度牒簿相當科目ヘ受入レ整理スルモノトス

㊀圓銀價格ノ件通牒　明治三十四年二月十九日　臺監乙第二六一號監督部長通牒

一圓銀貨及臺灣銀行券價格改定ノ爲メ差增減ヲ生シタルトキ委任經理ノ糧食積立金及歲入歲出外ノ保管現金ニ對シ其差增減金額ハ國庫ノ負擔ニ屬セサルニ付三十一年大藏省訓令第五三號ニ依リ取扱ハサル義ト御承知相成度

㊁保管證書出納簿樣式ノ件　明治三十四年四月六日　臺監乙第五六九號監督部長代理通牒

從來保管證書出納簿樣式各部隊區區相成居候ニ付爾後別紙樣式ノ通一定致度

自明治何年何月
至同　何年何月

保管證書出納簿　廳　名

受入						拂出				
年月日	受領印	保管證書番號	保管證書番號	金額	事由	年月日	印	金額	事由
何年何月何日	㊞	第何號	公債證書	額面金何圓	家計保護	何年何月何日	㊞	額面金何圓	恩給擔收得ニ付下戻
同	㊞	現金何圓保證金	何某	何圓	何契約	何某	㊞	金何圓	契約解除ニ付戻

第何號	預リ券	官	氏	名

一金何圓（公債證書額面何圓）ニ對スル保管證書第何號何枚㊞「出納主任印」

但家計保護金（契約保證金）何何

職印「部隊長職印」

第何號	預リ券	官	氏	名

一金何圓（公債證書額面何圓）ニ對スル保管證書第何號何枚㊞「出納主任印」

但家計保護金（契約保證金）何何

右正ニ預リ置候也

年　月　日

部隊長氏名　職印

○給與原簿取扱手續　明治三十四年四月五日（三十六年送乙第五四一號ノ結）副第四五九號兼條參謀長照會（果被服ニ關スル事項ヲ含ル）

明治三十年十月陸軍省副官通牒送乙第三五一四號其第三項ニ據リ各隊ニ於テ適宜ノ給與原簿ヲ設置相成居候處多數ノ人員ニ對シテ煩雜ノ給與ヲ記註スルニハ其書式煩簡宜シキヲ得ルニアラサレハ終ニハ行務ノ紛亂ヲ來シ原簿ヲ以テ他日ノ紛議ヲ豫防スルノ主趣ニ相戻ルコトナキヲ保セス依テ豫メ原簿樣式ヲ一定シ置クノ必要ヲ認メ候ニ付本年二月監督部經理會議ニ於テ其樣式ヲ各部隊軍吏ニ諮問シ其意見ヲ提出セシメ審議ヲ遂ケ候處其結果別紙ノ通ニ有之右ハ整理上適當ト認メ候ニ付各隊ニ於テ右ニ據リ實施為致其取扱ヲ一途ニ出テシ

候得ハ原簿設置ノ本旨ニ可相稱ト被存候條本年定期交代兵ヨリ右實施致度

給與原簿取扱手續

一　金錢給與原簿ノ樣式ハ別紙ノ通トス

二　金錢給與原簿ハ各中隊ニ一冊ヲ備ヘ其保管及記簿ハ中隊長之ヲ監督スヘシ但大隊本部ハ特ニ一冊ヲ備ヘ金櫃委員ノ監督ニ屬ス

三　金錢給與原簿ハ其支出スヘキ金額ヲ樣式ノ如ク記入シ交附ノ際各自ニ捺印セシムルモノトス

四　削除

五　給與原簿本年定期交代ヨリ之ヲ實施スルモノトス

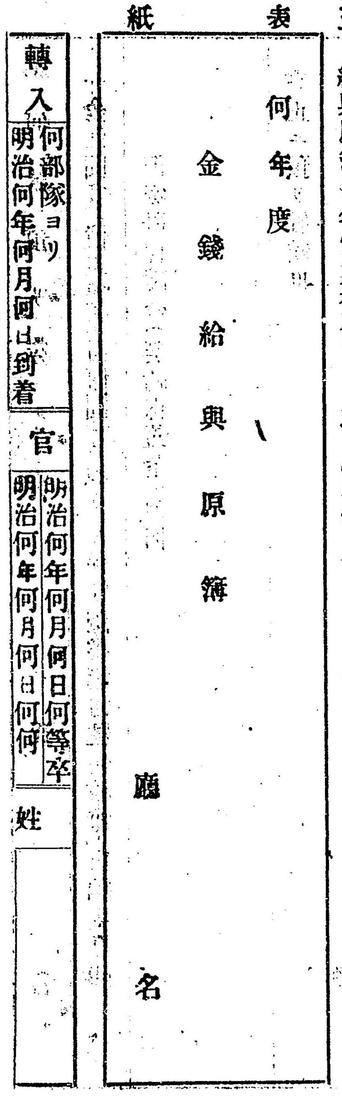
表紙

何年度

金錢給與原簿

何部隊

何中隊



轉入	何部隊ヨリ 明治何年何月何日到着	官等	明治何年何月何日何等卒	姓名	

何部隊ヨリ 明治何年何月何日出發	等	姓名	

區分 年月	第一旬 金額	受領印	第二旬 金額	受領印	第三旬 金額	受領印	雜部 金額	受領印
明治何年何月	十圓 十錢 厘		十圓 十錢 厘		十圓 十錢 厘		十圓 十錢 厘	
	〇五〇〇	「印」	〇三五〇	十一日ヨリ入院「印」	〇五〇〇	二十一日退院「印」	〇二〇〇	旅費手當「印」 二十日

金錢給與原簿記載方注意

一　轉入轉出ハ當該部隊ニ於ケル支給始期終期ヲ示ス必要アルヲ以テ樣式ノ如ク記載スルモノトス但其期日ノ駐劄地到着及出發日ヲ以テ轉出ノ日トス

二　官等ハ支給金額計算ノ基ク所ヲ示ス必要アルヲ以テ樣式ノ如ク記載スルモノトス

三　年月日ノ欄ニ日ヲ掲ケサルハ書肉居住下士以下ノ給料ハ每旬ニ於テ支給スル規定ナルヲ以テナリ之カ爲メ樣式

示ス如ク支給各旬ノ區別ヲ示セリ

四　給料支給ノ停止及減給ノ其事項ヲ明瞭ナラシムルモノトス

五　一時支給ヲ停止シタルモノ後次隊ヲ支給ヲ爲ス場合ニ在テハ其支給金額ヲ一欄ニ記載シ既往每旬ノ金額記載ヲ要セス

六　代金給與ニ係ル食料、旅費、旅次手當等ニシテ各償權者ノ受領證ヲ用ヒサルトキハ雜部金額竝ニ單簡ナル備考及受領ノ日ヲ記載シ押印セシムルモノトス

○糧食費精算證書等書式ノ件　明治三十四年七月十八日　臺監乙第一〇九三號監督部長通牒

委任經理ニ屬スル糧米賄料概算渡ニ對スル精算證書及追受證書等ハ概ネ別紙書式ニ依リ調製相成候樣致度此段及通牒（糧食費ノ定額ヲ前渡金ヨリ受領スル時ノ明細書ハ左ノ樣式ニ準シ調製スルモノトス）

△歲出區分

明治　年　月何部隊賄料精算證書　△印ハ朱書

△項目	△受拂計算表第何號
△一金何程	△年月日仕拂請求書第何號 △年月日仕拂命令何第何號　概算受領高
一金何程	精算高
外（內）	

金何程

決算額內譯

名稱	區分	延賄數	地名	一日一名當	小計
賄料	下士以下何名	何日ト何食	何何	金十六錢八厘	金何程
賄料	士官何名	何日ト何食	何何	金何程	金何程

△何月中入院患者實食數ニ對スル定額如本行

△前同斷但一日一名額ハ食料定額ヨリ精米六合（端食數ハ二合）代ヲ控除シタルモノトス（指定石相場何程）

△追受返納高ハ年月日仕拂請求書何號（戻入納票第何號）ヲ以テ追受（返納）セリ

右相違無之候也

年　月　日

糧食委員首座　官　氏　名　印

追受（返）納高

第二十二類　出納　整理

出納官吏　　三二

	官　氏　名　印
△注　意	
△一決算額内譯ノ合計金高概算受領高ヨリ少ナキトキハ精算高ハ決算額内譯合計金高ヲ掲ク之ニ反シ決算額内譯合計金高概算受領高ヨリ多キトキハ精算高ハ概算受領高ヲ掲ク	

歳出區分

明治　年　月何部隊賄料請求明細書　　△印ハ朱書

仕拂請求書何第何號

△項　目	
一金何程	
△但年月中賄料決算額左記内譯ノ通合計金何程受領スヘキ處年月日仕拂命令△何第何號ヲ以テ金何程概算受領濟ニ付差額追受如本文	
内　譯	

名　稱	區　分	延　賄　數	地名	一日一名當	小　計
賄　料	下士以下何名	何日ト何食	何何	金十六錢八厘	金何程
△何月中入院患者實食數ニ對スル定額如本文					
賄　料	士官何名	△何日トタ（晝）何食	何何	金何程	金何程
△前同斷但一日一名額ハ食料定額ヨリ精米六合（端食ハ二合）代ヲ控除シタルモノトス（指定石相場何程）					
右相違無之候也					
年　月　日					
糧食委員首座					
官　氏　名　印					
右金額正ニ受領候也					

第二十二類　出納　整理

年月日 出納官吏

官 氏 名 印

△一返納證書モ亦此例ニ依ル

經常歲出

明治 年 月何部隊糧米代精算證書 △印ハ朱書

△糧食費 △舊米 △受拂計算表第何號

△一金何程 何年何月仕拂請求書第何號 何年何月何日仕拂命令第何號 概算受領高

一金何程 精算高

外(內)

軍事費

金何程 追受(返納)高

決算額內譯

名稱	數量	地名	指定石相場	小計
糧米	、、	臺北	、、	金、、
上米	、、	、、	、、	金、、

△何月中雜穀混用ニ對スル精米代如本文

△何 洵

△追受(返納)高ハ年月日仕拂請求書第何號(戻入納票第何號)ヲ以テ追受(返納)セリ

右之通相違無之候也

糧食委員首座

年月日 何官 何某 ㊞

第二十二類　出納整理

歳出區分

内譯	項目	一金何程	明治　年　月何部隊糧米代請求明細書　△印ハ朱書
			△但年月中糧米代決算額左記内譯ノ通合計金何程受領スヘキノ處年月日仕拂命令何第何號ヲ以テ金何程概算受領濟ニ付差額追受如本文

△注意

△一賄料精算證書モ同シ

出納官吏

何官何某㊞

名稱	數量	地名	指定石相場	小計
糧米	何	何	金何程	金何程

△何月中雜穀混用ニ對スル糧米代如本文

糧米	何	程	何	金何程	金何程
△何	何	程	何	金何程	金何程

右相違無之候也

年　月　日

糧食委員首座

官氏名印

右金額正ニ受領候也

第二十三類　出納整理

各官廳ニ交通知ス

年　月　日　　出納官吏

官氏名印

一返納證書例モ亦此例ニ依ル

○分任出納官吏印章備付　明治三十三年四月十日　臺監乙第六四二號樺太軍監督部長通知

現金前渡官吏取扱分任官ニ於テモ保管金ヲ金庫ニ依托シ主任官同樣ノ取扱ヲ要シ候モ制規上主任出納官吏ノ外職印使用ノ明文無之候處分任出納官吏ノ印章調製使用ノ義憲兵司令官ヨリ伺出認可相成候間各部隊ニ於テモ右ニ準シ分任出納官吏印章備附使用相成可然筋ト存

○出納官吏資格氏名金庫ヘ通知方ノ件　明治三十四年六月二十一日　坤第四二九一號大藏省主計局長通牒

出納官吏現金取扱規則第四條ニ依リ金庫ヘ通知スヘキ出納官吏ノ資格ヲ具備セサルモノヲモ通知セラルル向有之金庫ニ於テハ帳簿計算表等整理上差支ヲ生ス候趣今般金庫出納役ヨリ申

出有之候ニ付自今會計規則上ノ代理官ニアラサルモノハ通知無之樣相成度

○通知書記帳方廢止ノ件　明治三十四年九月二十日　臺監乙第二四四八號臺部通牒

仕拂命令及通知書ヲ現金出納簿整理簿ヘ登記ノ件三十三年十二月二十五日附臺監乙第二二〇三號ヲ以テ及通牒置候處其筋ノ意見モ有之候ニ付爾後右ノ內通知書ニ限リ現金出納簿整理簿ヘ登記ニ不及候間此段及御通牒

○前渡金過誤拂返納ノ件　明治三十四年三月五日　臺監乙第三五五號監督部

從來前渡金ヲ以テ仕拂ニ係ル過誤拂返納金ヲ出納官吏ニ於テ回收セスシテ直接定額ヘ戻入セシメタル場合モ有之候ニ付將來ハ曩キニ仕拂ヲ爲セシ出納官吏ニ於テ一旦回收ノ上定額ヘ戻入スル義ト御承知相成度

逐テ所屬分隊出納官吏ニハ無洩御通知置相成度

○小包郵便ヲ以テ送ル被服品ハ小包受領證ヲ

以テ仕拂ノ件　明治三十一年十月二十七日　臺甲第九〇號混成第一旅團經費部長實議

標來當地各部各隊下士以下給與被服品ヲ時時便宜ノ方法ニヨリ配賦運搬シ正當債主ノ運搬費受領書ニヨリ仕拂來候處本島駐劄憲兵隊附下士以下ノ如キ少數ノ人員各遠隔セル地方ニ散在セルモノニ在テハ需用員數徒ラニ勘クシテ輸送ノ都度發送スル被服品ハ僅々小梱包ニ過サルモ其運搬費ヲ要シ候處各分隊ノ位置邊疆ナルノ不得止義ニ有之就テハ爾來右ノ如キ場合ニ在テハ憲兵隊ニ不限其他小包郵便ヲ以テ發送シ之レカ爲メ買

收シタル郵便切手ハ被服費運搬費ヨリ支辨シ可然ト存シ候得共類例モ無之様被存候ニ付御意見承知致度

（明治三十一年十一月九日　経二丙第一〇八二號陸軍省経理局第二課長回答）

被服品僅少ノモノニ在テハ小包郵便ヲ以テ遞送シ其費用ハ被服費運搬費ニシテ支辨ノ義ニ付混合監甲第九〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御意見ノ通御取計相成可然ト存候得共小包受領證ヲ以テ仕拂相成度廉費ノ如ク郵便切手ヲ買收シ置キ使用ノ義ハ差支候條右様御承知有之度

（明治三十三年六月十四日　臺騎會發第一七號騎兵第一中隊軍吏照會）

○電話交換局ヘ納附スヘキ登記料ノ件

（明治三十三年六月十五日　臺監乙第一〇四七號監督部回答）

臺灣電話使用規則ニ依リ郵便切手ヲ以テ電話交換局ヘ納附スヘキ加入登記料支出科目ヨリ支出シ可然モノニ有之候哉一應及御問合候間至急何分ノ御指示相成度

（明治三十三年六月十五日　臺監乙第一〇四七號監督部回答）

電話交換局ヘ納附スヘキ加入登記料支出科目ノ義ニ付臺騎會發第一七號ヲ以テ問合ノ趣了承右ハ廳費通信運搬費ニテ支出シ可然存

○勞力目的ノ請負ニシテ金高五百圓以上ヲ五百圓未滿ニ分割シ手續ヲ省略セサル様注意ノ件

（明治三十四年一月十九日　臺監乙第八四號監督部長通知）

勞力ヲ目的トスル請負ニシテ五百圓以上ニ上ルノ見込アルモノハ會計法第二十四條ニヨリ競爭ニ附スヘキ義ニ有之候處右等ノ場合ヲ五百圓未滿ニ分割シ其手續ヲ省略スル等ノコト有之候テハ不容易次第ニ候間爲念此段及御通知

追テ秘密ヲ要スル場合等正當ノ理由アリテ隨意契約ヲナスモ契約書ヲ要スル義ニ有之候

○契約保證金ヲ保證人ノ引受書ニ換ユル件

（明治三十三年六月二十二日　宜計甲第六三號臺灣守備歩兵第八大隊長照會）

殘飯拂下ハ拂下人ト契約シ保證金ヲ徵收シ置クハ當然ノ義ニ候得共分遣隊ノ如キニ於テ其事ハ實際上困難ノ義ニ付保證金ニ換ユルニ確實ナル保證人二名以上ノ引受書ヲ以テ拂下致度希望ニ有之候間一應御意見承知致度

（明治三十三年六月二十六日　臺監乙第一一八〇號監督部長回答）

貴隊分遣隊ニ於ケル殘飯拂下保證金ヲ二十三年勅令第二號ニ依リ取扱ノ義ハ困難ニ付引受人ノ保證ヲ以テ採用方ノ件ニ付宜計甲第六三號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ貴隊ニテ拂受人ト直接契約ヲ締結シ拂受人最寄金庫ノ保管證書ヲ徵シ保管相成候ハハ取扱上何等差支無之様被存候右様御承知相成度

追テ保證金ノ免除ヲ要スル場合ハ二十三年陸達第三十三號ニ依リ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘキ筈ニ有之候

○糧食運搬費等ノ件

（明治三十四年八月三日　雲十經第二八六號歩兵第十大隊軍吏實驗）

一　本隊ヨリ各討伐隊ニ送ル挽割麥ノ運搬費ハ本年二月ノ經理會議ニ於テ臺灣匪徒鎮定費

ヨリ支辨スルコトニ定メラレタリ然ルニ各討伐隊ハ本年四月以降分遣隊ト改稱同時ニ總テノ費用ハ經常費ノ支辨ニ移サルル就テハ右挽割麥運搬費ハ前例ニ準シ糧食費運搬費ノ支辨ニ屬セシメ可然ト存ス

二　各分遣隊（討伐隊）附ノ下士以下病氣ノ爲メ本隊ニ復歸スルモノ竝之カ補缺トシテ交互本隊ヨリ派遣スルモノ等ニ係ル被服（寢具共）運搬費ヲ補給廠ヘ請求セシニ同廠ニテハ各部隊ヘ交付ノ際該隊迄ノ運搬費ト各部隊ヨリ返納ニ係ル運搬費ノ外ハ取扱ハサル旨ヲ以テ返却シ來レリ然ルニ本年度ノ被服費豫算ハ總テ補給廠ノ管理ニ屬セシメラレタレハ軍隊ニテハ同廠ニ請求スルノ外手段無之是等ハ如何處分スヘキヤ

三　前任出納官吏取扱（三十三年八月中）ニ係ル清水溪亡失金二百八十三圓ハ今般會計檢査院ニ於テ檢査判決ノ結果出納官吏ハ負擔ノ責ヲ免カレタリ就テハ此缺損補塡ハ豫算增額申請ノ手續ヲ爲サストモ增額可相成義ナルヤ

四　本年六月二十九日付臺監乙第九八三號通牒第七師團監督部質議書ノ第一ニ依レハ委任經理ニ係ル糧食費ノ概算渡金ハ仕拂命令官（內二箇ハ下士ヲ以テ隊長トス）アリ之ヲ一一仕拂命令官ヨリ直ニ請求者ニ交附スル方至當ナルカ如シ然ルニ當隊ノ如キハ七箇ノ分遣隊（內二箇ハ下士ヲ以テ隊長トス）アリ之ヲ一一仕拂命令官ニ請求スルハ煩雜ニ渉ルノミナラス本科ノ青年將校等ニ對シ之カ請求又ハ決算等ノコトヲ示スモ容易ニ了知セサル向多シヨシ之ヲ爲サシムルトスルモ結局其事務ハ軍吏ヨリ補助セサレハ爲ス能ハス且各官ヨリ依頼サルルモノニ對シ軍吏ハ德義上勿附ケル譯ニモ至ラス忍ンテ之カ處分スル場合多シトス故ニ努メテ事務ヲ省略センコトヲ望ムナリ依テ成シ得ラルレハ水官ノ概算受內ヲ以テ交附シ每月決算セシムルコトニスレハ手數モ省ケ且之ハ內部ノ整理ニ止リ強テ他ニ差響キナカルヘシト存ス如何ノモノニヤ

五　當隊委任經理ニ係ル糧食費七月分追ハ已ニ前渡金ヲ受ケ整理セリ八月以降ハ概算受メ手續ヲ爲シアリ就テハ此際前渡金ノ殘金ハ定額戻入スヘキモノト存ス

六　概算受ニ對シ殘金アルトキハ每月定額戻入スヘキヤ又ハ翌月ニ差繼クコトヲ得ルヤ成シ得レハ後段ノ如クナランコトヲ望ム

七　衞生上營內濕氣地及便所其他床下等ヘ散布スル石灰代金ハ軍隊需品費ノ豫算內ニテ支辨シ得ラルル限リハ之ヲ仕拂差支ナキヤ

（明治三十四年八月十六日臺監乙第一二七四號監督部長回答）

經理上疑義ノ廉雲上經第二八六號ヲ以テ貴隊軍吏ヨリ質議ノ件ハ左ノ通御承知相成度此段及御回答

第一項　委任經理ノ負擔ニ屬ス

第二項　豫算ノ許ス限リ補給廠管理被服費ヨリ支辨ノ等但補給廠ト協議濟（經徃錄定費支出ノ結果經徃錄定費支辨トナル）（經徃錄定及整理規定制定）

第三項　缺損補塡方其筋ヘ申請相成然ルヘシ

第四項　意見ノ通ニテ差支ナシ

第二十二類　出納　整理

第五項　軍隊旅行演習旅行等ノ爲メ將來仕拂見込アレハ定額戻入セサルモ妨ケナシト存ス

第六項　當分毎月返納スル義ト承知アレ（三十五年一月臺監乙第一八六號ニ依リ翌月ヘ繰越スコトトナル）

第七項　意見ノ通ニテ差支ナシト存ス（三十六年八月臺經發第二、九三（九號ニ依リ臨費支辨トナル）

○運搬費整理ノ件　明治三十二年五月二十九日臺監乙第七七九號監督部長通牒

從來運搬費ノ整理方區々ニ渉リ例ヘハ被服品兵器彈藥等運搬ノ爲メ傭役セシ人夫賃ヲ傭人料ヨリ支出相成候向間々有之候處右ハ整理科目ニ不適合ト存シ候就テハ三十二年度ヨリ一定爲致度候間陸軍省所屬歳出科目表ヲ據リ各項ニ運搬費ノ目節アルモノ（糧食費被服費兵器彈藥費馬匹費）ハ各其相當費目ニテ整理相成度

○分遣隊交代ノ際被服運搬費支出科目　明治三十四年七月二十四日守歩九倉發第一三一號歩兵第九大隊軍吏實議

ノ件

各分遣隊交代ノ際下士以下分遣中所要ノ被服品中各自背嚢ニ著裝スヘキ以外ノ被服ヲ運搬スルニ要スル經費ハ內國旅費ヨリ支辨致差支無之候哉若シ該科目ヨリ支出難致場合ハ何レノ科目ヨリ仕拂フヘキモノニ候哉目下差掛リタル事件有之候間折返シ御定議承知致度

明治三十四年七月三十日臺監乙第一一七〇號監督部長回答

分遣隊交代ノ際下士以下被服品中各自背嚢ニ著裝スヘキ以外ノ被服運搬費支出科目ノ義ニ付會發第一三一號ヲ以テ貴隊軍吏ヨリ問合ノ趣了承右ハ陸軍旅費規則第二十四條ニ依リ同第七表ノ範圍內ハ旅費ノ支辨ニ屬スル義ト承知相成度（廿六年臺經發第二、〇四六號參照ヲ要ス）

○雇員傭人入病院中解雇傭後ニ要スル藥品等支辨

ノ件　明治三十三年三月六日臺醫庶第四七號臺灣陸軍々醫部長照會

陸軍省雇員又ハ傭員ニシテ傭戍病院入院中解雇又ハ解傭トナリタル際ハ直ニ退院セシムルハ當然ナルモ若シ重症ニシテ且引取人ナク又遂ニ死亡シタルトキハ其解雇傭當ヨリ藥品食餌死亡後ノ費用等何レニ於テ支辨スヘキモノナルヤ右ハ患者ノ等症ニヨリ取扱上ニモ影響ヲ及ホシ可申哉

明治三十三年三月七日臺監乙第三七五號監督部長回答

陸軍省雇員又ハ傭人ニシテ傭戍病院入院中解雇解傭トナリタル者重症ニシテ且引取人ナキ爲メ退院セシメ難ク又死亡シタルトキ其解雇解傭後ニ於ケル藥品食餌又死亡後ノ費用等支辨方及病症ノ等差ニ依リ取扱上ニ差違無之哉ノ義臺醫庶第四七號ヲ以テ御問合ノ趣了承右ハ臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則第七條第一項但書及第十七條第十八條ニ依リ官費支辨ニ屬シ且病症ニ依リ差違無之義ト存ス

○臺灣匪徒鎭定費支出及整理規程　明治三十五年十二月二十六日總達第二〇號總督達

臺灣匪徒鎭定費支出及整理規程別冊之通相定ム

第二十二類　出納　整理

第一款　總則

第一條　匪徒鎮定費ノ支出及決算ニ關シ本規程ニ定ムルモノノ外ハ一般ノ規定ニ依ル

第二條　匪徒鎮定費ヲ以テ支辨スヘキ場合概子左ノ如シ

一　冬防
二　匪徒討伐
三　匪徒捜索
四　示威行軍
五　前諸號ノ外軍隊ノ匪徒鎮壓ノ目的ヲ以テ臨時一地ニ駐留スル場合

第三條　匪徒鎮定費科目解釋ハ第一表ニ依ル

第四條　匪徒鎮定費ハ陸軍幕僚之ヲ管理ス

第五條　匪徒鎮定ノ爲メ軍隊ヲ派遣スルトキ團隊長ハ速ニ其期間ニ要スル匪徒鎮定費仕拂豫算書（第一號標式）ヲ提出シ豫算使用ノ認可ヲ受クヘシ但緊急ノ場合ニハ臨機處分ノ後本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　匪徒鎮定費ニ係ル請求書納票及決算書類ハ總テ陸軍幕僚ヲ經由スヘシ

第二款　支出

第七條　第二條各號ノ目的ヲ以テ其地ニ派遣セラルル軍隊ノ經費ニシテ特ニ匪徒鎮定ノ爲メニ要スルモノノ外ハ經常費ニ屬ス

第八條　團隊長ハ臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則細則第十三條ニ依リ增給加給ノ必要ヲ認ムルトキハ豫シメ其品目數量及金額ノ調書ヲ添ヘ申請スヘシ但シ事急ニシテ其暇ナキ場合ニ限リ適宜處分ノ後チ其事由ヲ具シ速ニ報告スヘシ

第九條　前條加給品ハ經理部ヲシテ之ヲ交附セシムヘシ

第十條　臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則第七條第一項第二號ニ依ル期間軍人軍屬ニハ陸軍旅費規則第五表ノ旅次手當ヲ給ス

第十一條　憲兵守備部隊ニ附屬シ匪徒鎮定ニ從事スル場合ノ費用ハ本規程ニ準シ匪徒鎮定費ヲ支辨ニ屬ス

第十二條　第二條各號ノ場合ニ於テ必要止ヲ得サルトキニ限リ團隊長ハ軍人軍屬外ノ者ニ糧食ヲ給與スルコトヲ得

第十三條　匪徒ヲ捕獲シ之ヲ軍隊ニ留置スル間ノ食料ハ一日十五錢以內ニ於テ實費支辨スヘシ

第十四條　前二條ノ場合ニ於ケル糧食費ハ匪徒鎮定費ニ屬ス

第三款　決算

第十五條　匪徒鎮定ヲ終レハ團隊長ハ速ニ匪徒鎮定費實費仕拂報告書（第一號標式）ヲ提出スヘシ

第四款　附則

第二十二類　出納　整理

第十六條　本規程ハ明治三十六年一月一日ヨリ之ヲ實施ス

第十七條　本規程實施ノ日ヨリ明治三十四年總達第二三號及本規程ニ矛盾スル總テノ規定ヲ廢止ス

第一表

臺灣匪徒鎮定費科目解疏

款、項、目	節	解疏
臺灣匪徒鎮定費		
兵器彈藥費		兵器ノ修理軍隊ニ於テ爲ス分手入等ニ要スル費用
糧食費		臺灣島澎湖島駐劄陸軍部給與規則細則第十三條及第廿七條第三項ニ依リ給スル糧食品購買代及食料竝窓兵糧食費等
被服費		綿帶包、足袋、草鞋、防蚊具代
患者費		患者用車馬輸賃治療用消耗品及衞生用機械修理代等
器具雜品費		各種筆紙墨類、各消耗品、器具買入及修理代被服乾燥用及衞兵所用薪炭、藁等
郵便電信料		郵便稅、電報料等

第一號樣式

明治　年　月　何何地匪徒鎮定費實費報告（豫算）書

一金何程　部隊……號

內譯

金何程　何月何日ヨリ何月何日マデ實費（豫算）

金何程	兵器彈藥費	
（朱）大砲手入用木綿三反壹反ニ付金何拾錢		
鞭撻鍬壹個修理代		金何拾錢
金何程	糧食費	
（朱）何月何日及何月何日增給用精米何斗何升壹升ニ付何拾錢小計何圓		
右副食物代何圓		
運搬費		兵器彈藥、糧食品、被服品、炊具、器具機械、公用行李、雜品等梱包材料荷造賃及其運搬車馬人夫賃等（運搬ニ要スル數用ハ總テ含有ス）
旅費		旅次手當、鎮定ニ關シ旅行スルモノノ旅費、行軍途中茶代等
傭人料		水汲人夫雜役人夫使丁賃等（運搬ニ關セサルル人夫賃一切）
雜件費		宿舍料、廐舍損料、事務所、衞兵所、診斷所、炊事場等ノ手當、借家料、風呂桶、ランプ等借入損料其他前各節ニ入ラサル物件費

何月何日加給用巻烟草何百本ニ付何拾錢　小計何圓

金何程　被服費

（朱）足袋何足　壹足ニ付何拾錢
草鞋何足　同　何錢
小計何圓
小計何圓

金何程　患者費

（朱）何所ヨリ何所ニ至ル何里後送患者何名分糒賃壹人金何拾錢

金何程　器具雜品費

報告用紙何百枚　壹枚何厘
（朱）何何……
何何……
小計何拾錢

金何程　郵便電信料

（朱）何錢　切手　何枚代
何何　何枚代

金何程　運搬費

被服品梱包用莚何枚　壹枚何拾錢
同　繩何把（何百匁）　壹把（百匁）
（朱）右荷造用人夫賃何名分壹名何拾錢
精米何石何斗（何斗入何俵）何所ヨリ何所マデ運搬人夫賃延何名分一日一名何拾錢　小計何圓
器具器械及雜品何拾何貫匁（何貫匁梱包數何個）何所ヨリ何所ニ至ル運搬ノ爲メ何月何日ヨリ何月何日迄人夫何名分一日一名何拾錢
（朱）（同一物ノ運搬若クハ一地ニ滯在中人夫賃ヲ異ニスル分ハ各別ニ記載スヘシ）
小計何圓
小計何圓

金何程　旅費

中少尉何名延何日分旅次手當
軍曹何名延何日分同
何何
何何
小計何圓

金何程　傭人料

（朱）何所ニ於テ水汲人夫賃何名分一日一名何拾錢
何所ニ於テ何何用人夫賃何日ヨリ何日迄延何日分一名何拾錢
小計何圓
小計何圓

金何程　雜件

何月何日ヨリ何月何日迄准士官以上宿舍料延何名分一名何錢　小計何圓
（朱）同　下士以下
何何
何何
（注意）備考複雜ニ渉ルモノハ内譯書ヲ添附スルモ可ナリ

右之通候也

年　月　日

備考　本報告（豫算）書ニハ出張人員各階級ニ表ヲ附スヘシ

團隊長　㊞

○憲兵討伐及捜索演習等ノ爲メ出張スルモノノ糧食及旅費支出區分ノ件

明治三十五年二月十日　憲經乙第二八四號經理部長通牒

第二十二類　出納　整理

憲兵ニシテ土匪討伐及土匪捜索、演習ノ爲メ出張スル者ノ糧食及旅費支出區分左ノ通御承知相成度此段及御通牒

一　憲兵ノミ土匪捜索等ノ爲メ出張ノ場合ニハ憲兵費旅費ノ支辨トス

二　憲兵軍隊ニ附屬シテ土匪討伐又ハ捜索ノ目的ヲ以テ行動スルトキハ糧食ハ現物給與ニシテ匪徒鎭定ノ支辨トス

三　憲兵演習ノ爲メ軍隊ニ附屬シテ出張ノトキハ糧食ハ軍事費演習費ノ支辨トス

四　憲兵入病院中ノ糧食ハ軍事費糧食費ノ支辨トス

○旅費及被服運搬費支給竝支出科目ノ件

（明治三十四年十月二十一日會發第二五三號第三旅團司令部軍吏質疑）

一　測圖出張ノ將校カ携行スル測量器械運搬費ハ輕便鐵道ニ託スル時ハ其臺車賃ヲ旅費ニテ決算シ人夫ヲシテ擔送セシムル時ハ傭人料ニテ仕拂來レリ右支出科目ハ正當ト存スレトモ測量費用算定ノ上ニ於テ人夫賃モ旅費ニテ決算スル方取扱上都合好シ差支ナキヤ

二　分遣交替ニ要スル被服運搬費（備附被服ハ補給廠ノ運搬費ヨリ支出ス）ハ旅團司令部傭人料ヨリ支出スル事ニ成リ居レリ故ニ輕便鐵道臺車ニテ運搬スル時ハ其臺車賃ハ後押人夫ノ名義ヲ以テ傭人料ヨリ仕拂フノ外ナシト存ス差支ナキヤ

三　下士候補生修業ノ爲メ分遣隊ヨリ大隊本部ヘ集合スル上等兵ノ旅費ハ實費支辨ナルヲ以テ其被服運搬費ハ補給廠被服運搬費ヨリ支出スヘキモノト存ス如何

四　臺灣總督府國語學校土語科卒業生ヲ旅團司令部通譯ニ採用シタリ其手續ハ最初民政長官ヨリ通譯需要ノ有無照會アリシニ付當部所要ノ人員回答シ（呼出狀ハ發セス）本人著南ノ上通譯任命ノ辭令ヲ交附シタリ即チ拜命地ハ臺南ナルヲ以テ旅費規則第十二條ニ依リ赴任旅費ヲ支給セス然ルニ民政部學務課長ヨリ國語學校卒業生ノ赴任旅費ハ各官衙共支給致居候旨申來候右ハ陸軍給與法規ノ上ニ於テ支給スヘキ筋ニ無之ト存ス御定議如何

（明治三十四年十一月二日　憲監乙第一七一九號監督部長回答）

旅費及被服運搬費等支給方竝支出科目ノ義ニ付十月二十一日附會發第二五三號ヲ以テ貴部軍吏ヨリ當部宛質議ノ趣了承右ハ左ノ通ト存候間及御回答

第一項　通信運搬費ヨリ支出スヘキモノト存ス但人夫ヲ傭役シタルトキハ傭人料ノ支出トス

第二項　旅費規則第七條定量ノ外ハ悉ク被服運搬費ヨリ支出スヘキモノニシテ假令人夫ヲ以テ運搬セシムルモ傭人料ヨリ支出スヘキモノニアラスト存ス

第三項　本人ノ携行セサルモノ即チ追送ヲ要スルモノハ御意見ノ通

第四項　呼出狀ヲ發セサルモ事實採用ノ爲メ召喚シタルモノナレハ旅費規則第十七條第六號ニ依リ支給相成可然存ス

○被服運搬費支辨範圍ノ件　明治三十四年十一月十三日　副第一二二三號暮僚參謀長通牒

本島守備隊移動（本島内地間ノ）ニ關スル被服運搬費ハ匪徒鎮定費及陸軍旅費規則第二十四條ニ屬スルモノノ外ハ補給廠管理ノ被服費ヲ以テ支辨スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候ニ付自今同廠ヘ請求相成度此段及通牒

追テ土匪討伐ノ搜索等ノ爲メ某地ニ派遣スル軍隊ニシテ經常費ニ移リ駐屯スル場合ニ在テハ其限界ヲ分明ナラシムル爲メ其都度當該補給廠ヘ通報相成度申添

○蟲害豫防樟腦代支出科目ノ件　明治三十四年十月十一日　補丙發第九八八號補給廠長問合

本島ニ在テハ内地ト異リ各種蟲類多ク爲メニ被服品ニ其害ヲ蒙ル夥キヲ以テ今般當廠專賣局製造ニ係ル有效ノ防蟲劑（樟腦精製ニ當リ副產ニシテ自然製出セラルルモノ）ヲ購買シ之ヲ庫内ニ撒布シ以テ斯害ヲ防キ度候處支出科目ニ於テ當該官廳ニ要スル貯藏圖書等ノ蟲害ヲ防ク目的ヲ以テ購買スルモノハ全然糧費ヨリ支辨差支無之樣被存候果シテ然ラハ米麥其他ノ被服費ヨリ支辨スルモノニ在テハ適當ノ支出科目無之疑義相生候間御糧食品ニ發蟲驅除ノ目的ヲ以テ購買スルモノニ在テハ適當ノ支出科目ヲ以テ御定議承知致度此段及御問合

明治三十四年十月十四日　暮僚乙第一五六五號監督部長回答

蟲害豫防用トシテ樟腦購買代支出科目ノ件十月十一日附補丙發第九八八號ヲ以テ御問合ノ趣了承右商段ハ御意見ノ通後段ハ雜費消耗品ヨリ支出相成可然存候間此段及御回答

○乘馬送還費日額議ノ件　明治三十五年一月十八日　陸普計第五號暮僚參謀長質議

元總督副官小澤德平上京滯在中客年十二月二十五日免本職陸軍省出仕被仰附候處當府在職中ヨリ引續乘馬一頭當僚ヘ繫畜有之依テ今回該馬匹ヲ東京本人宅ヘ送還可致就テハ其費用等左ノ通ニテ可然哉及質議

一　當僚ニテ馬匹口取人夫一人ヲ傭入其給料ハ一日金七十錢以内トシ東京著ノ日マテ支給スルコト

二　馬匹及口取人夫ノ臺北基隆間汽車賃實費ハ官費仕拂フコト

（二項）神戸上陸後東京著マテノ馬匹旅費ハ本人ニ支給シ馬匹及口取人夫汽車賃ハ本人ノ支辨ニ屬スヘキ乎然ルニ本人ハ還羅ヘ出張中ニテ委任狀若クハ請求書ヲ出サシムルハ容易ナラス依テ馬匹汽車賃ノ實費ニ依リ官費仕拂フ

四　前項ノ期間馬糧代ハ實費ニ依リ官費仕拂フ

五　第三項ヲ給料ハ傭人料ヨリ第四項ノ馬糧代ハ飼養品ヨリ支出シ可然哉

（別紙）　明治三十五年一月二十二日　臺監甲第二四號經理部長回答

一月十八日附陸普計第五號ヲ以テ小澤副官轉職ニ關シ馬匹ノ内地ヘ還送費支辨方御質議ノ趣了承右ハ左ノ通御廻相成度此段及回答

第二十二類　出納　整理　五五

第一項　御意見ノ通但給料ハ一日五十錢ヲ目途トシテ支給ノコト
第二項　御意見ノ通
第三項　前段御意見ノ通
第四項　御意見ノ通
第五項　第一項ノ給料第二項第三項ノ汽車賃ハ御意見ノ通第四項ノ馬糧代ハ旅費ノ支辨トス（三十五年臺經發第九二〇號通牒ノ結果馬糧代ハ飼養品ノ支辨トナル）

○經費繰越取扱方ノ件

明治三十五年五月三日　副第五三九號幕僚參謀長移牒

經費繰越取扱方ノ件ニ付別紙送乙第一〇八八號ノ通通牒有之候條及移牒

（別紙）

送乙第一〇八八號　明治三十五年五月三日　陸軍省總務局旅務課長通牒

從來經費ノ繰越ハ各官衙長官ノ申請ニ對シ一々御指令相成來候處自今ハ認可不相成モノニ限リ御指令相成其認可相成候モノハ仕拂豫算ニ明記シテ令達セラルルコトニ定メラレ候間此段及御通牒

○百斯篤病豫防法施行ニ關スル費用支辨

件　明治三十一年六月十日　送乙第一八五號陸軍次官通牒

ペスト病豫防法施行ニ付各部隊ヨリ經費增額ノ儀續々申請相成候處未タ該患者ヲ發生セサル兵營及屬舍ニ在テハ平常行フ清潔法ヲ勵行シ可然隨テ費用ノ義ハ豫算定額內ヲ以テ支辨可有之尤モ該患者發生シタル後之ニ要スル消毒藥ノ義ハ本年陸達第三十三號第十八號ニ準據シ其他ノ費用ニシテ豫算定額內ヲ以テ支辨シ能ハサル分ニ限リ增額開申可相成義ト承知可有之

追テ消毒施行方法是迄區區ニシテ徒ラニ屬スルモノアルヤニ被存候間爾後必ス軍醫部長ノ計畫ニ依リ且其意見書添付ノ上申請可有之又清潔法ニ伴フ修繕費用ハ經營部豫算定額內ヲ以テ支辨シ若シ別途支出ヲ要スルトキハ經伺ノ上實施スヘキ義ト承知可有之

○墓標改築ニ要スル支出科目ノ件

明治三十三年一月十二日　臺監甲第一六號臺灣陸軍監督部長問合

臺島內陸軍墓地ヘ埋葬シアル軍人軍屬ノ墓標漸次腐朽シ改築ヲ要スル時其支出科目ハ雜給及雜費埋葬費ヨリ支出シ可然ト被存候得共爲念御意見承知致度

明治三十三年一月二十七日　電報經理局第三課長回答

答墓標改築ハ新營費ニ屬ス

○糧食品等市場直買ノ節代金概算渡竝ニ注文傳票

發否等ノ件　明治三十五年三月二十日　第一二三旅團軍吏實議

御用商人又ハ市場ニテ直買ヲ爲ス時ハ糧食委員若クハ炊事掛ニ賄料概算渡ヲ爲シ差支ナキヲ果シテ然ラハ正當證書ヲ得難キ場合多キヲ以テ仕拂證書ヲ以テ證明シ可ナル又注文傳票ヲ發セサルモ可ナリト信ス如何

二　戦用事務用品ヲ經常費ニテ買收スル時ハ一旦通常物品會計ニ受入レ更ニ戦用品帳簿ニ組替記入スヘキカ（ハ）

三　隔地ニ注文シ物品ヲ買收スル時ハ注文傳票ヲ換フルニ納入ヨリ請書ヲ徴シ之ヲ契約書ト見做シ差支ナキモノト存ス如何

四　葉浦團保存期限改正セラレタルモ其以前ニ於ケル舊式地質ノ現品ハ改正ノ保存期限ニ依リ交換申出差支ナシト存ス如何

右及質議

明治三十五年三月二十二日
臺經乙第六四三號經理部回答

答

第一項　既算渡ヲ爲スコトヲ得ス出納官吏若クハ分任官ヲシテ仕拂ハシメ然ルヘシ仕拂證書ハ事實正當證書ヲ得難キ場合ニ限ル又市場ニ於テ直買スル時ハ注文傳票ヲ省畧スルモ差支ナシ

明治三十五年六月二十三日
守備第五二號騎兵第二中隊品照會

第二項　經常費ヲ以テ戦用品ハ買收シ得サルナリ

但經常費ヲ以テ買辨シタル通常物品ト雖モ必要上戦用ニ組替ユルハ差支ナシト存ス

第三項、第四項ニ差支ナシト存ス

○軍隊經理規程解釋ノ件

明治三十五年六月二十三日
守備第五二號騎兵第二中隊品照會

軍隊經理規定中左記ノ件件御定議承知致度

一　當中隊ニ於テ經理規程ニ依リ諸般ノ委員トナリ得ヘキ將校ハ全ク現員貳名ナリ然ルニ糧食委員ハ乘馬隊ニ在テハ首座ト共ニ最少限三名ノ規定ニシテ此人員ヲ減スルコトハ本規程ノ趣旨ニ背戻スルモ已ニ委員タルヲ得ヘキモノノ資格ハ自ラ定マリアルヲ以テ當隊ノ如キ人少此人員ヲ充スコト能ハサルモノハ經理規程第十五條ノ意義ヲ擴張シ委員ヲ二名（首座共）トナシ差支ナキモノト解釋シ可然哉

二　命櫃委員ハ現員二名ノ將校中中尉ヲ首座ニ少尉ヲ委員トナシ居レリ然ルニ此二名中出張或ハ疾病事故ニ仍リ不在者アル時正當ニ之カ代理ヲナスヘキモノナシ此場合ニ在テハ委員少尉ニ首座ノ代理ヲナサシメ委員ノ代理ハ置カサルモ差支ナキヤ若シ差支アリトセハ本官自ラ委員少尉ノ事務ヲ取扱ヒ可然哉

明治三十五年六月二十七日
臺經發第一二八號經理部長回答

軍隊經理規程中解釋ノ義ニ付守騎第五二號ヲ以テ御照會ノ趣左ノ通リ御承知相成度

第一項　御意見ノ通リニテ差支ナシト存ス

第二項　隊長自ラ委員首座ノ事務ヲ取扱ヒ若クハシメ可然存ス

○馬匹輸送費用支辨方ノ件

明治三十五年九月二日
副第九五二號臺灣副官質議

基隆兵器支廠ニ於ケル繁畜馬匹ハ當僚管理ノ馬匹ヲ以テ補充スヘキ儀ニ候處右補充又ハ交換等ノ際馬匹牽連者旅費仕拂上疑義ヲ生シ候ニ付左ノ件及質議

一　當僚常傭馬丁ヲシテ兵器支廠マテ牽連セシムルトキ馬匹及馬丁ニ係ル一切ノ費用中馬糧代ハ相當科目ヨリ其他ハ實費ヲ旅費ノ科目ヨリ支辨シ可然哉

諸費ヨリ支辨シ可然哉

二　交換若クハ返納ノ爲メ該支廠ヨリ同廠馬丁若クハ常傭馬丁ヲシテ馬匹ヲ當僚ヘ牽連シタルトキ其總テノ費用ハ該廠ノ經費ニテ支辨シ可然哉

但交換馬匹ヲ牽連歸廠スルトキモ亦本文同樣ニテ可然哉

三　前項ノ馬匹口取人夫トシテ臨時傭人ヲ使用スルトキハ相當ノ給料ヲ給シ外ニ片道ノ汽車賃及食餌等ノ費用ハ前項ニ準シ實費ヲ官費支辨シ可然哉

明治三十五年九月四日
書經發第二二二八號經理部長回答

副第九五二號ヲ以テ貴僚管理ニ屬スル繫畜馬匹ヲ兵器支廠ヘ補充又ハ交換ノ際馬匹牽連者旅費仕拂上ノ義ニ付御質議ノ趣左ノ通リ御承知相成度

第一項　後段御意見ノ通リ

第二項　將校乘馬取扱規則第二十四條ニ依リ陸軍幕僚ニ於テ支辨スヘキモノト存ス

第三項　御意見之通リ

○記牒科目增置ノ件

明治三十五年九月八日
書經發第二一三六號經理部長通牒

明治三十五年陸達第二十一號簿表規程附屬樣式第七備考ニ依リ記牒科目別紙ノ通增置ス此段及通牒

位次	科目	增設
上長官及士官俸給ノ上位ニ	將官俸給	
下士卒俸給ノ次位ニ	判任俸給	
	備品費	
圖	圖書及印刷費	
筆	紙墨文具	
消	耗品	
通	信運搬費	
兵	器支廠需品費	
內	國旅費	
犯	罪人護送者旅費	
赴	任歸鄉旅費	

出張旅費	
徴募召集旅費	
入學復歸旅費	
臺灣及韓國交代旅費	
軍隊旅費	
轉地療養旅費	
犯罪人護送者及滿刑歸隊旅費	
雇員給料	
傭人料	
雜費	
食糧運搬費	

賄料ノ次位ニ

被服製造及購買補修費	
被服運搬費	
兵器費	
彈藥費	
工兵器具費	
裝蹄剔毛費	
飼養馬諸費	
送馬運搬費	
馬匹育養諸費	
教療器械費	
醫療劑費	
藥室消耗品費	
病	

飼養品ノ次位ニ

演習諸費ノ次位ニ

○前渡金請求方ノ件　明治三十六年三月三十一日　臺經發第一、一五五號經理部長通牒

看護費	
病室雜品費	
派遣隊需品費	
船舶及汽車費	
輸送旅費	
輸送費備給	
輸送費雜品費	
輸送費建造費	
輕便鐵道費	
臺灣匪徒鎮定費	
銀貨及銀行券差額	

運輸不便ノ地ニ於ケル前渡金ハ年度ノ初月ニ於テ三ケ月分マテノ所要額ヲ請求シ得ルコトハ去ル三十四年二月經理會議ニテ決定致居候處來ル三十六年度ヨリ右標準額ハ一ケ月半分ニ改正致候間此段及御通牒

○委任經理檢查及證明手續　明治三十六年四月二十四日　臺經發第一、四八八號經理部長通牒

臺灣陸軍經理部檢查ニ係ハル委任經理檢查及證明手續別冊之通改正シ三十六年度ヨリ執行致候此段及通牒

（別冊）

第八條　臺灣陸軍經理部檢查ニ係ハル委任經理檢查及證明手續

第二條　本手續ハ委託檢查ニ係ハル金錢物品出納證明及檢查規定委託檢查取扱順序ニ據ル外細部ノ手續ヲ規定ス

第二條　委任經理ニ係ハル物品ノ檢查證明ハ臺灣陸軍經理部ノ檢查ニ係ハル物品會計檢查及證明手續ヲ準用ス

第三條　金錢ノ收支ハ每月決算證明スヘシ

第四條　檢查證明ヲタメノ提出スル書類ハ左ノ如シ

一　出納計算書

二　糧食諸品決算表及飼養諸品決算表

三　收支證憑書

（陸軍簿表規程第二十號樣式）

（陸軍簿表規程第二十八號第二十九號）

（仕拂證明規程及收入證明規程ニ據ルノ外第六條ノ區分ニ據ル）

四　年計受拂計算表　（出納計算書ニ準ス）

第五條　前條ノ計算書及證憑書ハ翌月盡日迄ニ年計受拂計算表（正副二通）ハ年度經過後三十日以内ニ發送スヘシ

第六條　證憑書區分ハ第一號表ノ如シ

但物品購入代受領證書ノ内譯ハ注文傳票ヲ應用スヘシ

第七條　證憑書ハ收入支出ノ二部ニ大別シ出納計算書ノ科目順序ニ編纂シ金額通計表（第三號樣式）表紙（第二號樣式）ヲ附シ袋綴トナスヘシ

但組替證書ハ正本ヲ收入ニ謄本ヲ支出ニ綴込ム可シ（雜穀料庖厨諸品等ノ組替證書ハ購入代受領證書ニ添附スヘシ）

第八條　檢査ヲ經ケタル證憑書ハ當該隊ニ還付ス

第一號表

區分 / 科目	定額受入	雜入	費消	雜出
賄料	定額仕譯書	定額以外ノ受入證書	魚菜、庖厨諸品購入代及代金渡受領證書（庖厨諸品組替證書添附ヲ要ス）	
	現員ニ對スル定額	一年志願兵自辨金組替證書		
		定額不足組替證書	定額殘組替證書	
麵包又ハ雜穀ニ對スル精米代	定額仕譯書		雜穀購入代受領證書（雜穀料組替證書添附ヲ要ス）	
	代用品費消高ニ對スル米代	定額不足組替證書	定額殘組替證書	

代金渡ニ對スル精米代	定額仕譯書 給與規則細則第四十六條ニ係ル受入金		代金渡受領證書 旅費等ヘ入戻證書入戻ヲ受ケタル出納官吏ノ受領證書	
夜食料	演習費等ヨリ定額組替證書	定額不足組替證書	物品購入代受領證書	定額殘組替證書
糧食積立金		殘飯殘菜消炭空俵等賣却代納證 定額殘組替證書 缺損金受入ニ對シテハ受入證書及決議書類	臨時支給ノ酒等ノ代金受領證書	賄料其他定額不足組替證書 糧食經理ニ係ヘル雜費受領證書 過年度ニ屬スル經費支出證書
代用品ニ對スル馬糧代	定額仕譯書		代用品購入受領證書	定額殘組替證書
馬匹積立金		古繩空俵等賣却代納證 定額殘組替證書	臨時加給ノ麩等ノ代金受領證書	糧食積立金ニ準ス
諸積立金利子		利子受入命令書		各積立金不足補塡組替證書

一　組替證書其他經費ノ整理ニ止ルモノハ金櫃委員首坐ニテ調製ス

二　仕譯書ハ出納官吏ニ於テ調製ス

第二號樣式

△明治三十六年度　△三十六年何月分　第何號

嘉瀾守備何兵第何大(中)隊

出納官吏(出納官吏何ノ誰分任官)

委任經理金收入(支出)證憑書

官　氏　名

「收入ト支出ハ各別冊トスヘシ」

△ハ朱書トス

第三號樣式

賄料通計表

一金	定額受入(費消)	
一金	雜　入(雜出)	

證書紙數何葉

○消毒費用支辨方ニ關シ質議回答　明治三十七年六月二十九日　混一旅副第五五二號混成第一旅團副官質議

去ル卅五年副第七二〇號ヲ以テ兵營內ニ於テ傳染病發生ノ際消毒及豫防ノ爲メ要スル費用ノ義ニ付參謀長ヨリ御通牒相成候左記第一項中消毒並ニ豫防ニ關スル費用ニシテ廳費ニ係ルモノハ旅團司令部ノ支辨トスト有之候處消毒ニ要スル藥品即チ昇汞水等ノ費用ハ廳費ニ含マズ患者費ヨリ支辨スル義ニ候哉聊カ疑義ニ渉リ候間此段及御質議

明治三十七年七月二日　副第七九二號憲俔副官回答

混一旅副第五五二號ヲ以テ三十五年副第七二〇號第二項中消毒藥支辨費途ノ義ニ付質議相成候處右ハ御來意ノ通リ消毒ニ要スル藥品即チ昇汞水等ハ患者費ノ支辨ニ屬スヘキモノニ之有候間右及回答

追而部隊ニ於テ傳染病發生以前ニ豫防ノ爲メ使用スル昇汞水等ハ廳費ノ支辨ニ屬シ候間爲念申添

○出納官吏交代ノ場合通報方ノ件　明治三十七年三月三十一日　臺經發第一、〇七七號經理部長通牒

來ル四月一日以降收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏轉免死亡停職ノトキハ歲入收納取扱規程第十一條及經費整理規程第二十八條ニ依リ檢查員派遣ノ都合有之候間事務引繼月日ヲ豫メ御通報有之度此段及通牒

○金庫所在地出納官吏現金保管金額制限　明治三十七年九月二十一日　臺經發第二、九六一號經理部長通牒

出納官吏現金取扱規則第九條ニ依リ金庫所在地ニ在リテ小口ノ現金仕拂ヲ要スル現金保管金額ノ制限ハ自今金參百圓以内ト相定メ候間此段及御通牒

○委任經理檢查証明手續附屬樣式第一號表

（明治三十六年十月二十六日守步九會發第二六一號步兵第九大隊長照會）

二就テノ件

守備隊交代途中又ハ其他ノ用務ニ依リ出張先宿舍給與ヲ爲シタル下士以下ノ糧食ヲ旅費ヘ差繰キタル定額ハ委任經理外ナル趣ヲ以テ當隊出納官吏ヘ御審理相成候處本年四月臺經發第二、四八八號ヲ以テ委任經理檢查及證明手續附屬樣式第一號表中旅費等ヘ入戻證書又ハ演習等ヨリ定額組替證書トアリ又仝月臺經發第一、五〇六號ヲ以テ御送付ノ委任經理決算證明ニ要スル證書式中精米ニ對スル代金渡定額受入仕譯書ニ旅費ニ差繰タル精米代トアリ且ツ糧食費ヨリ旅費ヘ入戻シタル組替證書トアリ又仝月臺經發第三、八六三號經理部長回答ノ糧食費ナルモノハ本質ハ委任經理ノモノニ付仮令入戻ノ如キ定額支辨ノ者ト雖モ委任經理ノ決算ニ相立テ證明スヘキヤ正當ナラントノ御趣意ニ付テハ前記御通牒ノ附屬樣式等ハ如何ナル御趣旨ニ有之候哉御承知致度此段及御照會候也

（明治三十六年十一月二日臺經發第三、八六三號經理部長回答）

守步九會發第二六一號ヲ以テ御照會ノ趣了承左記ノ通ニ候條御承知相成度此段及御回答

左記

本年四月臺經發第一、四八八號委任經理檢查證明手續附屬樣式第一號表中旅費等ヘ入戻證書及仝月臺經發第一、五〇六號委任經理決算證明ニ要スル證書中精米ニ對スル代金渡定額受入仕譯書ニ旅費ニ差繰タル精米代トアリ且ツ糧食費ヨリ旅費ヘ入戻ヲナス組替證書書式等ヲ明示セシハ委任經理體ニ於テ委任經理ニ屬スル糧米賄料ノ概算渡ヲ受ケタル場合ニ該概算渡ノ内ヨリ旅費等ニ入戻ヲナシタルヤ又ハ糧食費ヲ以テ糧食費ヲ受ケアル場合ニハ適用セサルモノトス

又本年四月臺經發第一、四八八號委任經理檢查證明手續附屬樣式第一號表中演習費等ヨリ定額組替證書トアルハ委任經理ノ狀態ニ於テ演習上夜食料ノ受領權ヲ生シタル場合ノ組替證書等ニ適用スヘキモノトス

○委任經理收支決算一ケ年度一回証明方之件

（明治三十六年七月十四日十四憲發第三〇四號第十四憲兵隊長協議）

委任經理ニ係ル金錢ノ出納ニ關シ便宜上每月若クハ數月ノ計算ヲ證明スヘキ規程ニ候處當隊ノ如キ小數ノ馬匹ニ在テハ金錢ノ收支僅小ナルノミナラス出納ノナキ月モ可有之ニ就テハ本年度以降年一回決算證明ノ手續ニ致度候條貴部御意見承知致度此段及御協議

（明治三十六年七月十七日臺經發第二、五七一號經理部長回答）

貴隊委任經理ニ係ル金錢收支決算證明方每年度一回證明ノ事ニ取計度十四憲發第三〇四號

第二十二類　出納・整理

ヲ以テ御協議相成候處右ハ整理上ノ必要有之候條本年四月臺經發第一、四八八號通牒當部檢査ニ係ハル委任經理檢査及證明手續第三條ニ依リ毎月決算證明相成度此段及回答追テ收支ナキ月ニ在リテハ其旨通報相成可然右申添

第二十二類　出納　整理

フ以テ御協議相成候處右ハ整理上ノ必要有之候條本年四月臺經發第一、四八八號通牒當部檢査ニ係ハル委任經理檢査及證明手續第三條ニ依リ毎月決算證明相成度此段及回答
追テ收支ナキ月ニ在リテハ其旨通報相成可然右申添

○演習ヲ施行スル部隊外ノ者旅費支給方ノ件

明治三十五年十二月三日
送乙第二七三二號庶務課長通牒

演習ヲ施行スル部隊外ノ者ニ係ハル旅費支給方ニ關シ別紙ノ通會計檢査院部長ヨリ照會有之候處右ハ實施、出張、見學、共總テ陸軍旅費規則第二十二條第六項ニ依リ往復ハ第一表施行地内ハ第四表旅費ヲ支給スヘキハ勿論ニ有之候ニ就テハ支給上區區ニ不相成樣御注意相成度爲念此段及御通牒

（別紙）　明治三十五年十一月十二日
送第二四六號會計檢査院部長ヨリ照會

演習ヲ施行スル部隊外ノモノニシテ實視又ハ視察ノ爲メ旅行ニ係ル旅費ハ陸軍旅費規則第二十二條第六項ニ依リ往復ハ第一表施行地内ハ第四表ノ額ヲ給セルモノアリ又ハ全然第一表ノ額ヲ給シタル分モ有之支給上區區ニ相成居候條何レカ一定ノ上一般ニ御訓達相成候樣致度此段及照會

追テ本文御決定ノ上ハ何分ノ御回報相成度此段申添

○旅費支給方ニ關スル件

明治三十二年八月二十五日
號外第十五憲兵隊軍吏實講

一　旅費概算渡ニ對シ精算證書調製方ハ曩ニ御指示相成候處該精算證書中内（外）金高ニ對シテハ別ニ受領證若クハ返納證ヲ添附スル義ナルヤ

二　右精算證書ハ一名ニ對スル雛形ニ有之候處當隊ノ如キ數百名ノ滿期歸還者悉皆前渡金

ヨリ概算渡致居候右數名同時ニ精算致候場合ニ於ケル雛形モ御示相成度

三　滿期歸還者ニシテ旅費受領ノ上他ニ奉職ノ目的若クハ自己ノ便宜ニ依リ尚滯在セルモノ有之候由傳聞ス右ノ如キハ無論旅費返納可爲致義ト存候右歸還者ニハ滿期當日ヨリ旅行日數ヲ計算シ最近ノ便船ニ乘船セサルモノニハ假令其次ノ便船ニ乘船スルモ旅費ハ支給セサル義ト心得可然哉果シテ然ラハ右ノ者九十日以內ニ舊任地ヘ歸著歸鄉旅費請求スルトキハ歸還旅費ヲ支給スルノ奇觀ヲ呈ス

四　本島內水路旅行ニ實費ニ有之候處當隊ノ如キハ陸路ト雖モ旅費實費支辨ヲ命セラルル事往往有之候元來日當ハ旅行ノ水路陸路トヲ問ハス如何ナル費用ニ充ツヘキモノニ有之候哉（晝食料ノ如キハ宿泊料ノ內ニ含有ノ義トモ存候）貴部ノ御定議承知致度

五　四里以上ノ地ニ一日ニテ往復スル等ノ際晝食料ハ宿泊料三分一迄ハ支拂（假令宿泊料ノ內ニハ宿舍料ヲ含有スト雖モ）フコトヲ得ルモ其以上ハ支給出來サル義ニ有之候哉

六　船待滯在證明ハ從前補給廠ヨリ前報有之候處當地ノ如キハ便船出帆ノ時日其都度該補給廠ニ付乘船ノ期日明瞭ニ有之候就テハ滿期歸還者等ニシテ乘船迄取締其他ノ便宜上當地ニ船待滯在セシメシ場合ハ當隊ノ證明書ニテ差支無之哉

明治三十二年九月十一日
臺監乙第一四三二號監督部長回答

一　添付ノ意味了解シ難キモ受領證若クハ返納證ハ精算證書ト同時提出ヲ要ス

二　一通ノ證書ニテ數名同時ニ精算スル如キハ代理精算ヲ爲ス等ノ節ナランカ果シテ然リトセハ臨時ニ屬スル事項ニ付書式ヲ示スノ限リニアラス一名ノ書式ニ準シ適宜調製可然

三　滿期歸還者ハ歸鄉者トハ性質ヲ異ニスルヲ以テ已ムヲ得サル事故ノ爲メ隊長ノ承認ヲ得テ出發延引スルモノノ外ハ命令通出發スヘキ筈ナリ自己ノ便宜ニ依リ歸還セサル者ニハ旅費支給ノ限リニアラス歸還旅費ハ歸鄉旅費ト連繫セサルモ可ナリ

四　旅費規則中明記アキ分ハ實費拂ヲナスヘキ筋ナラス

五　宿泊セサルモノノ宿泊料ヲ給スルコトナシ

六　隊長ニ於テ必要ヲ認メ其地ニ滯在セシメタルトキハ該隊長其事由ヲ證明スレハ補給廠ノ證明ヲ要セス

㈥罰金刑ニ處セラレタル軍屬ヘ旅費支給方

明治三十四年六月四日
臺衞監丙第一六八號臺北衞戍監獄長質議ノ件

軍屬（軍役志願者及馬丁ノ類）ニシテ當獄ニ收禁中判決ノ結果罰金刑ニ處セラレ直ニ所屬部隊ニ復歸スル者ニ在テハ陸軍旅費規則第十七條第五項ニ依リ旅費ヲ支給スヘキ者ト被存候得共（解傭者ハ除ク）疑義相生シ殊ニ差掛リノ義モ有之及質議候條折返御回答煩度

明治三十四年六月五日
臺監乙第九〇〇號監督部長回答

第二十三類　旅費

罰金ニ處セラレタル軍屬ニシテ所屬部隊ヘ復歸スル者ヘ旅費支給方ノ件ニ付臺衞監丙第一六八號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ陸軍旅費規則第二十一條第五項及第三十一條ニ依リ同第十一表ノ旅費ヲ支給相成可然存

○旅費規則改正ニ係ル經費支辨方之件　明治三十五年九月二十五日送乙第二一四二號總務長官通牒

今般陸軍旅費規則第二十二條末項改正ニ依リ所屬長官ノ見込ヲ以テ第四表ノ倍額以內ヲ支給スルトキ其增費ハ各部局豫算定額內ニ於テ繰合セ支辨ノ儀ト承知相成度此段及通牒

○旅費規則改正ニ係ル演習出張竝見學者旅費ノ件　明治三十五年九月二十六日送乙第二一六八號總務長官通牒

今般陸軍旅費規則中改正セラレ演習ニ關シ出張竝見學者ニ給スル第四表旅費ハ所屬長官ノ見込ミニ依リ倍額迄支給シ得ルコトト相成候處機動演習ノ際等各地ヨリ同一地方ニ旅行スル者ニ對シテハ給額區區ニ相成ラサル樣一定スルノ必要有之候ニ付右等ノ場合ハ統監部ノ爲メニ定メタル給額ニ依ル儀ト承知相成度此段及通牒

○看護學竝擔架術修業ノ爲メ旅行者旅費支給方ノ件　明治三十二年十月六日臺守步五會發第二一二號步兵第五大隊軍吏實議

看護學竝擔架術修業ノ爲メ分遣隊ヨリ本隊ヘ出隊ノ者旅費ハ實費拂ニ有之候哉又ハ旅費規則第十一表ノ額ヲ給シ可然哉

明治三十二年十月十一日臺監乙第一六〇三號監實部長回答

看護學竝擔架術修業ノ爲メ旅行者旅費支給方ニ付臺守步五會發第二一二號ヲ以テ問合ノ趣了承右ハ單獨旅行ナルニ於テハ第十一表ノ定額隊伍ヲ編成シ軍隊旅行ニ屬スル筋ナレハ實費支辨ノ義ト承知可有之（隊伍ヲ爲スモノニ在テハ軍隊旅行ニアラサルモ實費支辨トス）

○守備隊交代輸送中派遣軍醫旅費支給方ノ件　明治三十六年四月二十七日基經第四七〇號基隆補給支廠長通牒

臺灣守備隊交代輸送中當支廠ヘ派遣ノ衞生事務取扱軍醫當地滯在中ノ旅費支給方ノ件ハ別紙補乙發第四三七號寫ノ通リ補給本廠長ニ於テ決定ノ旨回答有之候條右樣御承知相成度

（別紙）　明治三十六年四月廿一日補乙發第四三七號

臺灣守備隊交代輸送中基隆支廠ヘ派遣スヘキ軍醫滯在旅費ノ件取調候處旅費規則第三十一條ニ據リ著後三十日間（第三十一條第二項ニヨリ日數計算）ハ同第十一表備考第二項ニヨリ官用宿舍ニ宿泊セシメ日當及宿泊料（食卓料ニ相當スル額）ヲ給シ三十一日以後ハ之ヲ止メ第一表ノ宿泊料ヲ給スル事ニ決定相成候間滯在旅費ハ貴支廠ニ於テ輸送費ヨリ支出相成可然此段依命申進

追テ陸軍幕僚參謀長ヘモ意見御問合相成候處滯在旅費ハ輸送費ヨリ支辨シ差支ナシト思フ當經理部モ同意見ナリト返電有之候ニ付御參考迄申添

○軍醫派遣旅費支給區分ノ件　明治三十五年五月五日副第四八五號臺條參謀長通牒

第二十三類　旅費

本年守備隊要員交代規定細則第十二條及第十七條ニ依リ派遣並歸還隊ニ附屬ヘキ軍醫ニ係ル旅費ハ軍隊ニ附屬中ハ該隊交代員ト同樣ノ給與法ニ依ル義ニ候條此段及御通牒追テ派遣隊ニ合スルマテ及歸還隊ヲ離レ歸著マテ單獨旅行中ハ旅費規則第十一表ノ定額ヲ支給スル義ニ候條此段申添

○守備交代ニ付派遣軍醫及補充馬匹衛生事務取扱ノ爲メ派遣獸醫旅費ノ件　明治三十六年六月十九日　副第六三五號臺軍參謀長通牒

本年度以降守備隊交代輸送中基隆補給支廠ヘ派遣ヲ命セラレタル軍醫並ニ補充馬匹輸送航海中馬匹衛生事務ノ爲メ臺灣陸軍補給廠ヘ派遣ヲ命セラレタル獸醫ノ旅費ハ補給廠ニ於テ輸送費ヨリ支出ノ事ニ相成候條右及御通牒追テ昨三十五年副第四四二號通牒ニ依リ基隆迄ノ旅費支給ノ部隊ニアリテハ此際引直シ相成度申添

○看病人旅費支給ノ件　明治三十四年四月二十六日　南院會第二二二號臺南衛戍病院軍吏質議

當院看病人多數缺員補充困難ノ折柄今般憲兵條例改正ノ結果第十五憲兵隊ニ於テ看病人ニ過員相生シ解傭セラレ候者有之候ニ付更ニ當院ニ於テ補充ノ爲メ傭入候處右看病人ニシテ最初内地ヨリ派遣ノ者ニ將來當院ニ於テ解傭内地ニ歸還スルトキハ旅費規則第三十一條第四項ニ依リ憲兵隊ニ於テ最初傭入地迄旅費支給シ可然哉

明治三十四年五月三日　臺監乙第七三七號監督部長回答

四月三十六日南院會第二二二號ヲ以テ十五憲兵隊ニ於テ解傭ノ看病人ヲ貴院ヘ傭入將來解傭内地ヘ歸還スルトキノ旅費支給方御照會ノ件ハ御意見ノ通支給相成可然存ス追テ本文旅費ハ貴院豫算ヨリ支辨ト承知相成度爲念申添

○歩行シ難キ受診患者ニ旅費支給スヘカラサル件　明治三十二年七月十七日　臺監甲第二五五號監督部長質議

旅費支給上ニ付左ノ件御意見承知致度

一本島内ニ在テハ憲兵分屯所若クハ補給廠出張所ノ如キハ各所ニ散在シ別ニ軍醫モ附屬セス又地方ニ依リ地方醫師モ無之ニ付患者有之節ハ附近守備隊若クハ衛戍病院ニ就キ受診致來候處其歩行シ難キ患者ニ在テハ旅費規則第二十六條但書ニ準シ一里以上ヘ里程ノ遠近ニ拘ハラス車馬賃ノ實費ヲ支給シ可然ヤ

一前項ノ者旅行ノ都合上宿泊ヲ要スルトキハ實費ノ宿泊料ヲ支給シ可然ヤ

二　明治三十二年九月三日　經一發第三三七號經理局第一課長回答

臺監甲第二五五號ヲ以テ御照會ノ件右ハ旅行ノ性質ニアラサルヲ以テ旅費支給ノ限リニ無之

○入院患者旅費支給方ノ件　明治三十四年七月九日　臺守歩會發第一八二號守備歩兵第五大隊軍吏質議

當分遣隊會文溪中隊ノ下士以下入院患者ハ臺南衛戍病院ヘ途中護送兵ヲ附シ入院セシメ候

第二十三類　旅費

右護送兵及患者ノ旅費往路ハ單獨ニテ旅行スルニヨリ旅費規則第十一表ノ定額旅費ヲ支給シ可然ヤ將タ旅行ノ性質前後同一ニ付所屬長官ノ認可ニ依リ往返共車馬賃實費ヲ支辨シ可然ヤ疑義相生候間至急何分ノ御明示相成度

（明治三十四年七月十六日　臺監乙第一〇八二號監督部長回答）

護送兵ヲ附シタル入院患者及同護送兵旅費ノ義ニ付會發第一八二號ヲ以テ貴隊軍吏ヨリ照會ノ趣了承右護送兵ハ患者看護ノ目的ニアラスシテ途中ノ危險ヲ顧慮シ附セラレタルモノト存候就テハ患者旅費及護送兵（隊伍ヲ爲スモノハ實費トス）往返旅費共陸軍旅費規則第十一表ノ定額支給相成可然存

（明治三十四年一月十二日　副第四九號臺僚副官通牒）

○傭小使等ヘ旅費支給ノ件

（明治三十四年一月　混二發甲第二號混成第二旅團長申請）

傭小使等ヘ旅費支給ノ件ニ付混成第二旅團長ノ申請ニ對シ別紙ノ通御指令相成候條爲御心得及通牒

（別紙）

團下林圮埔分院ニ於テ傭小使入用ノ處同地ニ志願者無之ニ付本院傭小使ヲシテ派遣爲致度就テハ右旅費ノ義內地ヨリ臺灣派遣ノ傭小使及傭厨夫ノ派遣ノ際ハ駐劄地迄歸還ノ際ニ拜命地迄陸軍旅費規則第十一表傭人ノ額支給相成居候ニ付右ニ準シ旅費支給致度

追テ將來傭看病人傭厨夫及傭馬丁ノ如キモ本文ニ準シ旅費支給致度

（明治三十四年一月十一日　臺令）

申請之通認可ス

○軍役志願者旅費ノ件

（明治三十四年七月二日　副第七八二號臺僚參謀長通牒）

客月七日附（同月十七日官報ニ登載）臺灣總督府令第三十八號軍役志願者規則第三十二條ノ入營及歸鄉旅費ハ旅團司令部內國旅費豫算定額內ニテ支辨ノ義ト御承知相成度此段及御通牒

○軍役志願者入營旅費支給ノ件

（明治三十四年十一月十六日　副第二二六〇號臺僚副官通牒）

混二發甲第二五六號軍役志願者旅費支給ノ義ニ付不明ノ件質議ノ趣左ノ通御承知相成度

第一　後段御見解ノ通

第二　日數ヲ計算スルハ陸軍旅費規則第十一條ニ準據シ又近傍三里未滿ハ旅費ヲ給セス但水路ニアラサレハ旅行シ難キトキ五海浬未滿ハ日當ヲ一海浬未滿ハ船賃ヲ給セス

前項中汽車路ハ陸路ニ改算シ三里滿未滿ヲ定ム

（明治三十四年十一月十一日　混二發甲第一五六號第二旅團副官質議）

軍役志願者旅費支給ノ義ニ付不明ノ件左ノ通及御質議

一　本年七月臺灣總督府令第三八號軍役志願者規則第三十二條ノ旅費ハ其支辨ノ箇所ハ同月副第七八二號ヲ以テ參謀長ヨリ通牒相成候處其支給方ニ就テハ明文無之右ハ三

十三年省令第一號陸軍召集旅費支出規程第四條ニ依リ各辨務署長ニ出納官吏ヲ命シ支給セシムル義ナルヤ又ハ到著ノ上編入部隊ニ於テ支給スヘキモノナルヤ

（彰化臺中ヨリ斗六ニ入營セシムル者等）

二　同令第二表ノ新費額ハ日當金三十錢トアリテ里程計算法無之就テハ里程ノ遠近ニ係ハラス鄉里出發ノ日ヨリ入營當日迄ノ日數ニ應シ支給シ又鄉里出發當日入營スルモノノ如キモ日當支給シ差支無之哉

㊀四里未滿ノ地ニ於ケル實費車馬賃支出

限界　明治三十三年二月二十二日臺步會第三三七號步兵第一大隊軍吏質議

客年七月發布ノ陸軍旅費規則第八條第二項ニ依レハ近傍四里未滿ノ地ニ在ル軍隊間ヲ往復スルモノニハ旅費ヲ給セサル事ニ相成候處若シ至急ヲ要スル場合ニ在リテ該部隊長ニ於テ車馬或ハ汽車ノ旅行ヲ許可シタルトキハ旅費ノ科目ニテ右車馬賃又ハ汽車賃ヲ支拂可然哉

聊カ疑義相生候ニ付此段及質議

明治三十三年二月二十七日臺監乙第三二一號監督部長回答

近傍四里未滿ノ地ニ在ル軍隊官衙間往復ノ際至急ヲ要シ部隊長ニ於テ乘車ヲ許可シタルトキハ其乘用汽車賃若クハ車馬賃仕拂科目ノ義ニ付臺步會第三三七號ヲ以テ御質議ノ趣了承右ハ官給ス可キ筋ニ無之候條右御承知相成度

追テ至急ヲ要スル場合ハ車馬借切使用差支無之其車馬賃ハ雜給雜費ニ屬ス

○憲兵隊附下士上等兵現役滿期歸鄉旅費支給方

ノ件　明治三十二年八月二十二日憲進第七三四號憲兵司令官伺

臺灣憲兵隊附下士上等兵ニシテ現役滿期其他病氣事故ニ因リ免官免役トナリタルモノハ一旦舊任地ニ歸還シ歸鄉旅費ヲ受領スヘキ成規ニ有之候處其舊任地憲兵隊ニ在ヤハ軍隊若クハ他ノ官衙ト異ナリ多クハ各地ニ散在スル分隊屯所ナルヲ以テ右等ノモノニ對スル旅費支給方ハ本人到著ノ請求ノ都度其滯在地（舊任地）ニ憲兵隊本部ヨリ送金スルカ若クハ本人ヲシテ旅費受領ノ爲メ本部ト舊任地間ヲ往復セシメサルヲ得サルニ至ル然ルニ豫メ各舊任地ニ向テ送金ノ取扱ヲ爲シ置タカ如キハ陸軍旅費規則第十四條ニ違反スルニ依リ此手段ヲ執ル能ハス前述ノ樣ノ手續ニ出テサルヘカラス故ニ時宜ニ依リ滯在セシメ或ハ受領ノ爲メ往復セシメ更ニ之ニ對スル旅費支給ヲ要スル等ノコトナシトセス且憲兵條例改正ノ爲メ分隊屯所廢合ノ結果舊任地ニ憲兵屯所ナキモノノ如キハ總テ本部ニ至ラシメサルヲ得サル義モ有之候ニ付自今憲兵隊ニ在テハ舊任地ノ本部所在地外ノ分隊外ノ分隊屯所ニ係ルモノモ悉皆其所屬憲兵隊本部ト定メ又臺灣島及威海衞駐劄部隊ニ於ケル前任地（師團新設ノ爲メ駐劄前ト駐劄後ト衞戍地ヲ異ニスル軍隊アリ斯ノ如キハ現今ノ衞戍地トス）ヲ管轄スル憲兵隊本部所在地ヲ以テ舊任地トシ取扱ヲ爲ストキハ自ラ經理機關ノ存置アル等ニ依リ彼我ノ便益鮮少ナラスト存候ニ付御許可相成度臺灣陸軍監督部長憲兵書相添ヘ此段相伺

第二十三類　旅費

明治三十二年九月六日
貳第二二九二號陸軍大臣指令

伺之通

○外宿加俸ヲ受クル下士現役滿期ノ者歸還旅費ニ關スル件　明治三十二年七月十日　十五憲兵隊軍吏質議

一　臺灣在勤者ニシテ外宿加俸ヲ受クル下士現役滿期ノ者ハ舊任地若クハ新任地迄歸還セシムル成規ニ有之候處右歸還旅費ハ歸鄉旅費トハ異ナル義ニテ官船便乘糧食官給ノ場合ニ在テ日當ハ現日數ニ應シ支給スヘキモノニ有之哉

二　前項ニ該當スルモノ去月盡日數百名有之官船便乘中ノ日當未支給ノ儘歸還致候處果シテ現日數ニ應シ日當ヲ支給スルトセハ何日何地ヨリ陸セシ旨船長若クハ補給廠ノ證明書ヲ提出證明ノ上ナラテハ日當支給致兼候義有之候哉

三　前項歸還者ノ旅費ハ無論概算渡トナスヘキ義ニ有之候哉　明治三十二年七月十九日　臺監乙第二〇七號監督部長回答

第一項　現日數ニ應シ支給スルモノトス

第二項　證明書提出ニ及ハス經歷書ニテ差支ナシ但事故ノ爲メ延著セシトキハ經歷書ニ證明書ノ添附ヲ要ス（臺灣陸軍補給廠運輸規定ニ定ムル證明書添附ヲ要ス）

第三項　概算渡ヲ正當トス

○現役滿期歸還ノ者ニ係ル旅費ノ件　明治三十三年一月二十二日　臺監甲第三〇號臺灣陸軍監督部長質議

現役滿期歸還者旅費支給方ニ關シ左ノ件件何分ノ御明示相成度

一　現役滿期歸鄉スヘキ者ニシテ原隊ヘ歸還ヲ被命候者旅費ノ義ハ退營ノ日ニ請求シ直ニ出發可致筋トハ被存候得共自然尋常ノ轉任者ニ異リ候爲メ往往數十日ヲ經過シ請求スル向有之候處右ハ歸鄉旅費ニ準シ九十日以內請求ノ者ニハ支給シ差支無之候哉

二　前項九十日以內請求スル者ニ差支ナシトスルトキハ年度區分其他ニモ關係ヲ有シ候得共歸鄉者同樣取扱候ハハ右等ニ對シ如何ノ取扱可然哉　明治三十三年二月十日　臺報經理局第一課長回答

前二項ノ通難取扱候ハハ右等ニ對シ如何ノ取扱可然哉

臺監甲第三〇號質議ノ件原隊ヘ歸還迄ハ歸鄉ノ事實生セサルニ依リ歸鄉旅費ニ準スル限リニ非ス尤モ歸還ノ際支給洩ノ者ニ對シテハ年度經過後ニアリテノ過年度支出ノ手續ヲ以テ支出シ可然

○屬官ニ任用セラレタル現役滿期下士歸鄉旅費ノ件　明治三十二年五月二日　臺監甲第二五一號監督部長質議

憲兵曹長ニシテ本島ヘ派遣中明治三十一年六月現役滿期トナリ即日臺灣總督府屬ニ任用セラレ陸軍幕僚在勤ノ處今般休職トナリ歸鄉致候者有之然ルニ本人ハ現役滿期ノ後九十日以內ニ旅費ノ請求ヲ爲ササルヲ以テ今日ニ在テハ既ニ請求權利消滅セシ筋ニハ候得共右等ハ臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則細則第十七條第二項ヲ適用シ鄉里迄屬官ノ旅費ヲ支

給シ可然哉

（明治三十二年五月二十五日 經一發第二一二號經理局第一課長回答）

臺監甲第二五一號ヲ以テ御照會相成候件右ハ屬官相當ノ旅費ヲ憲兵下士ニテ舊内地在職地迄支給相成可然

○歸還途中死亡者旅費支給ノ件（明治三十三年五月二十日 十五憲會發第五八號十五憲兵隊軍吏質議）

陸軍旅費規則第十八條ニ據レハ公務旅行中現役滿期トナリタルモノハ該地ヨリ舊任地マテ第一表ノ旅費ヲ給ス死亡スルモノ亦同シト有之モ現役滿期者ニシテ歸還ノ者途中ニ於テ死亡セシトキハ該地ヨリ歸還地迄ノ旅費ハ返納セシムヘキ義ナルヤ將タ該地ヨリ歸還地迄支給シ差支無之哉別ニ明文モ無之聊カ疑義相生候條此段及御質議

（明治三十三年五月二十九日 臺監乙第九二二號監督部長回答）

現役滿期歸還途中死亡セシ者旅費支給方ノ義ニ付憲會發第五八號ヲ以テ質議ノ趣了承右ハ陸軍旅費規則第十八條ニ準シ歸還地迄支給相成可然

○歸還者旅費給與方及支給官廳區分ノ件（明治三十二年六月十五日 憲住第三六二號十三憲兵隊長質議）

左記ノ場合ニ於ケル旅費給與方陸軍旅費規則中明文無之樣被存候ニ付如何積算シテ請求セシメ可然哉

一　休職停職豫備後備役將校ニシテ在鄉中辭令ヲ受ケ直ニ臺灣駐劄部隊ニ在職シ爾後再ヒ休職停職トナリ若クハ其職務ヲ免セラレ内地ニ歸還ノ場合ニ於ケル旅費

二　歸休兵若クハ豫備後備役下士以下在鄉中憲兵科ニ轉科シ直ニ臺灣駐劄隊附トナリ若クハ同隊ニ編入セラレ爾後現役滿期内地ニ歸還スル場合ニ於ケル旅費

三　陸軍旅費給與規則第三十一條第三項ノ歸還旅費同第四項ノ歸鄉旅費支給官廳ノ區分

四　陸軍旅費給與規則第三十一條第三項中駐劄トハ韓國若クハ臺灣ニ駐劄ノ義ト解釋セラレ候果シテ然ラハ威海衛ヨリ直ニ臺灣駐劄隊附トナリ若クハ同隊ニ編入セラレタルモノ爾後現役滿期トナリ内地ニ歸還ノ場合ニ於ケル旅費及支給官廳ノ區分

五　陸軍旅費規則第三十一條第三項中豫備後備役後備役退役トナリ云云トハ現役ノモノニシテ豫備後備役後備役退役トナリタル場合ヲ指シタルモノト解釋セラレ候果シテ然ラハ元來豫備後備役ノモノ内地ニ在職シ引續キ臺灣駐劄隊ニ轉職シ爾後其職ヲ免セラレ内地ニ歸還スル場合ニ於ケル旅費及支給方官廳ノ區分

六　陸軍旅費規則第三十一條第三項ノ歸還旅費内地ニ於ケル支給額

（明治三十二年六月十九日 臺監乙第一八〇號監督部長回答）

第一項　鄉里迄歸還旅費ヲ支給シ然ルヘシ（歸還旅費ハ歸鄉旅費トナル）

第二項　前項ニ同シ

第三項　歸還旅費ハ臺灣在職廳歸鄉旅費ハ内地舊在職廳ニテ支給シ然ルヘシ（臺灣在職廳ヨリ直チニ歸鄉スルモノハ歸鄉旅費ハ臺灣在職廳ニテ支給スルコト）

第四項　威海衛ヨリ轉入セシモノト雖モ内地ヨリ直ニ本島ニ派遣セシ者同樣ニテ然ルヘ

第五項　現役者同様ニテ然ルヘシ但支給區分ハ第三項ニ同シ

第六項　内地ニ於ケル支給額ハ第一表ニ依リ支給區分ハ第三項ニ同シ

○歸還者ニ日當支給區別ノ件　明治三十二年八月一日　陸守歩五會第一五一號歩兵第五大隊軍吏質疑

今般守備兵交代ニ際シ當大隊附ニシテ原所管（第五師團管外）ヘ歸還スル者ノ旅費ハ守備地ヨリ乘船地マテハ旅費規則第十一表ノ額内地旅行ハ同第一表ノ額官船乘込中官賄ヲ受クル場合ハ日當ノミ支給スヘキ筈ノ處其日當區別ノ義ハ基隆寄港同港出發ノ日マテ若シ寄港セサルトキハ同港通過ノ日マテハ第十一表ノ日當ヲ給スル義ト相心得可然哉

交代トシテ歸還ノ際隊伍ヲ爲ス引率官及附屬士官ノ旅費ハ實費支辨ノ處其守備地出發ノ日ヨリ衞成地歸著ノ日マテハ日當ノミ支給スルヲ以テ原所管ヘ歸還スル義ニ有之候哉又ハ官船乘込中ニ限リ日當支給スル義ト相心得可然哉

明治三十二年八月十四日　陸監乙第一二四六號監督部回答

第一項　日當ノ區別ハ基隆ニ寄港スル者ハ同港出帆ノ日迄又乘船地ヨリ内地ニ直行スル者ハ乘船地出帆ノ日迄第十一表ノ日當ヲ支給シ其後ハ第二表ノ日當ニテ然ルヘシ（寄港トハ上陸ト解ス）

第二項　交代規定ニ依リ單行セシムルモノノ外ハ旅費ハ實費支辨ニ付定額日當ヲ本人ニ支給スヘキモノニアラス但將屬士官トハ意味不明ナレトモ單衛スヘキ性質ノモノナラハ前項ノ通リ承知アレ

○無罪歸隊者旅費支給方ノ件　明治三十四年四月二十五日　澎要會第三六號澎湖島要塞砲兵六隊軍吏質議

左ノ件伸給典上疑義相生候ニ付及御問合候條何分ノ義御指示有之度

本隊兵卒軍法會議ニ收禁ノ處審判ヲ受ケ無罪歸隊ノ途中同船中ニ百斯篤病患者アリ本島ニ到著直ニ本隊ニ歸著セシテ地方隔離所ヘ隔離セシ者有之其場合ニ於テ本人ハ未歸營者ニ付後日歸隊ノ日迄ハ旅行者ト見做旅費規則第十一表ノ日當及宿泊料ヲ給シ可然哉

一　前項果シテ日當及宿泊料ヲ支給シ可然者ニ有之候得者其旅費ハ最初軍法會議ヨリ支給ヲ受ケ歸隊ノ途中ニ付其追給ハ同會議ヘ請求爲致可然哉或ハ著島ノ日ヨリハ本隊ニ於テ追給可然哉

三　又日當及宿泊料ハ支給セサル者ニ有之候得者其離隔日數中ノ食費及宿舍料其他ノ實費ハ何ノ費目ヨリ支出シ可然哉

明治三十四年五月十一日　陸監乙第七六六號經理部回答

貴隊兵卒軍法會議ノ收禁ノ處無罪歸隊途中ペスト患者ノ爲メ離隔所ヘ收容セラレタル者ヘ旅費支給方ニ付四月二十五日澎要會第三六號ヲ以テ御照會ノ件左ノ通リ御承知相成度

第二項ハ御意見ノ通リ

第二項ハ概算受ヶ爲シタルモノナラン果シテ然ラハ原支給廳ニ於テ精算ヲ爲スヘキモノ

第二十三類　旅費

ト存ス

第三項ハ第一項ニヨリ了解セラレタシ

○請願休暇歸省中轉職直ニ任地ニ赴ク者ノ旅費支給方ノ件　明治三十一年二月九日　混二監發甲第九八號混成第二旅團長伺

請願休暇歸省中轉職直ニ任地ニ赴ク者ノ旅費ハ舊任地ヨリ新任地迄赴任旅費ヲ支給シ可然哉給與令中明文無之ニ付此段相伺

明治三十一年四月七日　陸軍大臣指令

伺之趣歸省地ヨリ新任地迄ノ旅費支給ノ義ト心得ヘシ但舊任地ヘ歸廳ノ經路ニ相當スル間ハ之ヲ給セス

○守備隊交代派遣歸還員旅費額ヘ糧食費戻入ノ件　明治三十四年七月二十七日　副第八六五號臺條參謀長通牒

守備隊交代派遣員上陸後及歸還者旅費額中ニ戻入スヘキ糧食費ハ分任出納官吏ニ於テ該費ノ交附ヲ受ケ仕拂ノ時時若クハ決算ノ際戻入スヘキ筈ニ有之候處從來糧食費ノ交附ヲ受ケス旅費ヨリ支出スル爲メ一時豫算ニ不足ヲ生シ增額申請ノ向間々有之候得共旅費ヲ以テ糧食費繰替ノ義ハ不都合ニ付爾後前段ノ通御取扱相成度此段及通牒

明治三十二年九月十八日　混一旅會第一五七號混成第一旅團副官質議

陸軍旅費規則第三十一條ニヨレハ本島内ニ於テ單獨旅行ノモノハ總テ同則第十一表ノ旅費ヲ給スト雖モ今本島内ニ於テ將校演習ヲ施行スルトセンカ其集合地及解散地ヘノ往復ハ勿論第十一表ノ定額ヲ支給シ集合地著翌日ヨリ解散前日迄ニ係ル旅費ハ譬ヒ隊伍ヲナスモノニアラスト雖モ同則第二十二條第三項及第九項ニ準シ第十一表定額以内ヲ以テ實費支辨差支ナキ哉

明治三十二年九月十九日　臺監乙第一四七九號監督部長回答

將校演習旅行施行ノ際ニ於ケル旅費支給方ニ關シ混一旅會第一五七號ヲ以テ御質議ノ趣了承右ハ御意見通御取扱相成可然

○將校演習中旅費及演習手當支給ノ件　明治三十四年四月三日　臺守歩一會發第一〇七號臺灣守備歩兵第十一大隊軍吏問合

陸軍旅費規則第二十二條第三號將校演習施行ノトキハ其往復ハ第一表ニ作業中ハ第四表ニ依リ別表第六表ノ額ヲ給スト有之候ニ附テハ出發當日ヨリ歸著ノ日迄ノ週日以上ナルトキハ往復途中第一表ノ旅費ヲ支給スルニ關セス第六表ノ演習手當支給シ差支無之候ヤ何分ノ義御指示相成度

追テ同規則第二十三條但書ハ演習中悉皆第一表ノ定額支給シタル場合ヲ指シタル義ト相必得候得共如何ヤ

明治三十四年四月十二日　臺監乙第六〇五號監督部回答

將校演習旅行中演習手當支給方云々四月三日附臺守歩十一會發第一〇七號ヲ以テ御問合ノ